

守山市の人口の状況

①人口動向分析結果

2024（令和6）年9月

目 次

◆守山市の人口動向及び人口増減の要因.....	1
◇守山市の人口動向.....	1
◇守山市における人口増加の要因.....	1
◇自然増減の要因.....	1
◇社会増減の要因.....	1
1. 人口の推移.....	2
1.1 総人口の推移.....	2
1.2 外国人人口の推移.....	5
1.3 年齢3区分別人口の推移.....	6
1.4 年齢5歳階級別人口の推移.....	7
2. 世帯数の推移.....	8
2.1 総世帯数の推移.....	8
2.2 世帯人員別世帯数の推移.....	9
2.3 1人世帯の年齢構成.....	10
3. 自然動態.....	11
3.1 自然増加数の推移.....	11
3.2 合計特殊出生率の推移.....	12
3.3 年齢別出生数の推移.....	13
3.4 死亡者数の推移.....	15
4. 社会動態.....	16
4.1 転出入の経年変化.....	16
4.3 年齢別の転出入の経年変化.....	21
4.2 転出入の現況（2023年）.....	31
5. 学区別の動向.....	35
5.1 学区別人口の推移.....	35
5.2 各学区の人口の推移.....	37
5.3 学区別の転入・転出状況.....	37
[参考]	50
参考1 住宅ストックの状況.....	52
参考2 婚姻状況等の推移.....	55
参考3 守山市及び近隣市の転出入の推移	58

◆守山市の人口動向及び人口増減の要因

◇守山市の人口動向

- 守山市の人口は、増加傾向が継続しており、2023 年 9 月末時点の住民基本台帳人口は 85,846 人となっている（図 2）。ただし、2024 年の毎月人口をみると、増加から横ばいに推移しており、2024 年 6 月末時点の住民基本台帳は 85,737 人となっている（図 3）。
- 2020 年における人口（実績値）は 84,131 人となっており、R2.3 策定の人口ビジョンにおける展望値（83,746 人）を上回っている。（図 4）
- 前年人口との差をみると、2007 年には対前年比で 1,711 人増加していたが、以降は徐々に増加幅は小さくなり、2009 年以降は対前年比で 600～800 人/年の増加となっている。2023 年は 2022 年比で 307 人増にとどまっている（図 5）。
- 2022 年 3 月末以降の毎月人口を前年との差でみると、2022 年 10 月末頃までは前年比+700 人強であったが、以降、増加数は徐々に小さくなり、2024 年 6 月末時点では前年比マイナスに転じている。特にその傾向は、外国人人口よりも日本人人口において顕著である。（図 6）

◇守山市における人口増加の要因

- 本市における人口増加は、2014 年では自然増と社会増が同程度の割合となっていたが、2019～2022 年は社会増による影響が大きく、増加数の 75～87%を占めていた。しかし、2023 年は社会増が急減した（図 7）。

◇自然増減の要因

- 自然増加数は、2014 年には 300 人程度の増加であったが、以降は減少し、2019 年からは横ばいになっているものの 2023 年は 73 人の増加にとどまっている（図 19）。
- 本市の合計特殊出生率は 2022 年で 1.72 と、滋賀県、全国を大きく上回っている（図 20）。
- 母親の年齢別出生数は、25～29 歳では 2000 年をピークに、30～34 歳では 2005 年をピークに減少から横ばい傾向となっている。また、35～39 歳では 1995～2010 年にかけては増加していたが、以降は微減傾向となっている（図 21）。母親の年齢別出生率の推移は、20～24 歳の出生率が低下している。（図 24）
- 母親の年齢別出生数が多い 25～34 歳の女性人口が近年減少の傾向にあり、これは出生数が減少～横ばいとなっている一因と考えられる。（図 23）
- 一方で、死亡者数は増加傾向にあり、特に、高齢化に伴い 80 歳以上の死亡者数は増加の一途をたどっている（図 25、図 26）。

◇社会増減の要因

- 社会増加数は、2019 年以降、500～700 人前後の増加があったが、2023 年には 6 人増に急減している（図 28）。この一因としては、近年、分譲マンション等の住宅ストック供給が、周辺自治体に比べて相対的に停滞していること等が想定できる（図 92、図 93）。
- 年齢 5 歳階級別の純移動数をみると、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」の転出超過が拡大しており、男性よりも女性の方がその傾向が顕著である（図 34～図 36）。
- 本市への転入者は、20 歳代、30 歳代の若い年代の人数が多く、2023 年では 20 歳代が 39%、30 歳代が 25%を占めている（図 37、図 40）。また、転出者も 20～30 歳代が多く（図 38）、入学や就業、住宅取得など、ライフステージのイベントに伴う移動が多いことが推察される。

1. 人口の推移

- 総人口は増加傾向が続いているが、近年の増加数は2005年頃よりも少なくなっている。
- 65歳以上人口は、一貫して増加しており、総人口に占める割合も増加傾向にある。
- 一方、生産年齢人口（15～64歳）が総人口に占める割合は減少傾向にある。

本市の総人口の推移、外国人人口の推移、年齢3区分別人口の推移、年齢5歳階級別人口の推移を以下に整理した。

1.1 総人口の推移

- ・本市の国勢調査総人口は、1995年から2020年まで一貫して増加している。
2000年から2005年、2005年から2010年は5,000人以上増加していたが、2010年以降は約3,300～3,400人の増加となっている（図1）。
- ・住民基本台帳による人口で見ると、2020年以降も2023年までの間に約1,700人（5.0%）増加している（図14）。

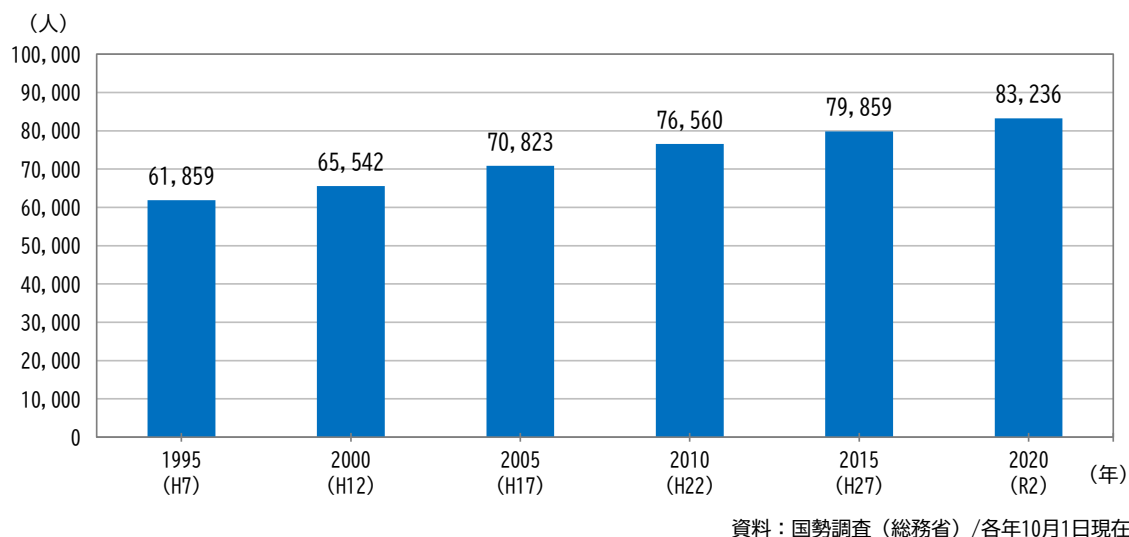


図1 総人口の推移（国勢調査）

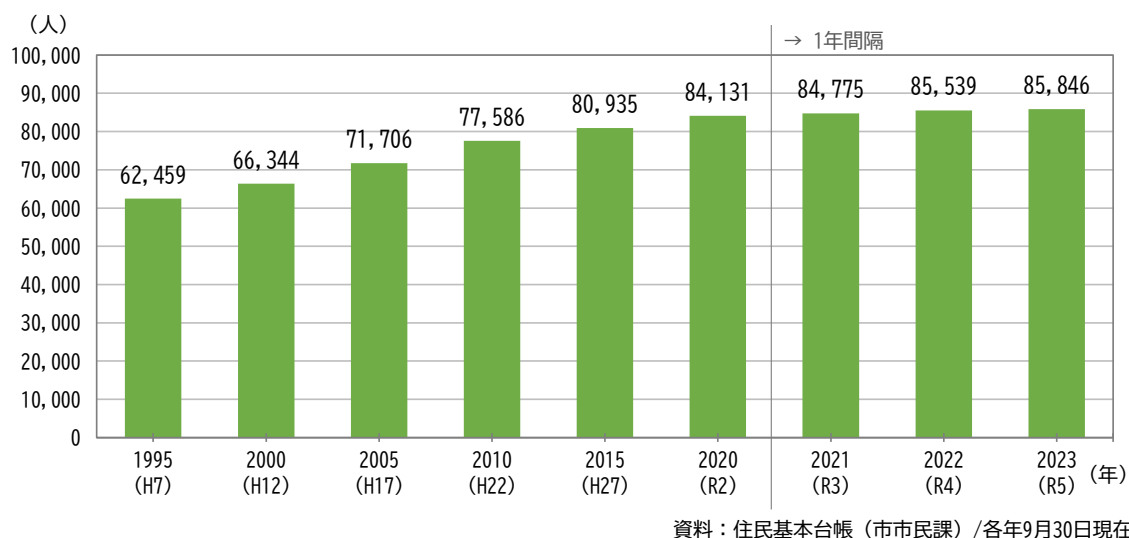


図2 総人口の推移（住民基本台帳）

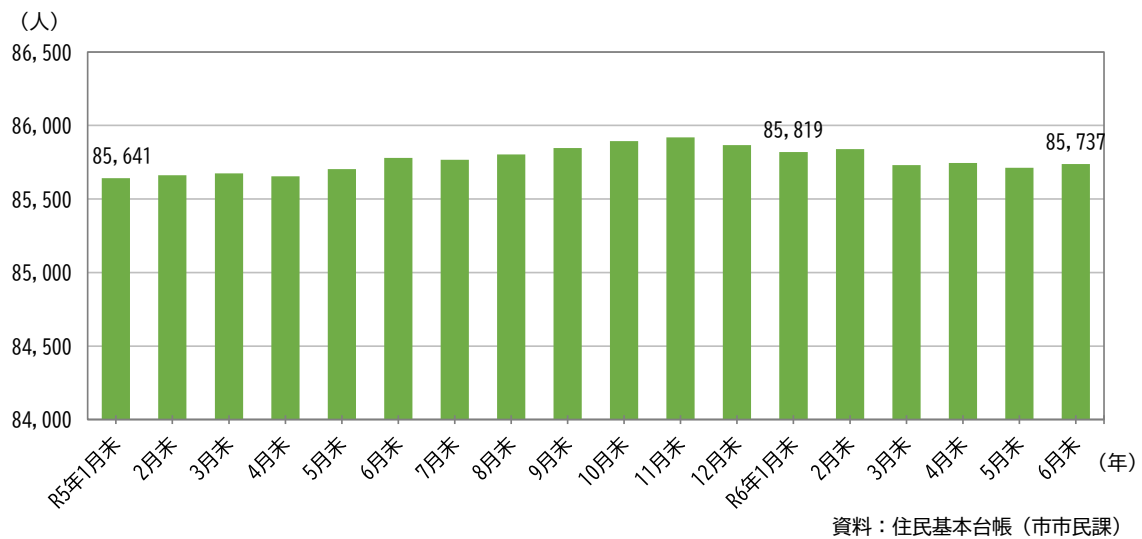


図 3 直近の毎月人口（住民基本台帳）

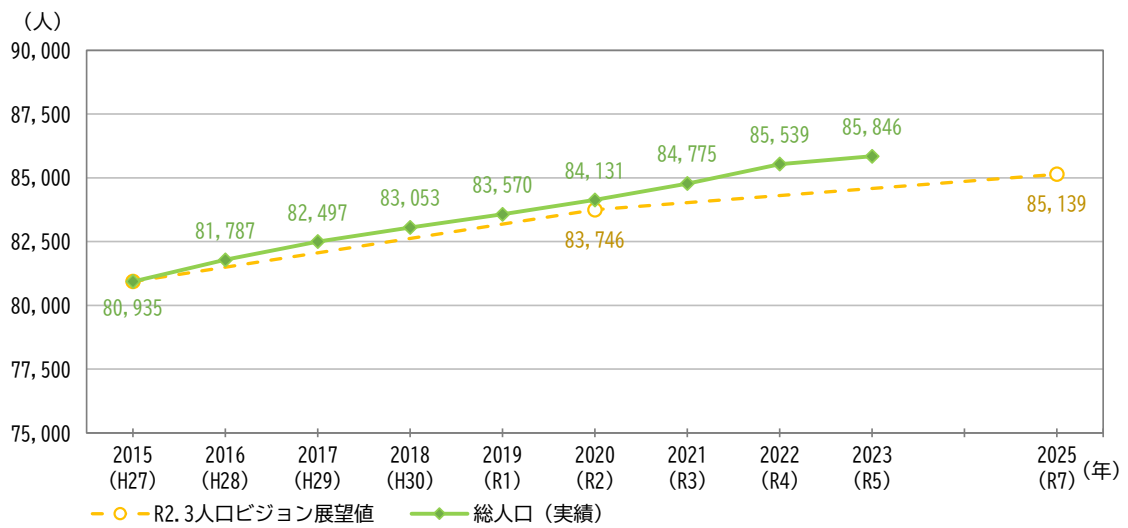


図 4 総人口（実績）と人口ビジョン（R2.3）展望値の比較

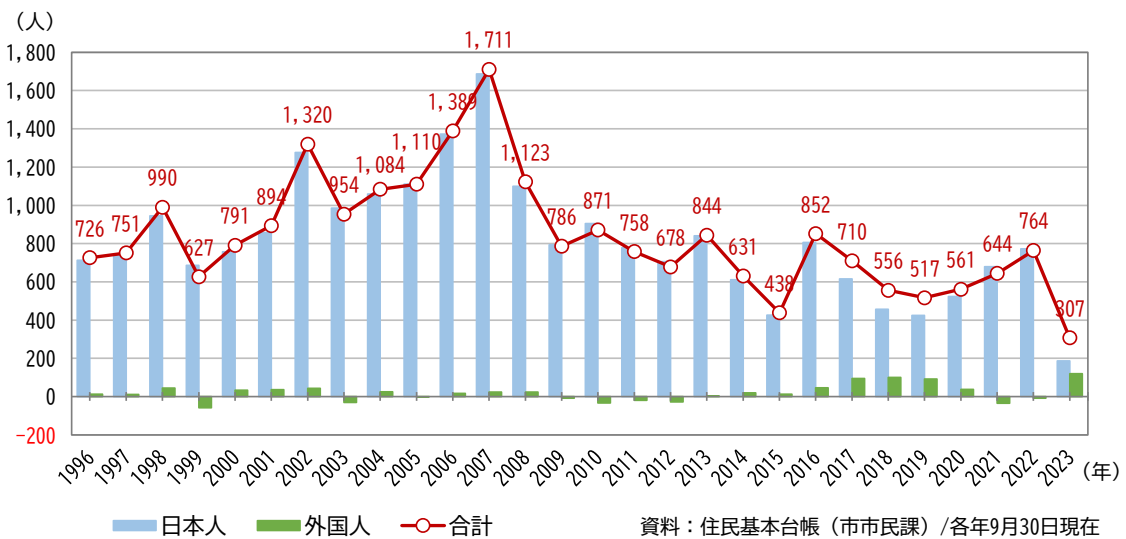


図 5 前年人口との差の推移（住民基本台帳）

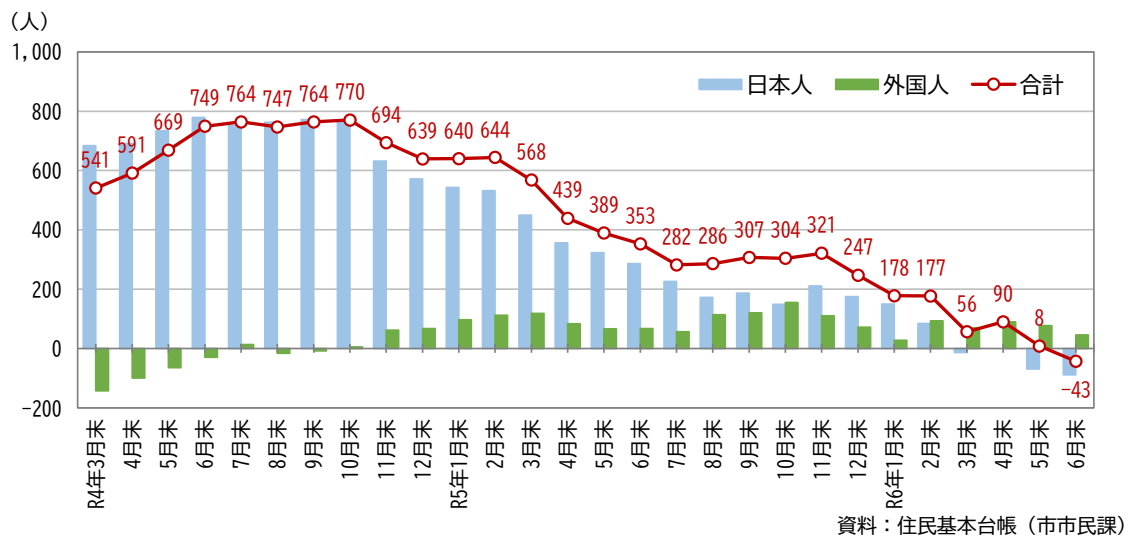


図 6 前年同月人口との差の推移（住民基本台帳）

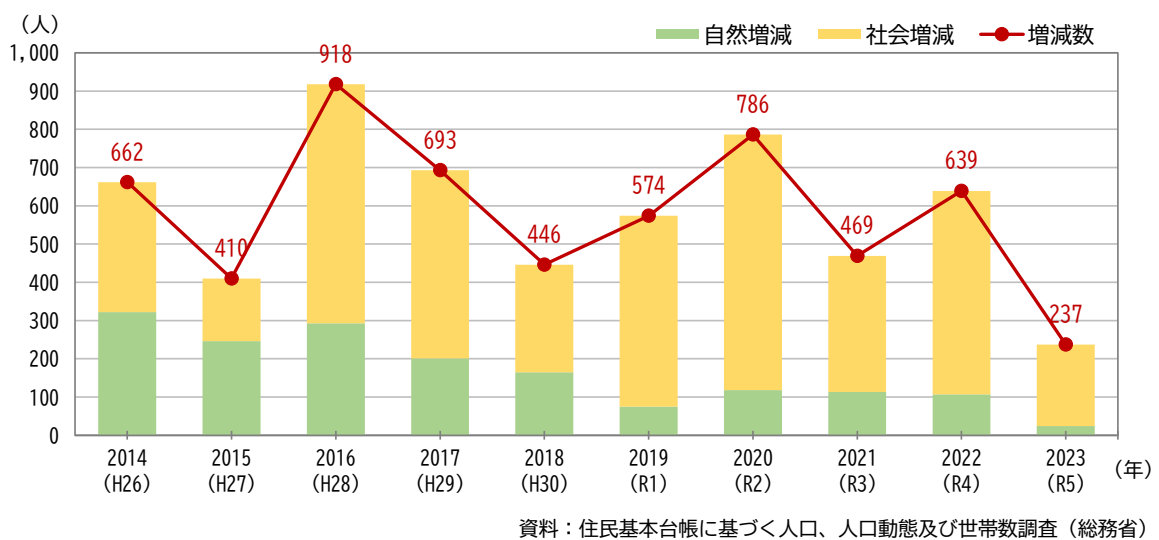
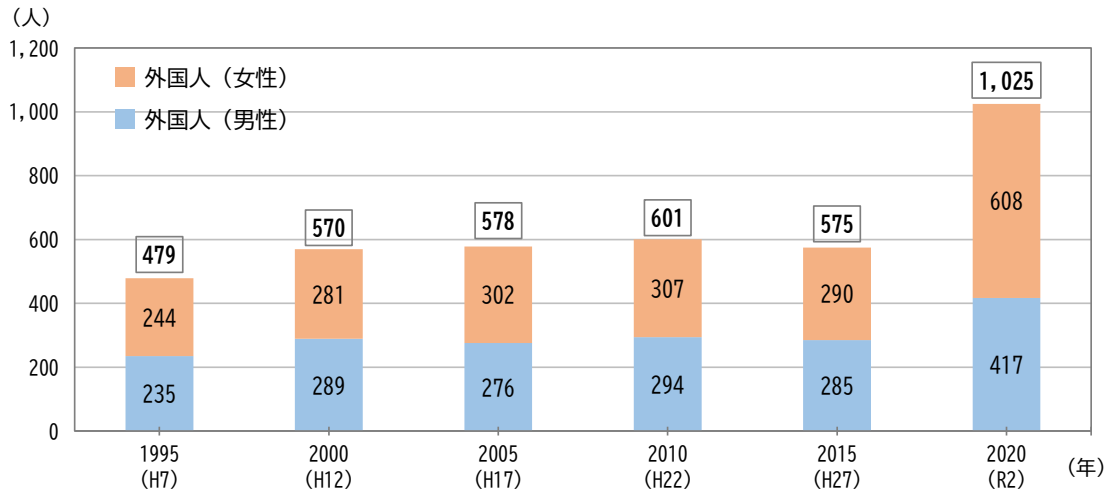


図 7 人口増減数の推移（住民基本台帳）

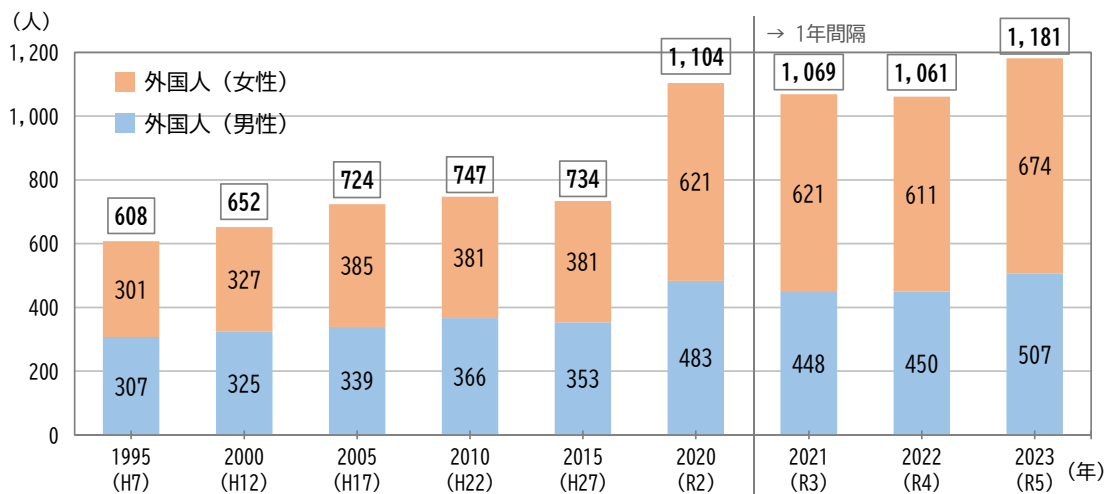
1.2 外国人人口の推移

- ・国勢調査における外国人人口は、1995 年から 2015 年は 500～600 人前後であったが、2015 年から 2020 年にかけて大幅に増加し、1,025 人となっている（図 8）。
- ・住民基本台帳でみると、2020 年以降から 2023 年までの間、1,100 人前後で推移している（図 9）。



資料：国勢調査（総務省）/各年10月1日現在

図 8 外国人人口の推移（国勢調査）

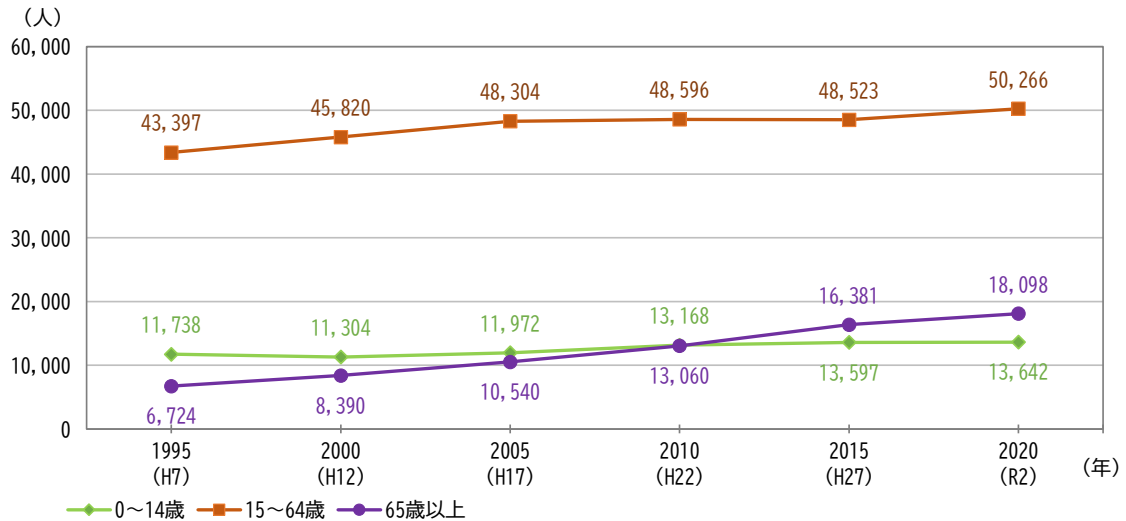


資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 9 外国人人口の推移（住民基本台帳）

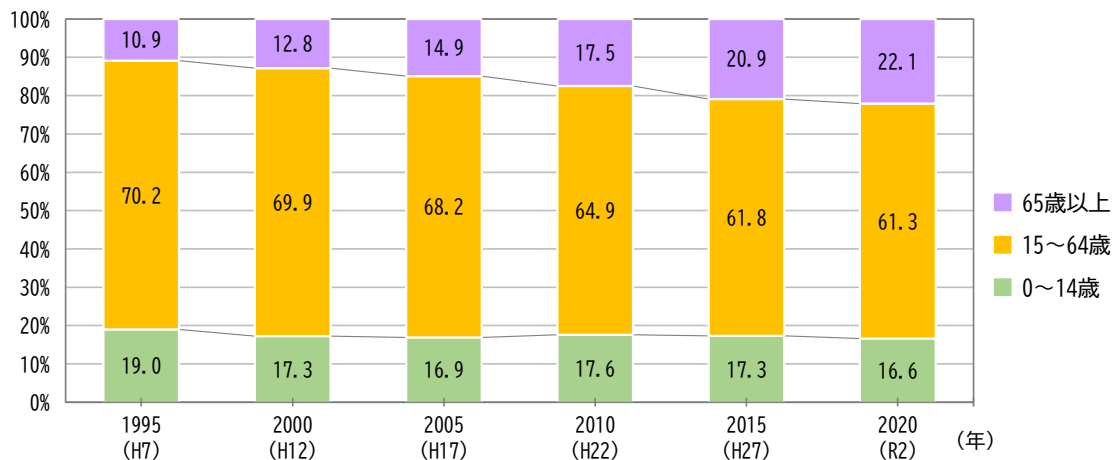
1.3 年齢3区分別人口の推移

- ・ 0～14 歳（年少人口）は、1995 年から 2000 年は微減していたが、2000 年以降は微増している。
- ・ 15～64 歳（生産年齢人口）は、2005 年からはほぼ横ばいであったが、2015 年から 2020 年にかけて微増しているが、総人口に占める割合は減少傾向にある。
- ・ 65 歳以上（高齢者人口）は、1995 年以降、一貫して増加しており、2015 年から 2020 年の間では約 1,700 人（10.5％）増加している。総人口に占める割合も増加傾向にある。



資料：各年国勢調査（総務省）/各年10月1日現在

図 10 年齢3区分別人口の推移



注）年齢不詳を除いて計算した割合

資料：各年国勢調査（総務省）/各年10月1日現在

図 11 総人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

1.4 年齢5歳階級別人口の推移

- ・2000年、2010年では、第1次ベビーブーム世代、第2次ベビーブーム世代を含む年齢層（2000年：50～54歳、25～29歳、2010年：60～64歳、35～39歳）にピークがみられた。
- ・2020年では、第2次ベビーブーム世代を含む45～49歳にピークがみられ、その世代の人口は2000年、2010年時点から増加している。
- ・0～14歳（年少人口）は、総人口に占める割合は大きく変わらないが、2020年では低年齢層ほど人口が少なくなっている。

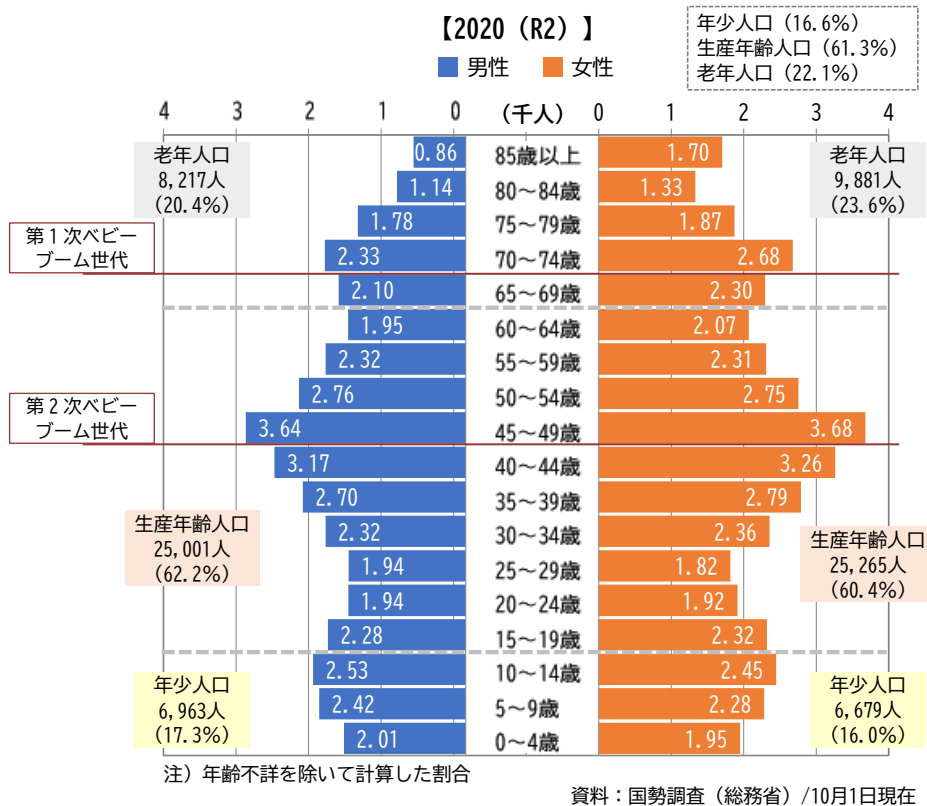
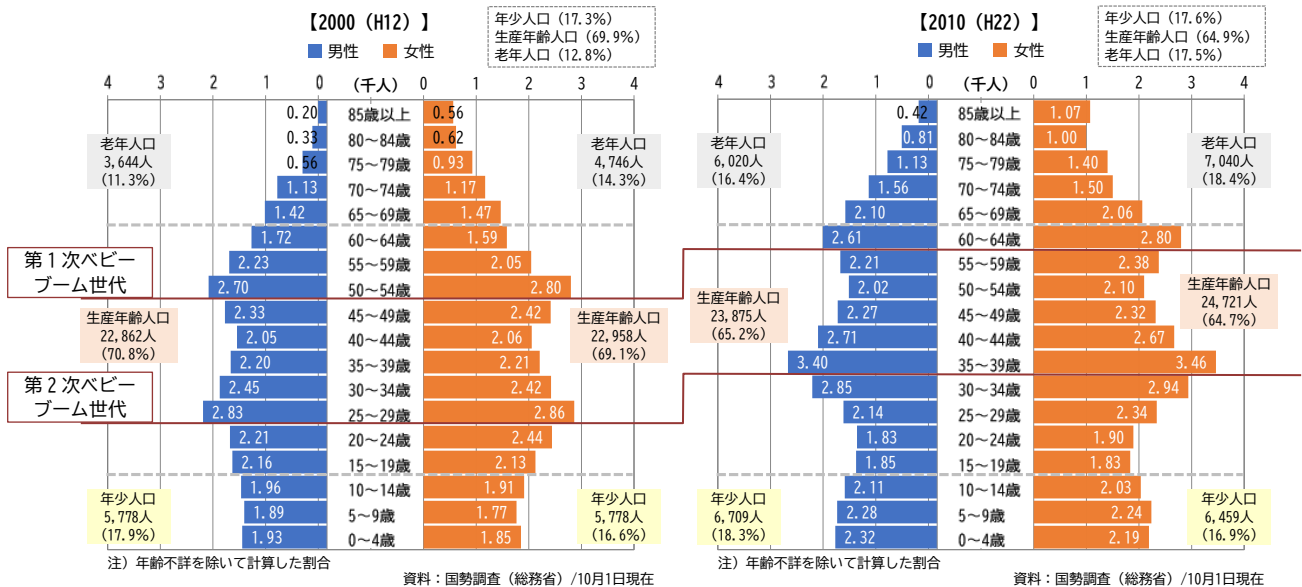


図 12 人口ピラミッドの変化

2. 世帯数の推移

- 総世帯数は増加傾向が続いている。
- 世帯人員別では、2020 年では 1 人世帯と 2 人世帯を合わせた割合が過半数を占めている。
- 1 人世帯は、30 歳以上で増加傾向が続き、特に年々 60 歳以上が占める割合が高くなっている。

本市の総世帯数の推移、世帯人員別世帯数の推移、1 人世帯の年齢構成を以下に整理した。

2.1 総世帯数の推移

- ・本市の国勢調査総世帯数は、1995 年から 2020 年まで一貫して増加している。
2020 年では 2015 年と比較して約 2,700 世帯（9.4%）増加している（図 13）。
- ・住民基本台帳による世帯数でみると、2020 年以降も 2023 年までの間に約 1,700 世帯（2.0%）増加している（図 14）。
- ・

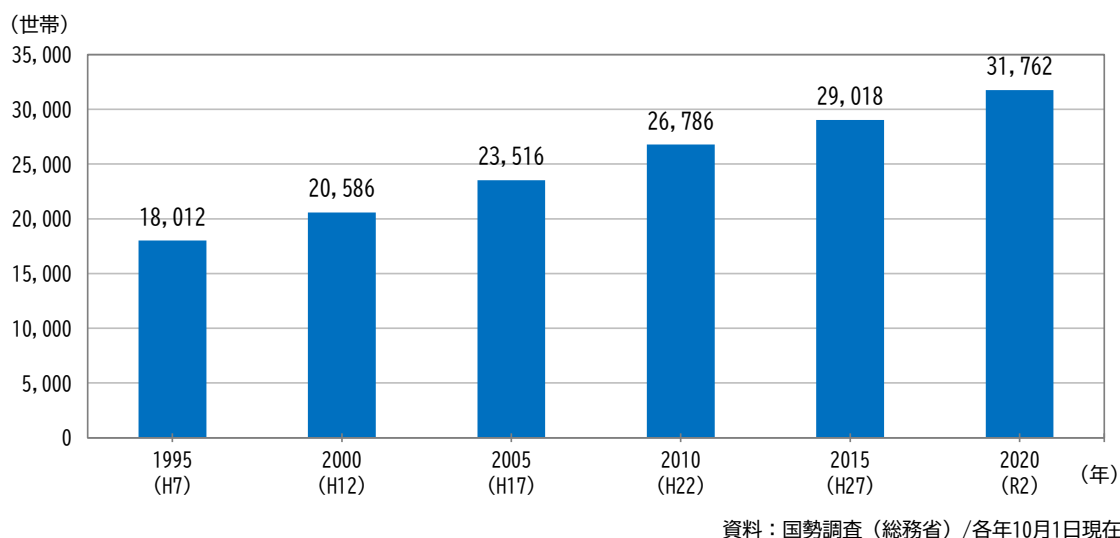


図 13 総世帯数の推移（国勢調査）

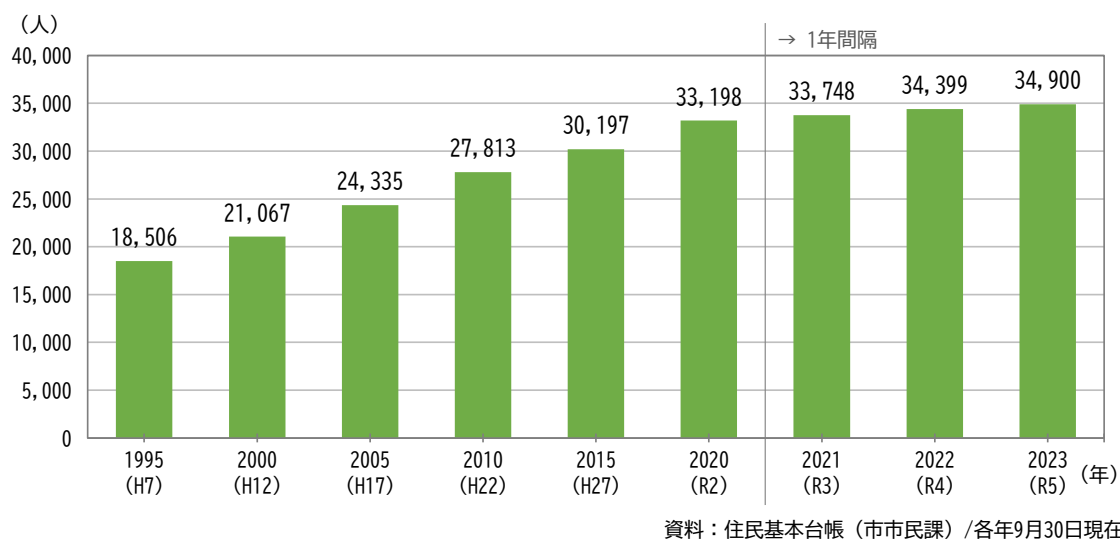


図 14 総世帯数の推移（住民基本台帳）

2.2 世帯人員別世帯数の推移

- ・世帯人員別世帯数は、5人以上世帯を除き、増加傾向にある。2015年までは2人世帯が最も多かったが、2020年には1人世帯が最も多くなっている。
- ・4人世帯と5人以上世帯を合わせた割合は、1995年では48.9%を占めていたが、2020年には27.5%まで減少している。一方、1人世帯と2人世帯を合わせた割合は、1995年では31.7%であったが、2020年には53.2%を占めている。

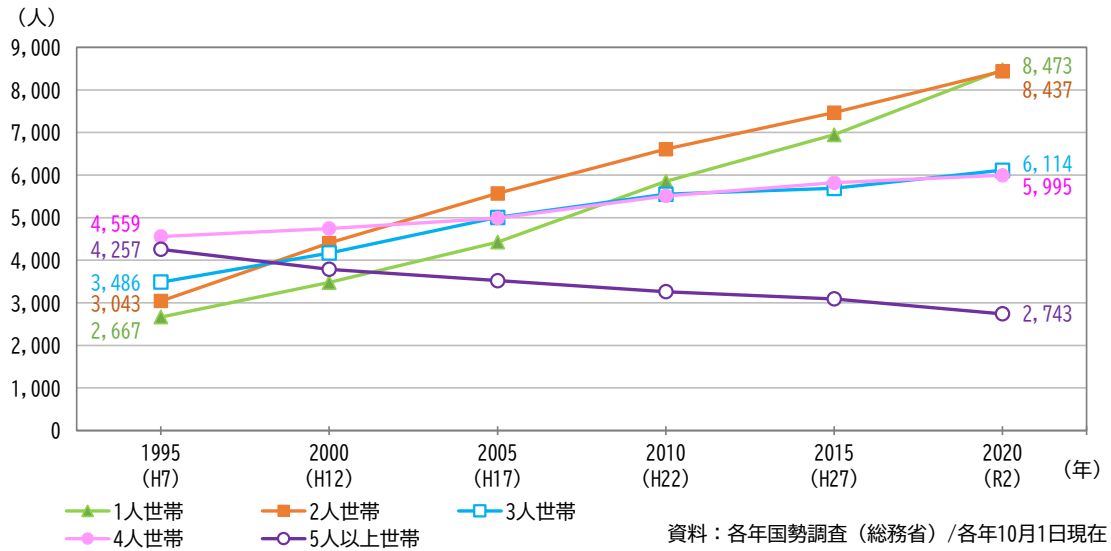


図 15 世帯人員別世帯数の推移

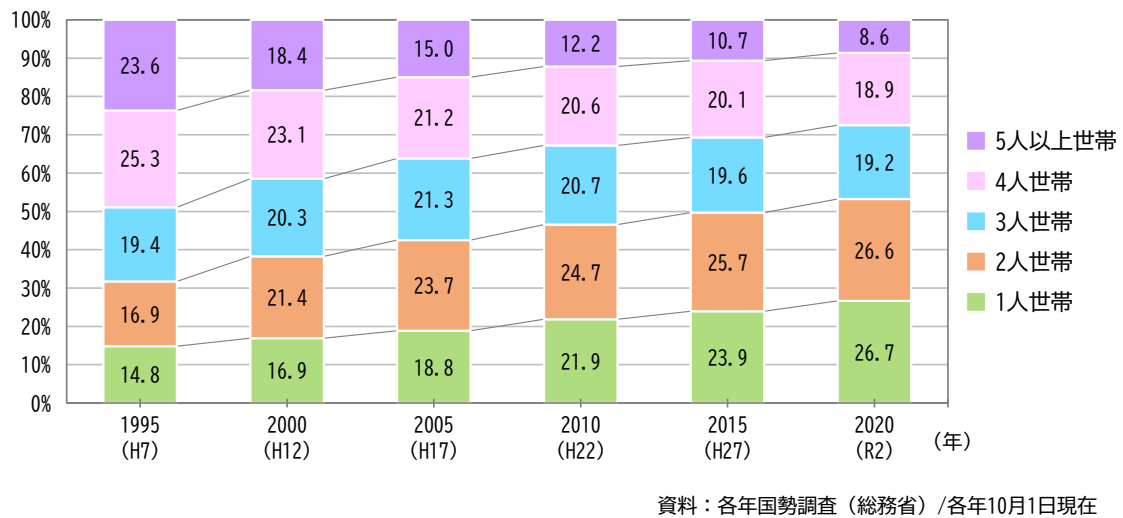


図 16 総世帯数に対する世帯人員別世帯の割合の推移

2.3 1人世帯の年齢構成

- ・ 1人世帯の年齢構成は、30～59歳、60歳以上で増加傾向にある。
- ・ 特に、60歳以上は大きく増加し、その割合は1995年では19.7%であったが、2020年には38.4%となっている。

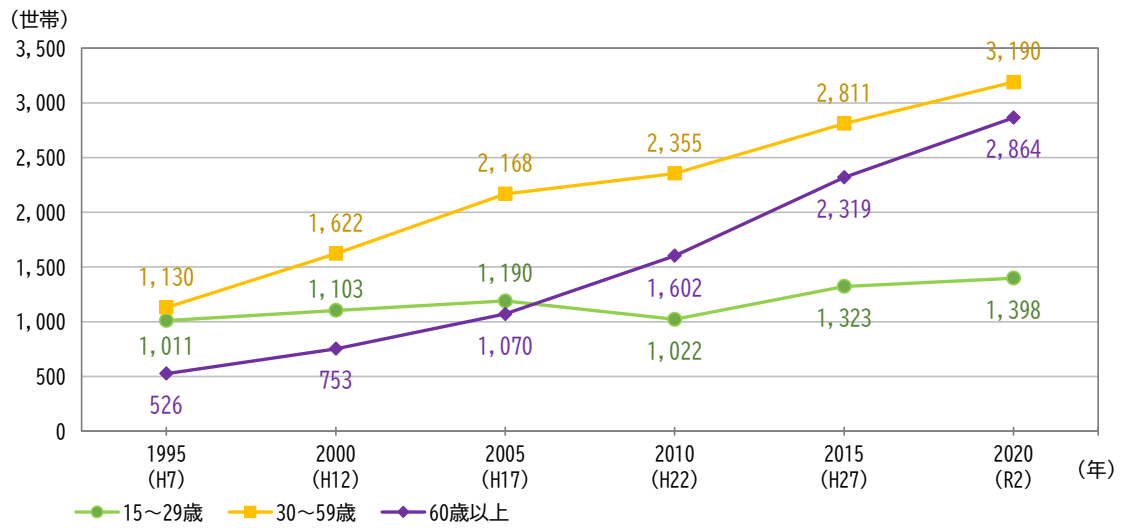


図 17 年代別 1人世帯数の推移

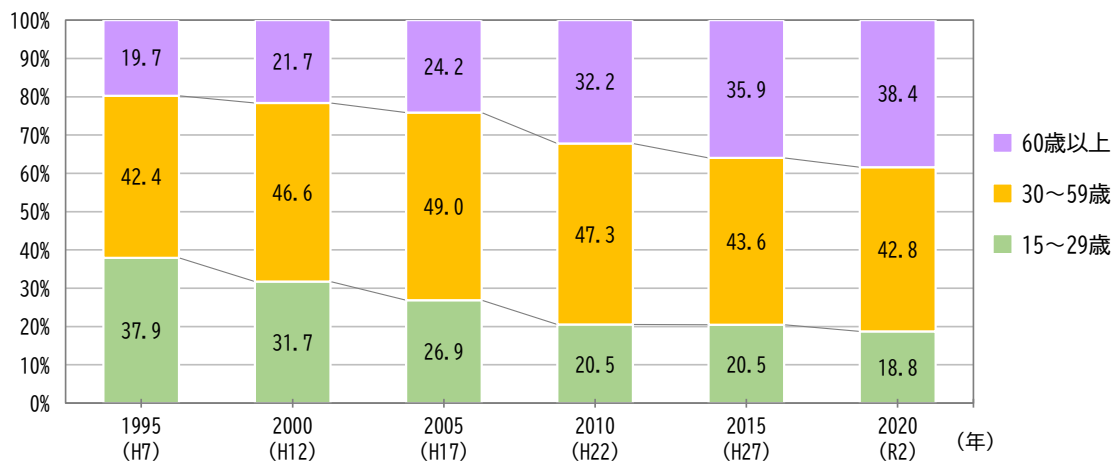


図 18 年代別 1人世帯数の割合の推移

3. 自然動態

- 自然動態は一貫して正の値をとっているが、近年の増加数は減少から横ばい傾向である。
- 合計特殊出生率は、滋賀県、全国を大きく上回っている。
- 母親の年齢別出生数は、母親の年齢層が高くなっている。
- 死亡者数は、年々増加傾向にあり、特に 80 歳以上は増加の一途をたどっている。

本市の自然動態について、自然増加数の推移、合計特殊出生率の推移、年齢別出生数の推移、女性の年齢別出生率の推移、死亡者数の推移を以下に整理した。

3.1 自然増加数の推移

- ・自然増加数（出生数から死亡数を引いた値）は、一貫して正（増加）の値をとっているが、2014 年以降、増加数は減少から横ばい傾向にある。これは出生数が 700～800 人程度で横ばいであるのに対し、死亡数が増加傾向（ただし、2023 年は減少）にあるためである。

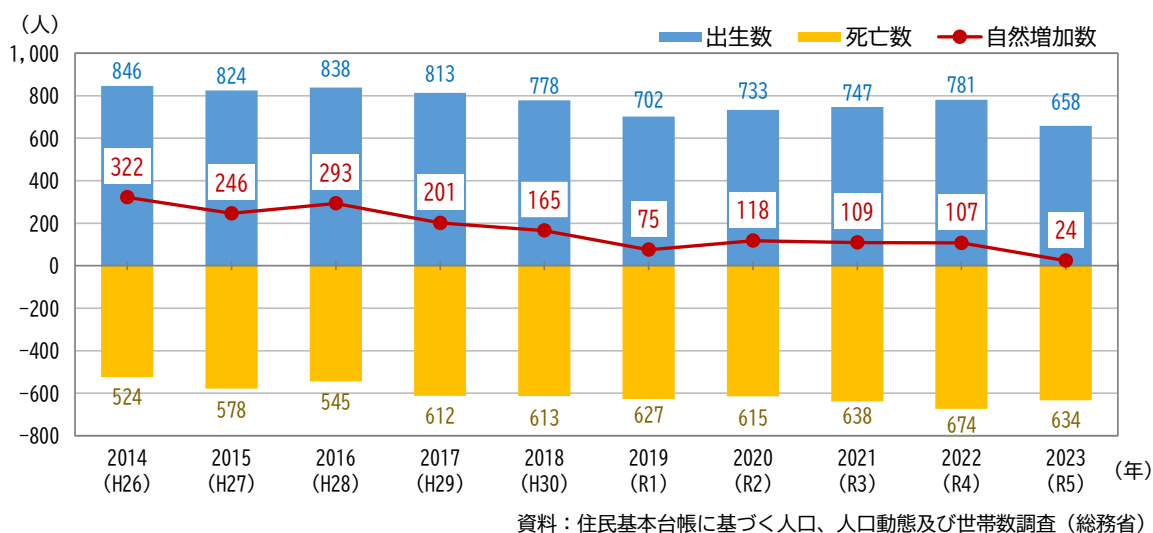


図 19 自然増加数（出生・死亡）の推移

3.2 合計特殊出生率の推移

- ・本市の合計特殊出生率は2022年で1.72であり、滋賀県、全国を大きく上回っている。
- ・大津市及び湖南3市（草津市、栗東市、野洲市）と比較すると、栗東市に次いで2番目に大きい値となっている。

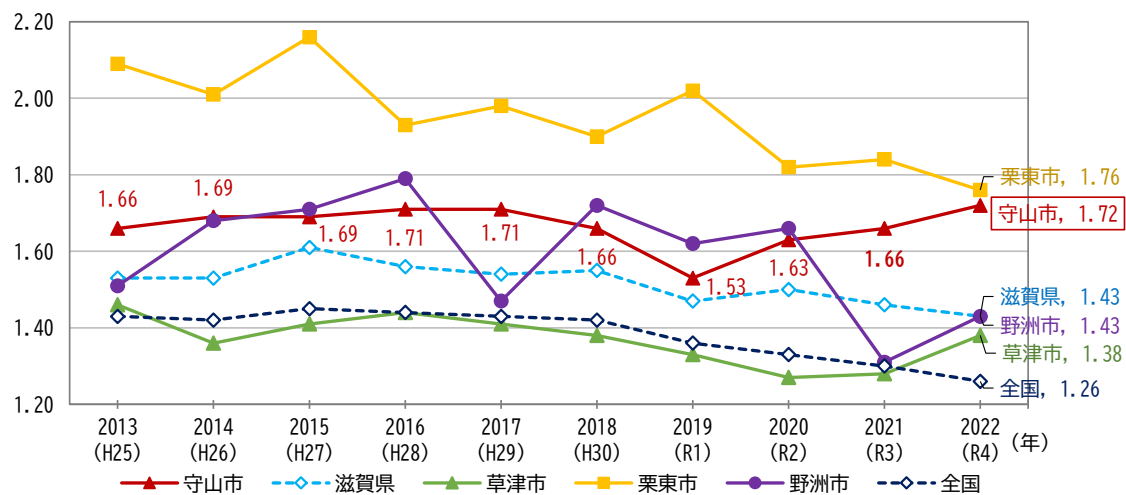


図 20 守山市、近隣自治体及び全国における合計特殊出生率の推移

3.3 年齢別出生数の推移

- ・母親の年齢別出生数をみると、20 歳代の出生数は減少傾向にあるが、30 歳代は、微増から横ばい傾向にある（図 21）。
- ・母親の年齢別出生数の割合は、2000 年までは 25～29 歳が最も高かったが、以降は、30～34 歳の割合が高くなっている。また、35～39 歳の割合は 2000 年までは 1 割未満であったが、2010 年以降は 2 割以上を占めている（図 22）。
- ・母親の年齢別出生数が多い 25～34 歳の女性人口は近年減少傾向にある（図 23）。
- ・年齢別出生率は、近年 20～24 歳の出生率は低下し、に大きな変化はみられないが、30 歳以上の出生率は近年高くなっている（図 24）。

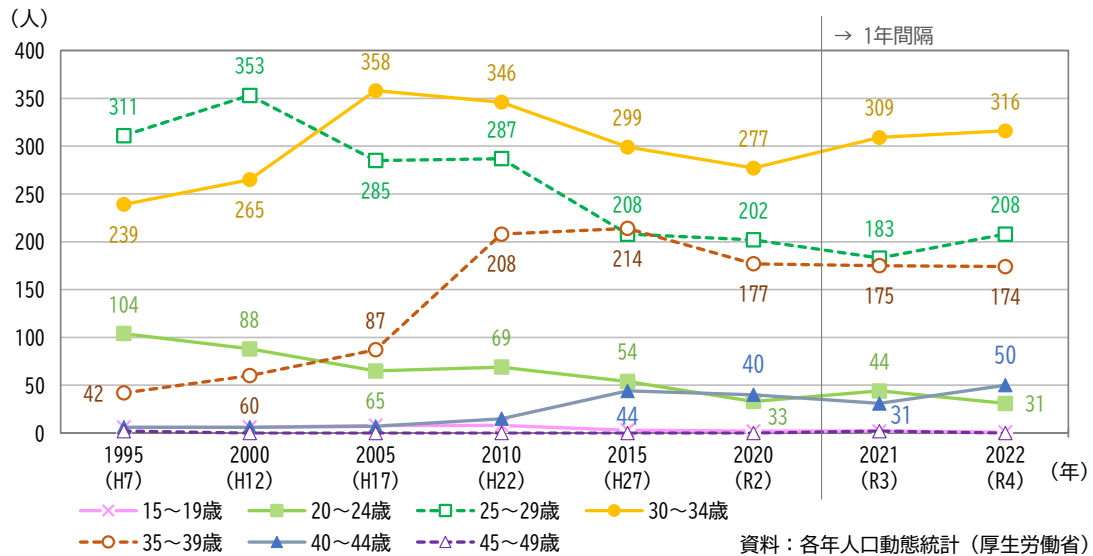


図 21 母親の年齢別出生数の推移

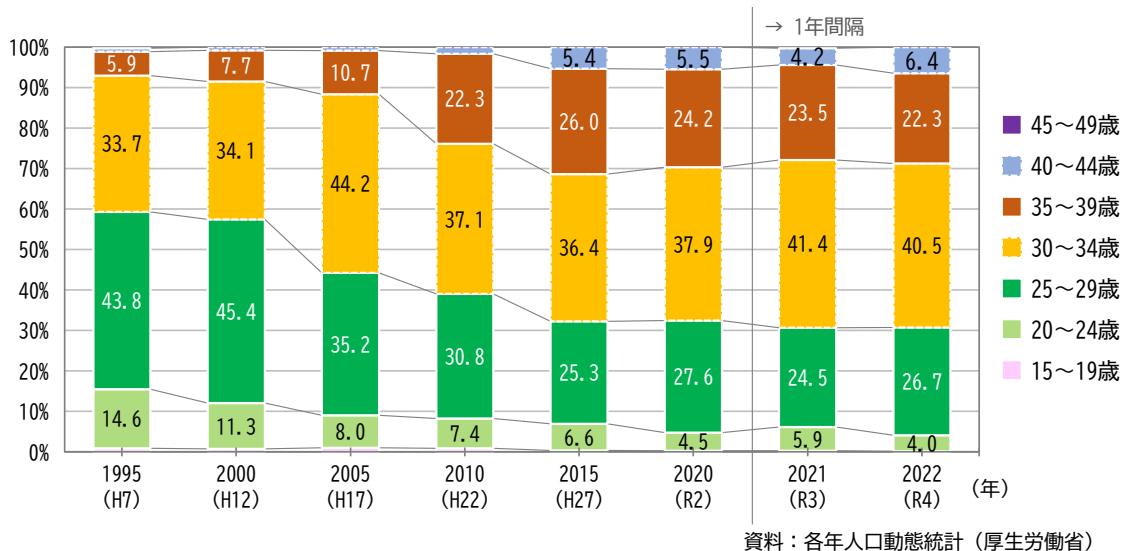


図 22 母親の年齢別出生数の割合の推移

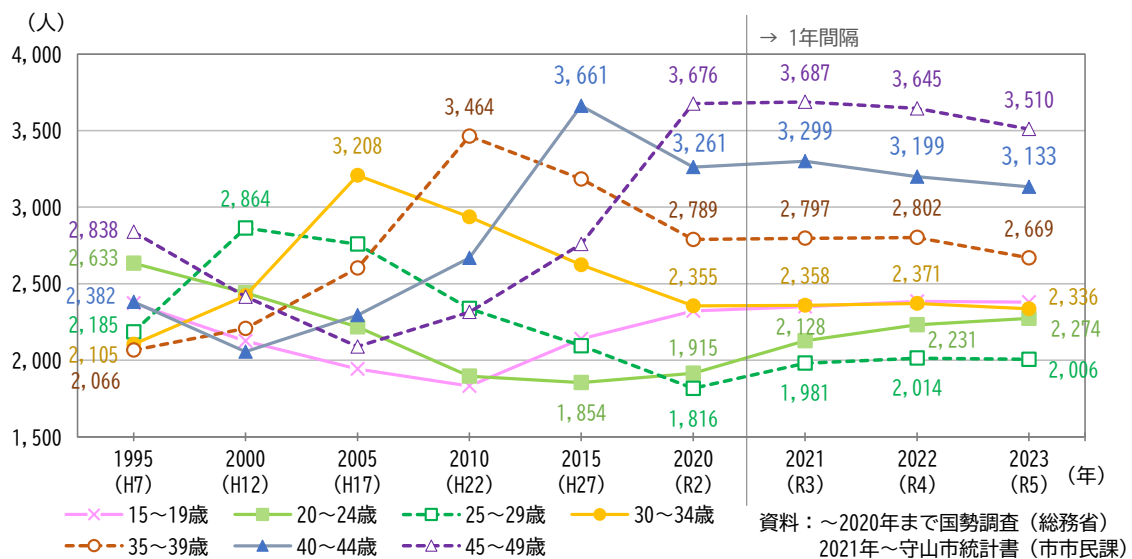


図 23 15～49 歳の女性人口の推移

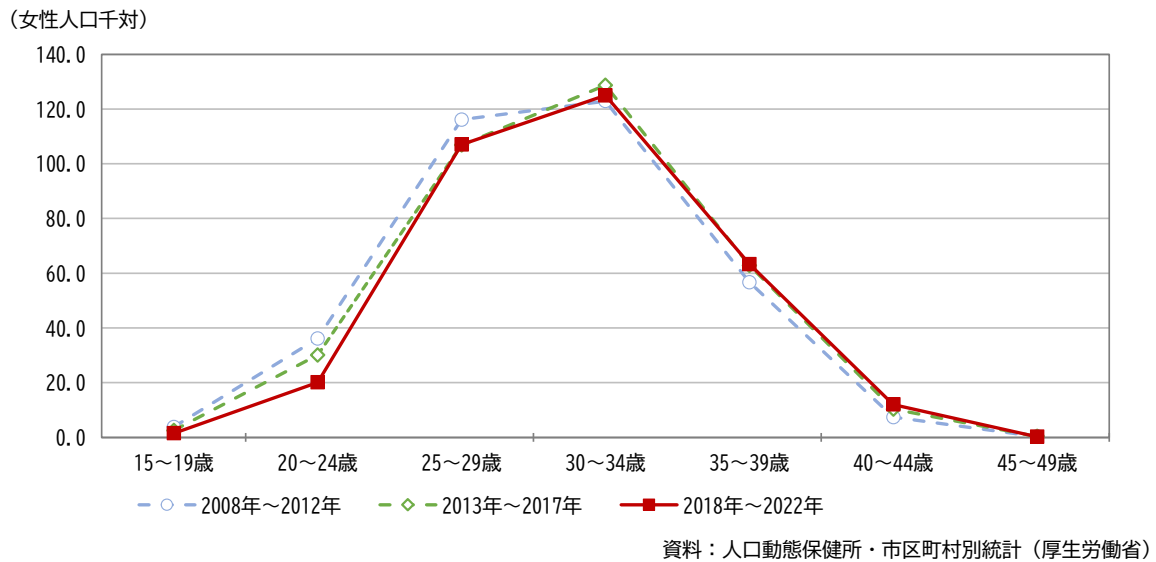


図 24 母親の年齢階級別出生率の推移

3.4 死亡者数の推移

- ・死亡者数は、年々増加傾向にあり、特に、80歳以上の死亡者数の増加が続いている。

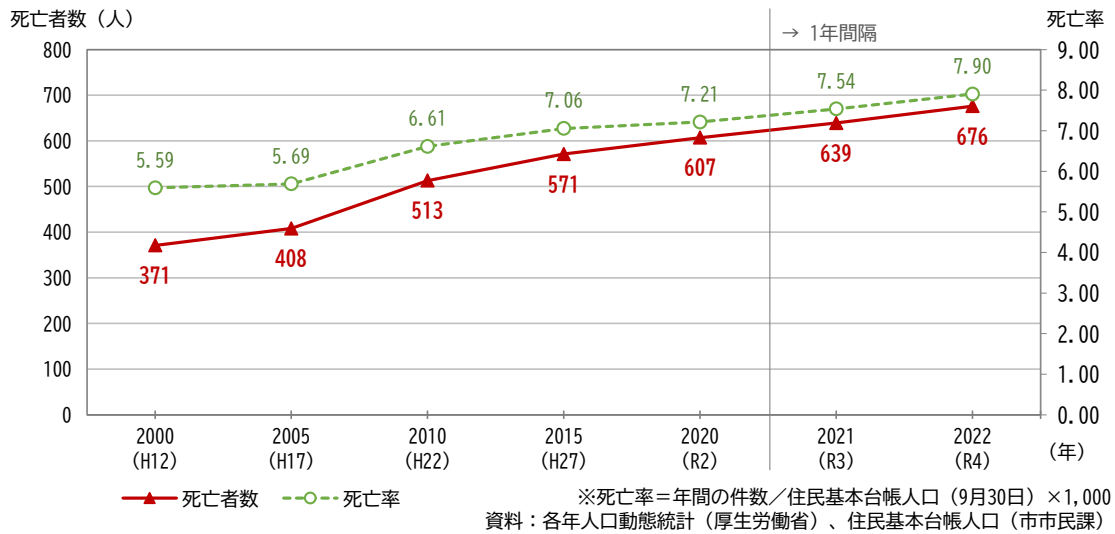


図 25 死亡者数・死亡率の推移

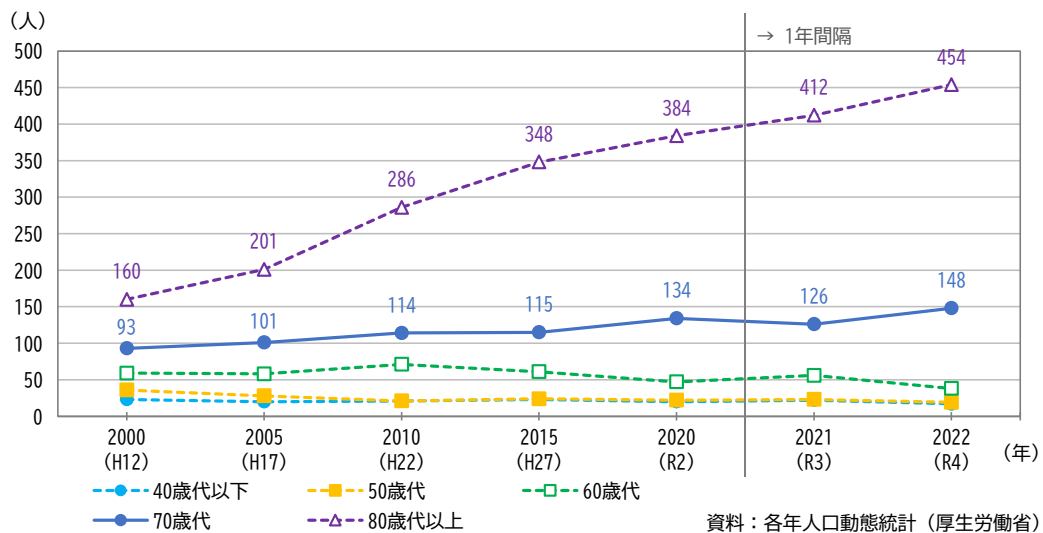


図 26 年代別死亡者数の推移

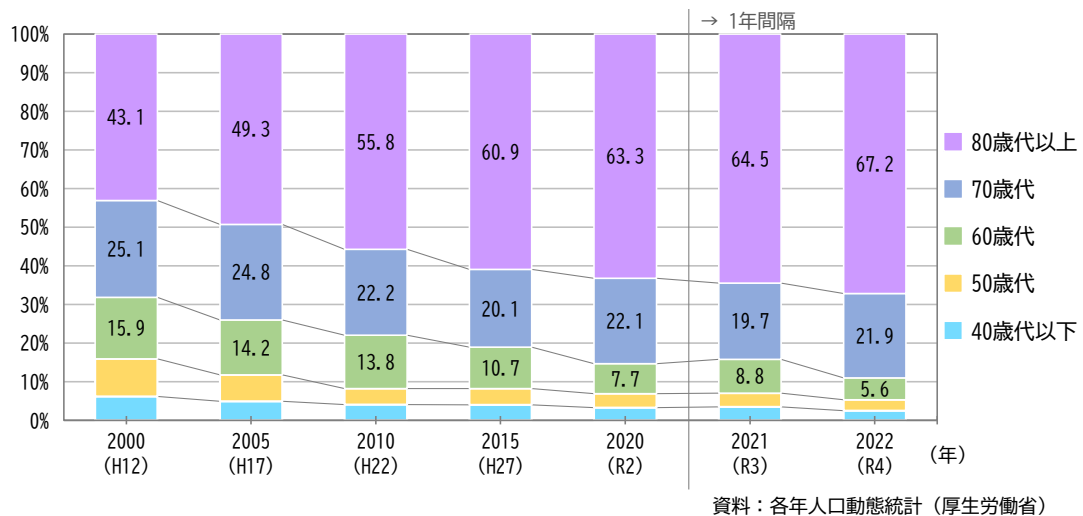


図 27 死亡者数に占める年代別割合の推移

4. 社会動態

- 社会増加数は、2019 年以降、500～700 人前後の増加があったが、2023 年には 6 人増に急減している。
- 年齢 5 歳階級別の純移動数は、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」の転出超過が拡大しており、男性よりも女性の方がその傾向が顕著となっている。
- 転入者・転出者ともに、20～30 歳代の若い年代が多い。2023 年の転入者は 20 歳代が 39%、30 歳代が 25%を占めている。

本市の社会動態について、転出入の経年変化、年齢別転出入の経年変化、2023年の転出入の現況を以下に整理した。

4.1 転出入の経年変化

(1) 転出入の経年変化

- ・社会増加数（転入数から転出数を引いた値）は、一貫して正（増加）の値をとっているが、2019～2022 年は 350～700 人前後の増加があったが、2023 年には 213 人増と急減した。これは 2022 年と比べて、2023 年は転入数・転出数ともに減少しているが、転出数が 40 人減少に対し、転入数が 353 人減少したためである（図 28）。

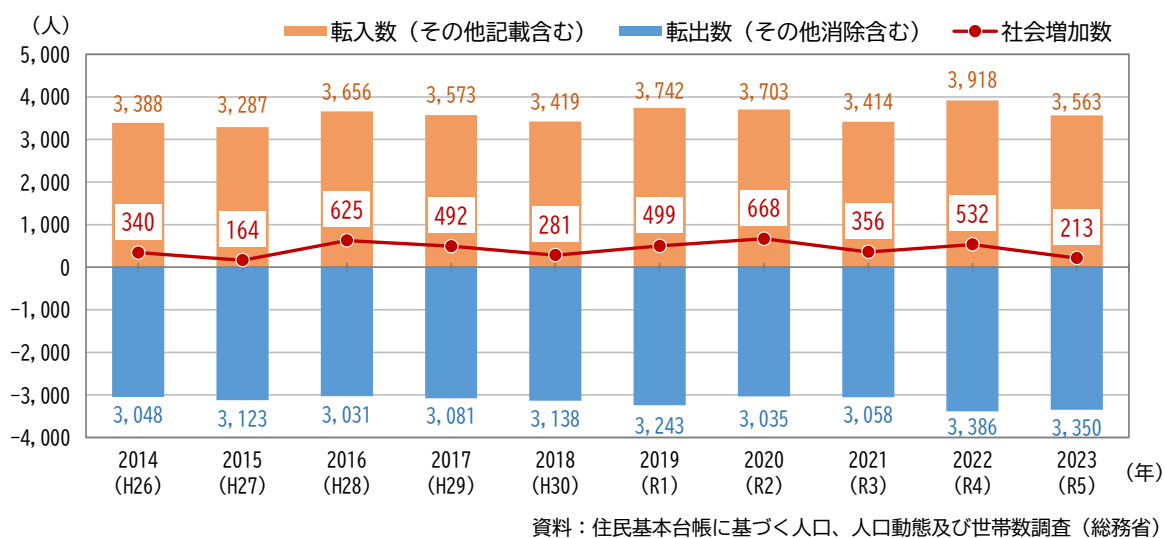


図 28 転出入数・社会増加数の推移

(2) 地域別転出入の経年変化

- ・国内移動に限った転出入の推移をみると、転入者総数の 5～6 割を占める滋賀県内各市町からの転入者は 2020～2022 年は 1,800～1,900 人であったが、2023 年は 1,508 人と少なくなっている（図 29）。
- ・一方、転出者は、県内移動・県外移動ともに微増から横ばい傾向である（図 30）。
- ・県内移動の社会増加数（県内各市町からの転入数から県内各市町への転出数を引いた値）は、2018～2020 年にかけては増加傾向にあったが、以降、減少傾向にあり、2023 年は 68 人増にまで急落している。また、県外移動の社会増加数は、2019 年から減少傾向にあり、2023 年には 62 人減と転出超過となっている（図 31）。
- ・県外からの転入者は、大阪府から、京都府からが多いが、大阪府からの転入者は前年と比べて 2023 年は 39 人少ない。一方、東京都から（前年比 41 人増）、愛知県から（前年比 33 人増）増加している。また、県外への転出者も大阪府へ、京都府へが多い。3 番目に多い東京都への転出者数は微増傾向にある。（図 32）。

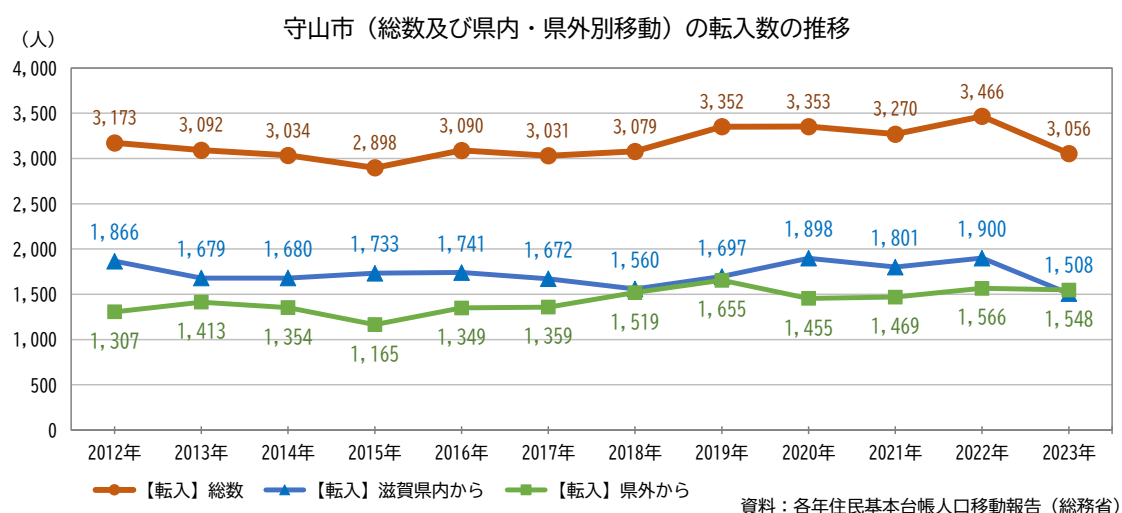


図 29 県内・県外別からの転入数（国内移動）の推移

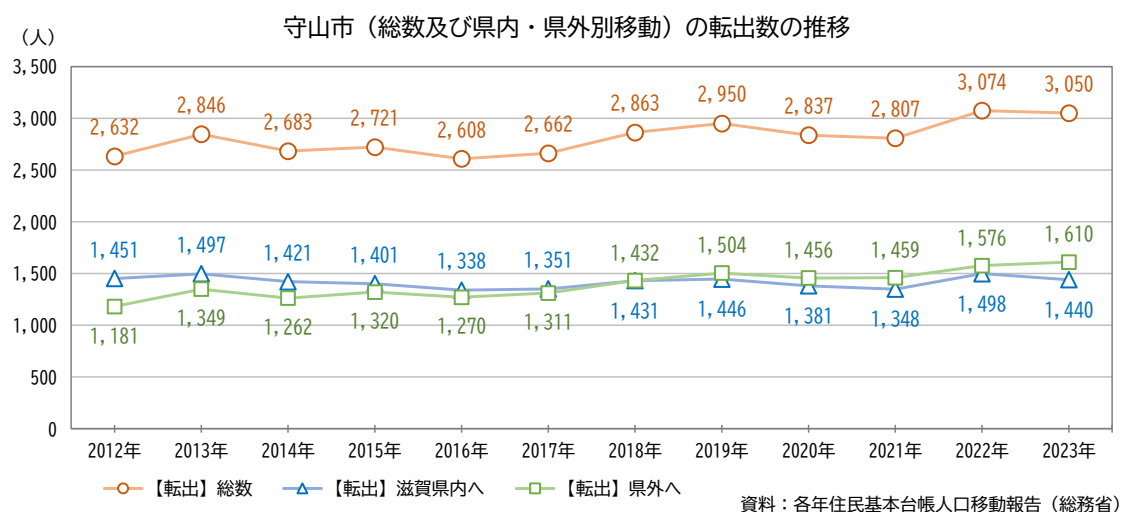


図 30 県内・県外別の転出数（国内移動）の推移

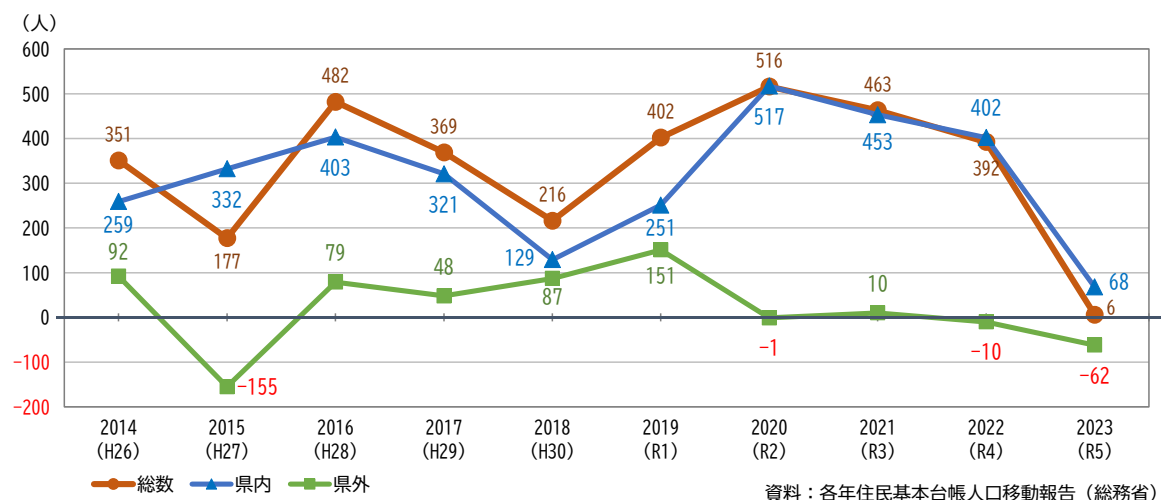


図 31 県内・県外別の社会増加数（国内移動）の推移

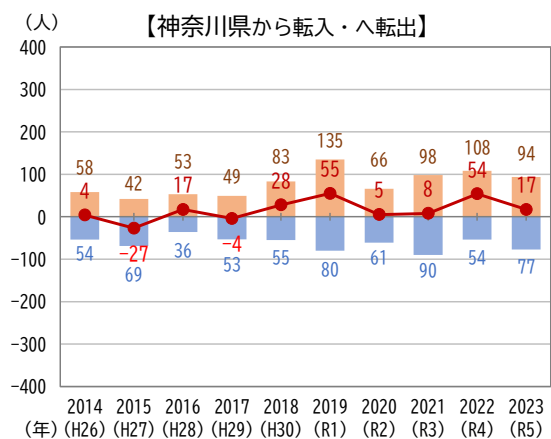
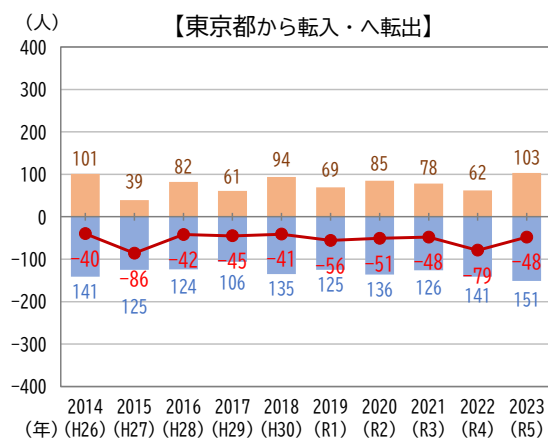
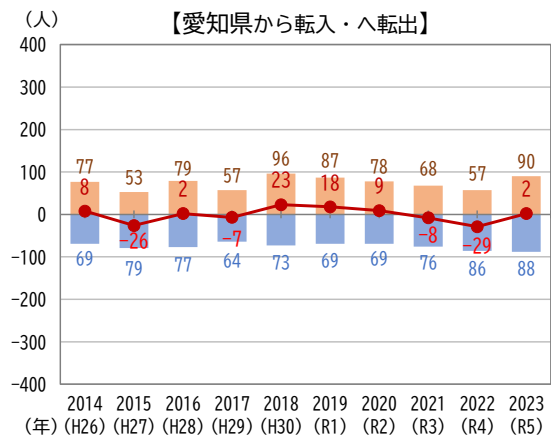
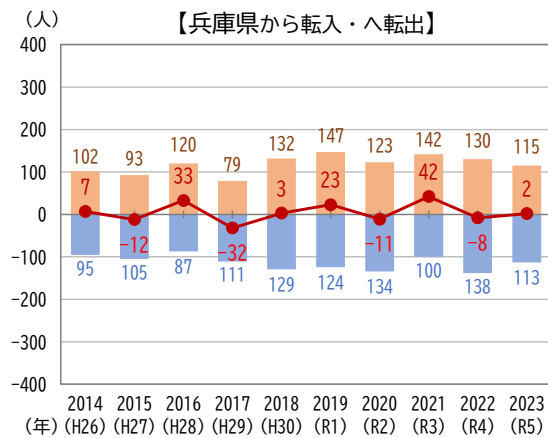
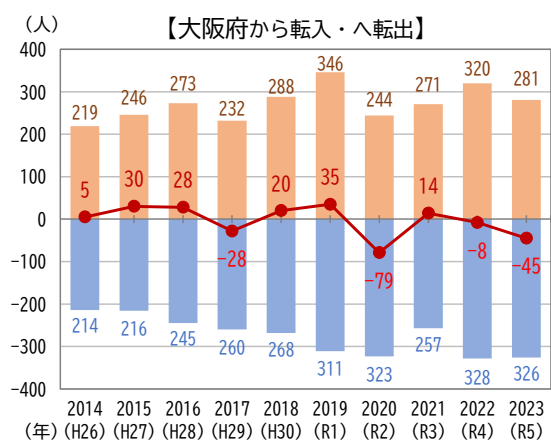
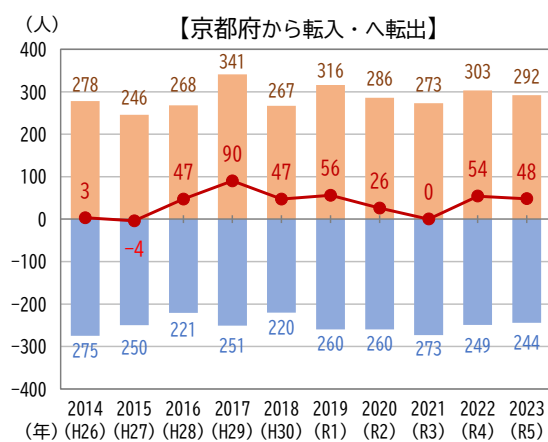
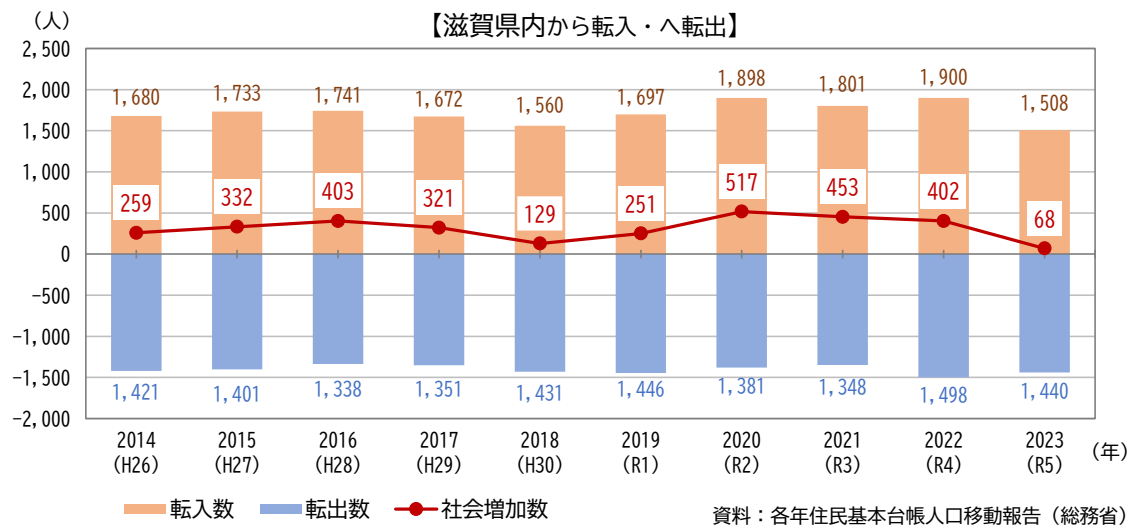


図 32 地域別の転出入数の推移

(3) 滋賀県内における市町別転出入の経年変化

- ・ 県内他市町への転入者数は、栗東市から、大津市から、草津市からの順に多い。栗東市・大津市からは2018年以降、草津市からは2019年以降増加していたが、2023年は減少した。
- ・ 転出者数は、草津市へ、大津市へ、栗東市への順に多い。大津市への転出数は減少傾向だが、草津市へは2020年以降増加傾向にある。

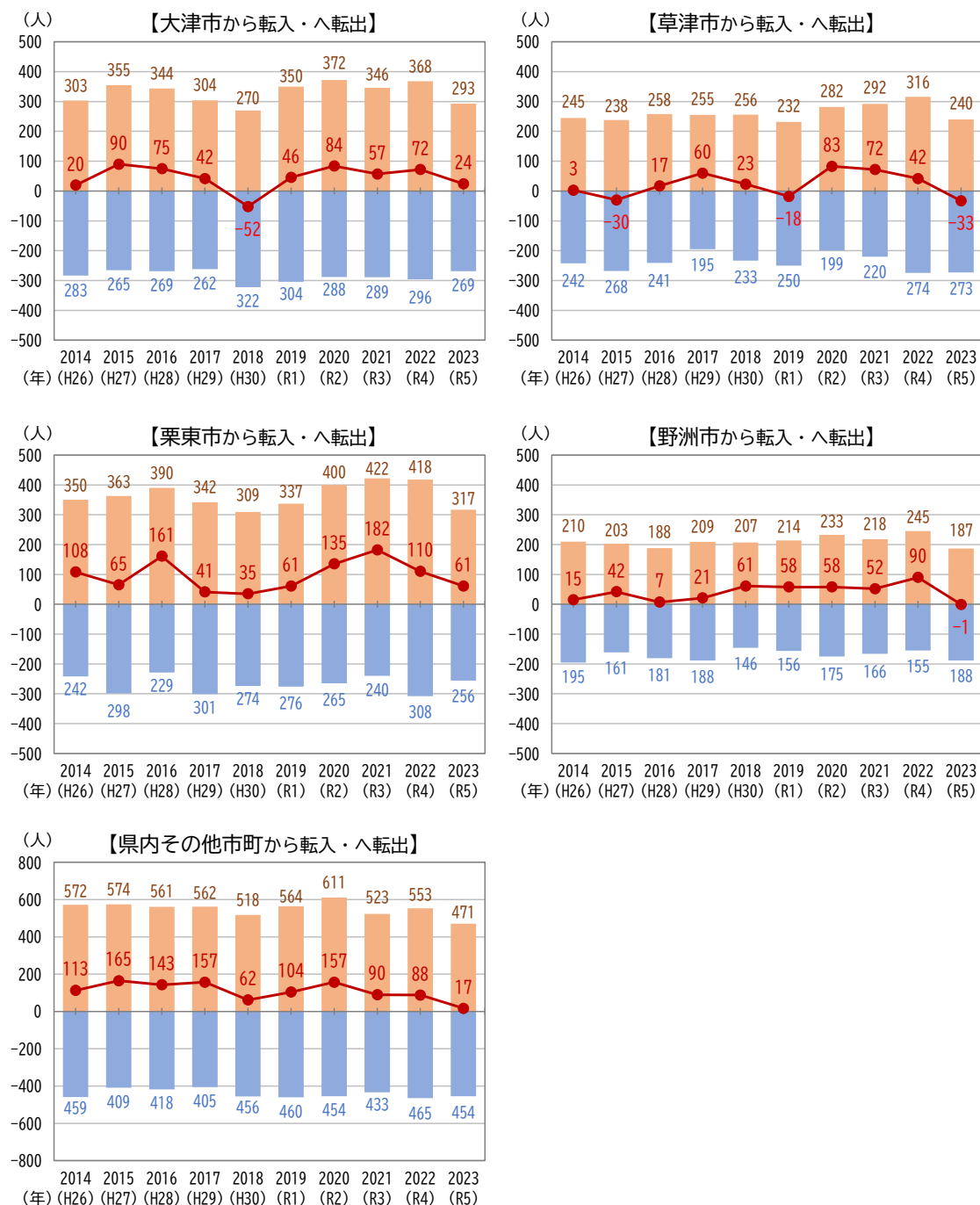
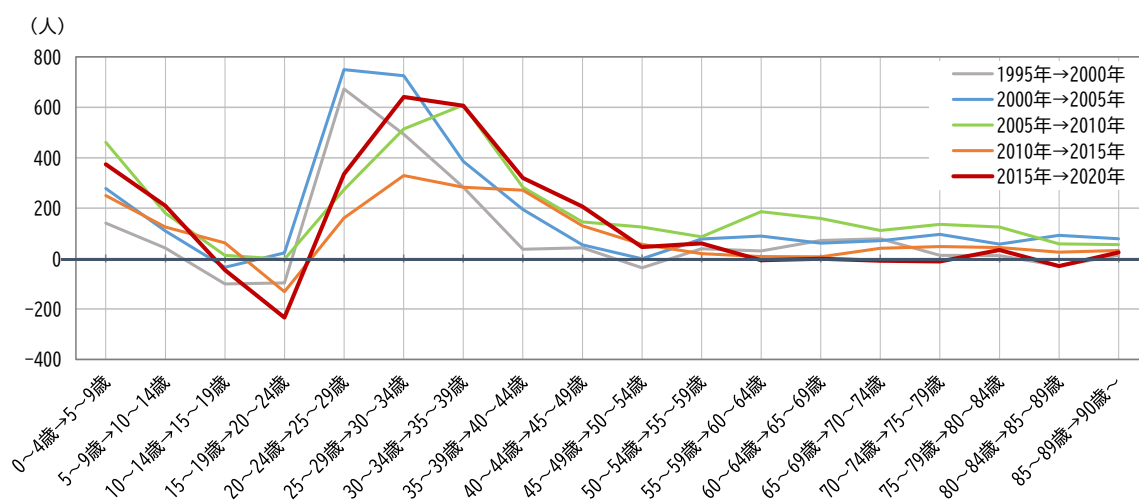


図 33 滋賀県内における市町別転出入の変化

4.3 年齢別の転出入の経年変化

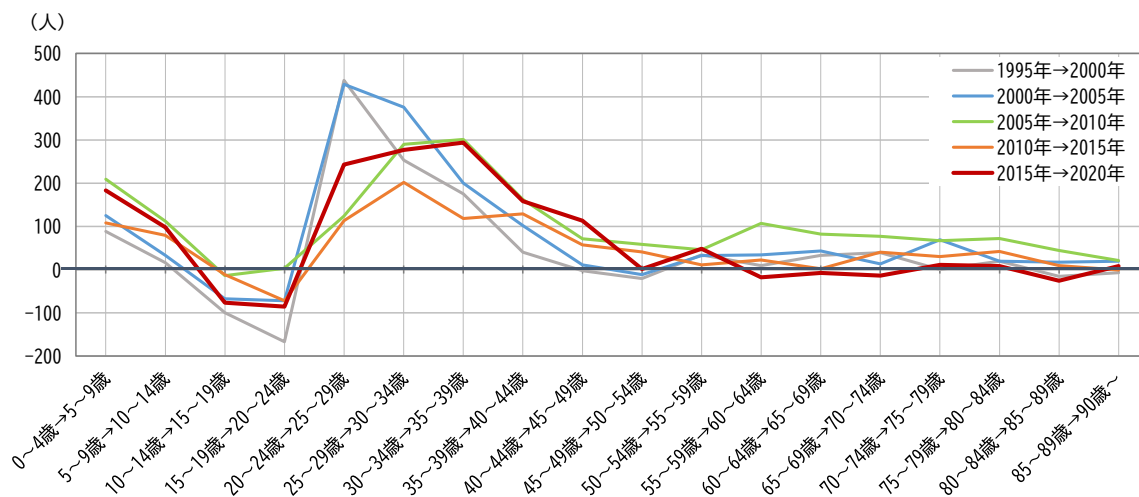
(1) 年齢別純移動の経年変化

- ・全体（男女計）の年齢別純移動率をみると、「25～29 歳から 30～34 歳になるとき」、「30～34 歳から 40～44 歳になるとき」の転入超過が増加傾向にある。一方、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」は転出超過傾向が進んでいる。
- ・男性では、「20～24 歳から 25～29 歳になるとき」、「25～29 歳から 30～34 歳になるとき」、「30～34 歳から 40～44 歳になるとき」の転入超過が増加傾向にある。直近の転入超過のピークは、「30～34 歳から 40～44 歳になるとき」となっている。
- ・女性では、「25～29 歳から 30～34 歳になるとき」、「30～34 歳から 40～44 歳になるとき」の転入超過が増加傾向にある。一方、「15～19 歳から 20～24 歳になるとき」は転出超過傾向が進んでいる。



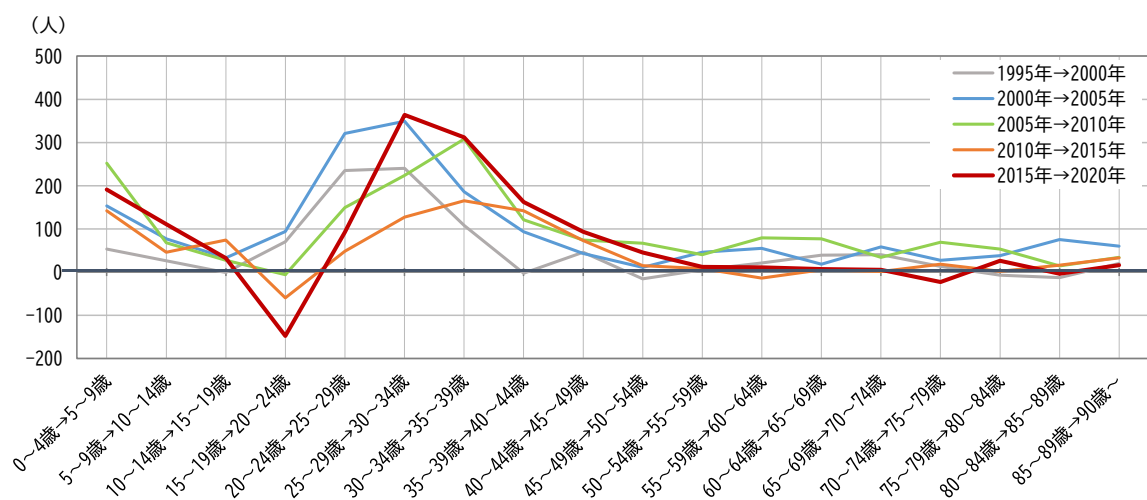
資料：RESAS（地域経済分析システム）-人口の社会増減-（総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成）(<https://www.resas.go.jp/>)を加工して作成

図 34 年齢 5 歳階級別純移動数【全体】の推移



資料：RESAS（地域経済分析システム）-人口の社会増減-（総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成）(<https://www.resas.go.jp/>)を加工して作成

図 35 年齢 5 歳階級別純移動数【男性】の推移



資料：RESAS（地域経済分析システム）-人口の社会増減-（総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局作成）(<https://www.resas.go.jp/>) を加工して作成

図 36 年齢5歳階級別純移動数〔女性〕の推移

(2) 年齢 10 歳階級別転出入の経年変化 [総数]

- ・国内移動に限った 10 歳階級別の転入数は、20 歳代、30 歳代が多く、20 歳代は 2019 年以降、横ばい傾向、30 歳代は減少傾向にある。
- ・転出者数は、20 歳代が最も多く、増加傾向にあるが、2023 年はやや減少した。次いで多い 30 歳代は、微減から横ばい傾向となっている。
- ・社会増加数は、10 歳未満と 30 歳代は 2014 年以降、一貫して正（増加）の値をとっている。一方、20 歳代は 2019 年以降、40 歳代は 2020 年以降減少傾向にある。2023 年の社会増加数は、10～20 歳代、40～50 歳代で負（減少）の値となっている。

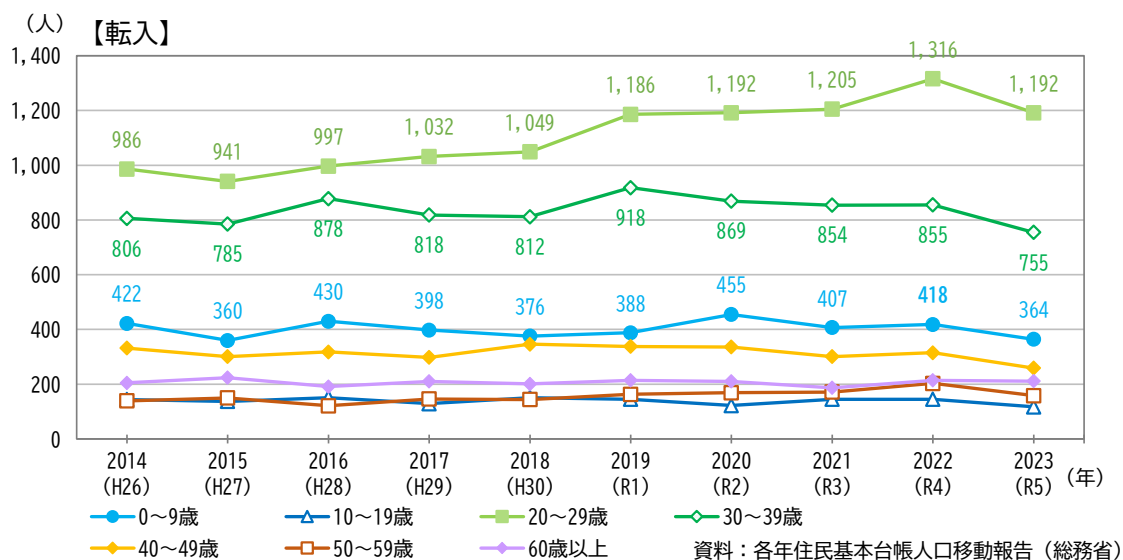


図 37 年齢 10 歳階級別転入数 [全体] の推移

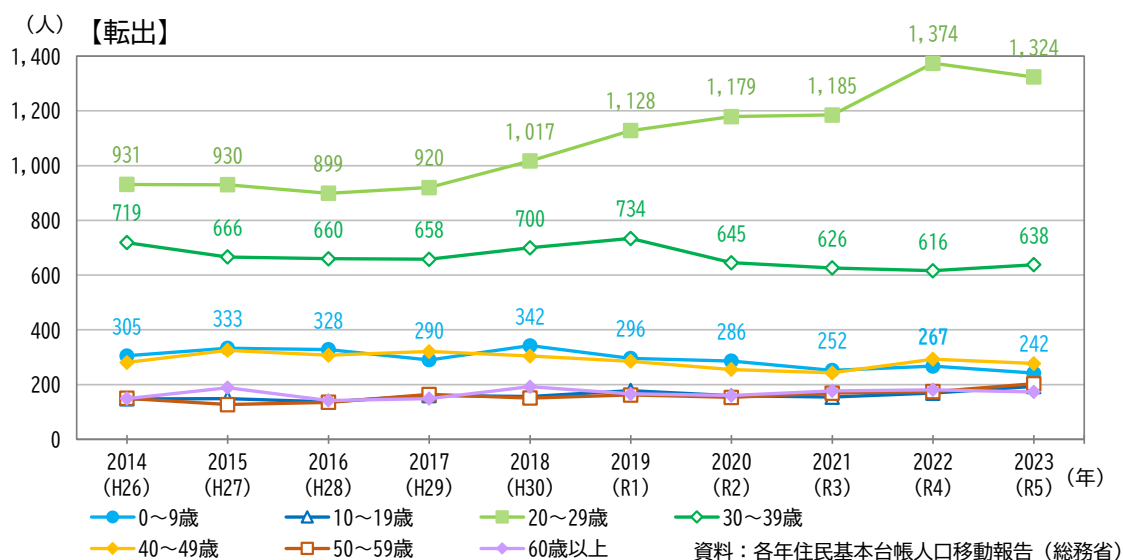


図 38 年齢 10 歳階級別転出数 [全体] の推移

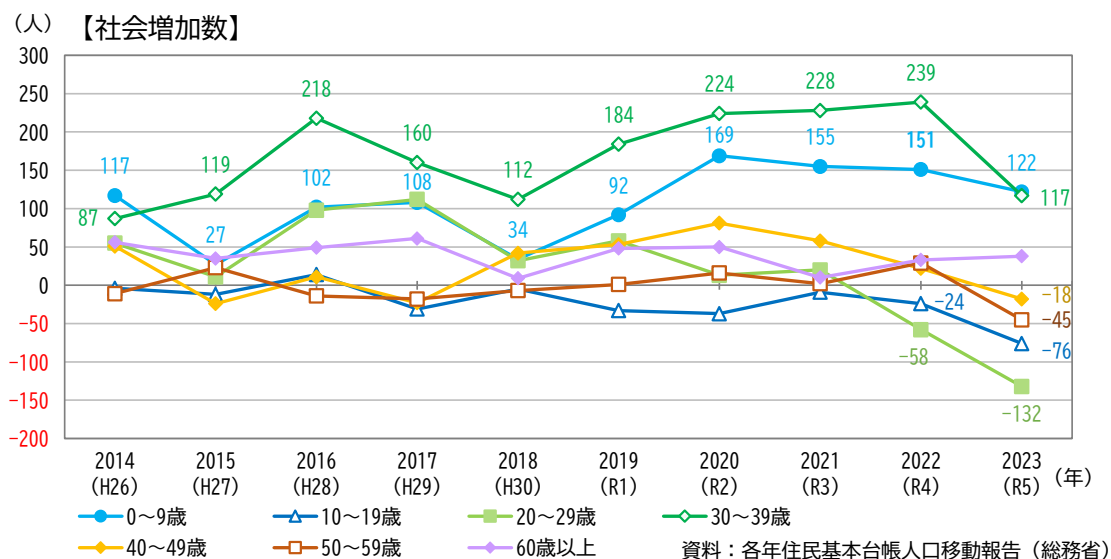


図 39 年齢10歳階級別社会増加数【全体】の推移

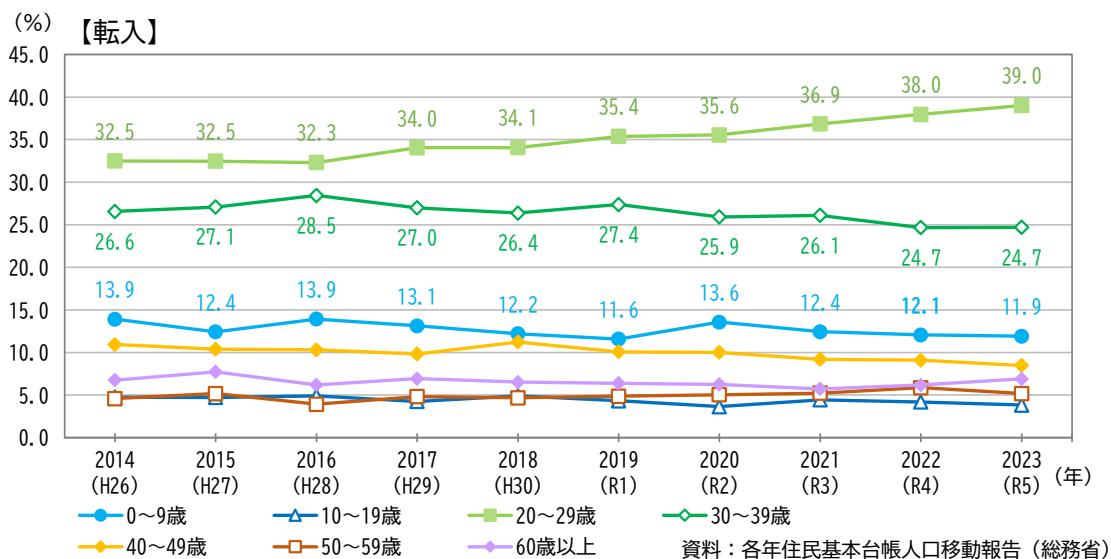


図 40 転入者の年齢10歳階級別の割合【全体】の推移

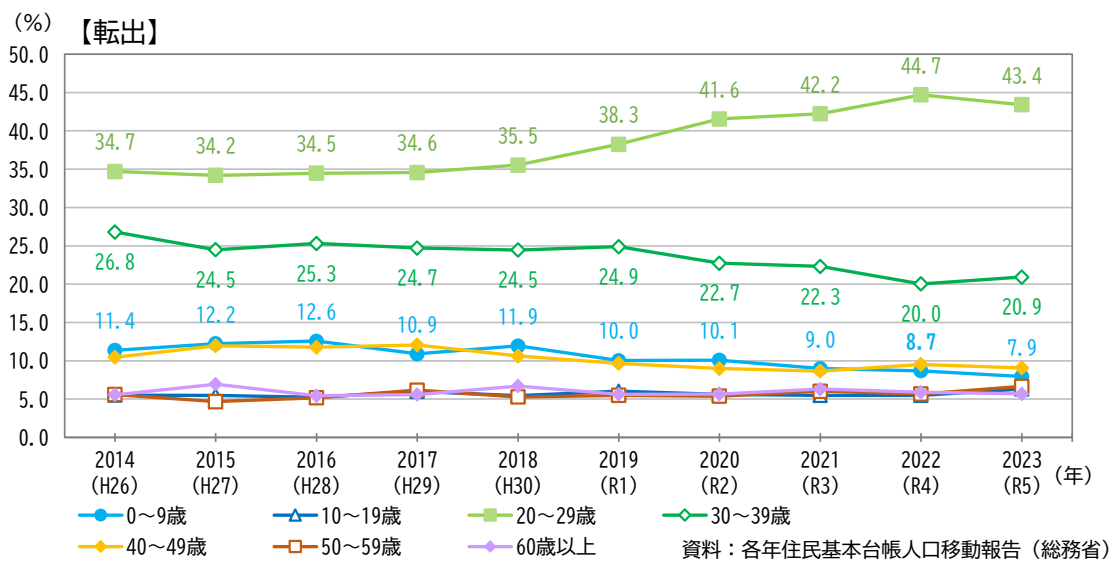


図 41 転出者の年齢10歳階級別の割合【全体】の推移

(3) 年齢 10 歳階級別転出入の経年変化【男性】

- ・男性の転入数は、20 歳代では 2019 年から 2021 年にかけてやや減少していたが、以降は増加傾向となっている。また、30 歳代では、2019 年から 2022 年にかけて横ばいとなっていたが、2023 年は減少している。
- ・一方、転出数は、20 歳代では 2017 年以降、増加傾向にあったが、2023 年は減少している。30 歳代では、2019 年以降、減少から横ばい傾向となっている。
- ・男性の社会増加数は、30 歳代では、一貫して正（増加）の値をとっている。20 歳代では 2017 から 2022 年までは正の値となっていたが、2023 年は転入数が急落したことから、負の値に転じている。

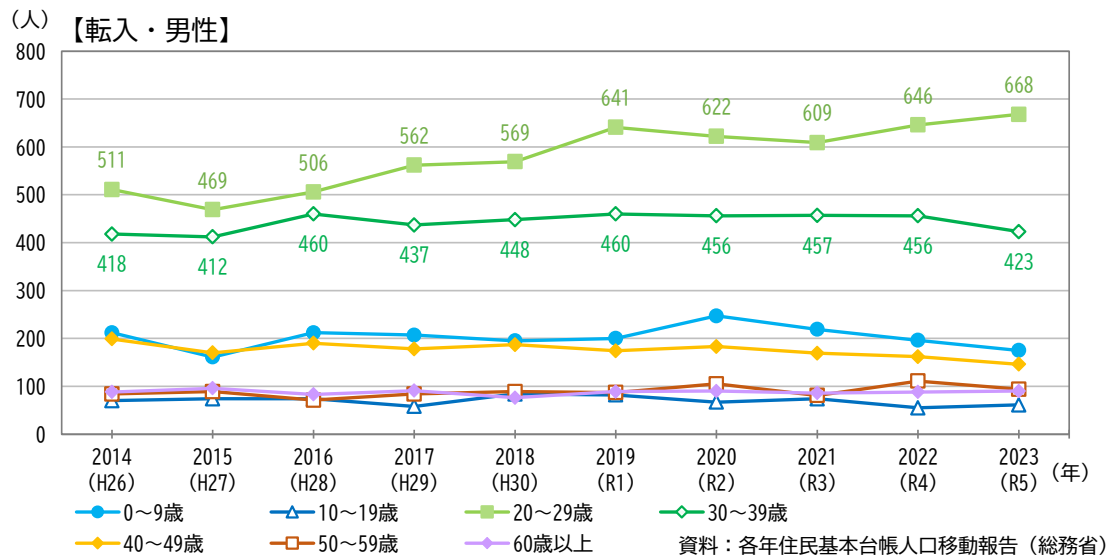


図 42 年齢 10 歳階級別転入数【男性】の推移

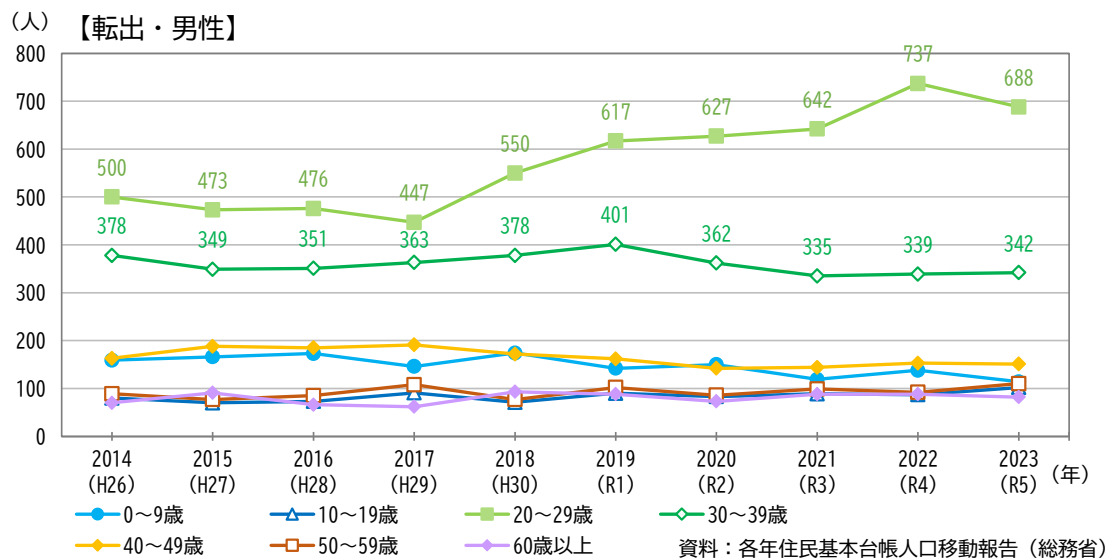


図 43 年齢 10 歳階級別転出数【男性】の推移

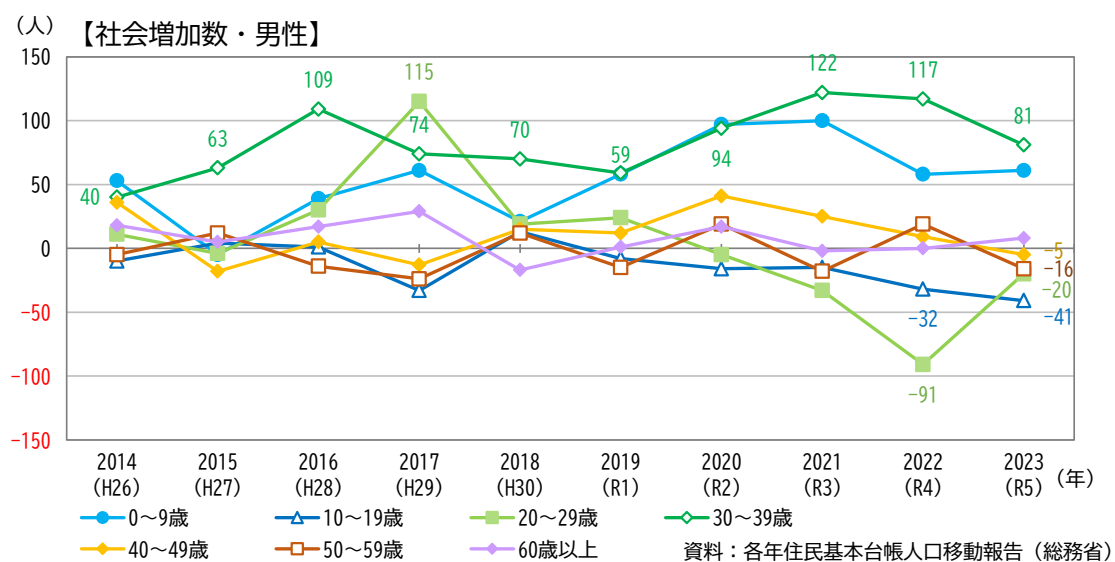


図 44 年齢10歳階級別社会増加数〔男性〕の推移

(4) 年齢 10 歳階級別転出入の経年変化【女性】

- ・女性の転入数は、20 歳代では 2018 年から 2022 年にかけて増加していたが、2023 年には急落している。また、30 歳代では、2019 年の 458 人をピークに以降、減少傾向にある。
- ・一方、転出数は、20 歳代では増加傾向にあったが、2023 年は横ばいとなっている。30 歳代では、2020 年以降横ばい傾向となっている。
- ・女性の社会増加数は、10 歳未満、30 歳代、60 歳以上では、一貫して正（増加）の値をとっている。20 歳代でも 2022 年までは正の値となっていたが、2023 年は転入数が急落したことから、負の値に転じている。

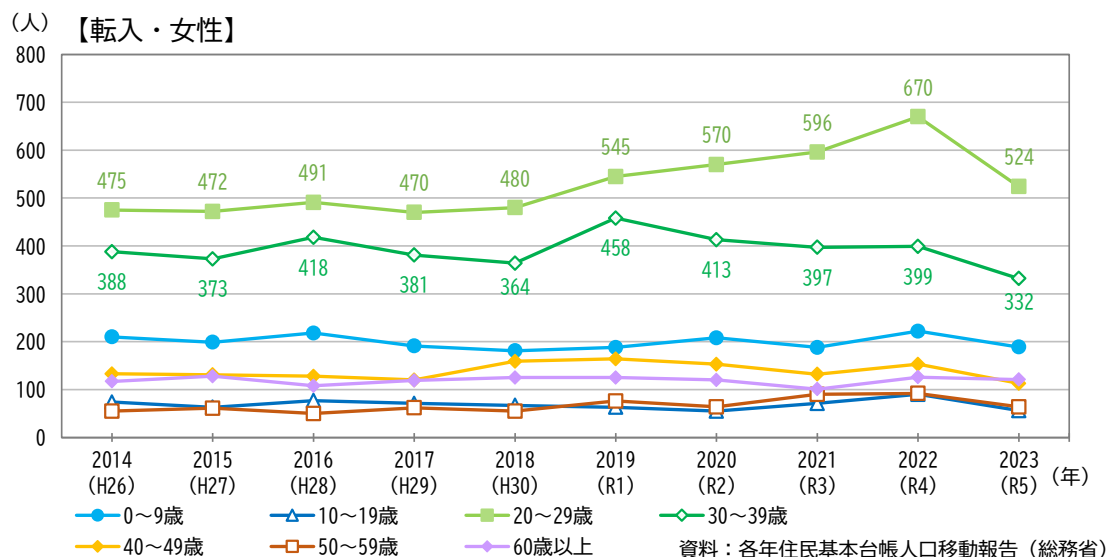


図 45 年齢 10 歳階級別転入数【女性】の推移

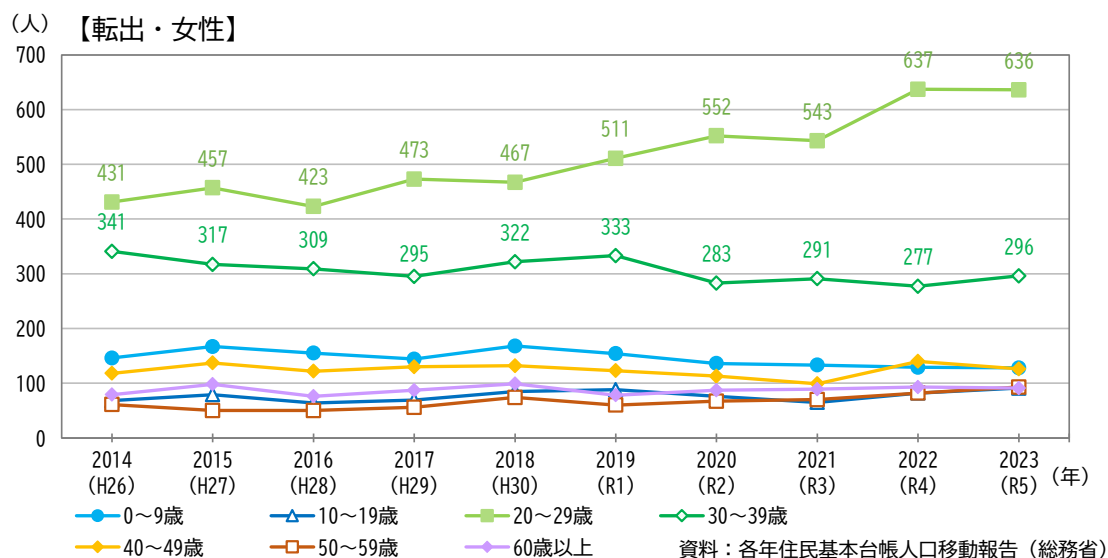


図 46 年齢 10 歳階級別転出数【女性】の推移

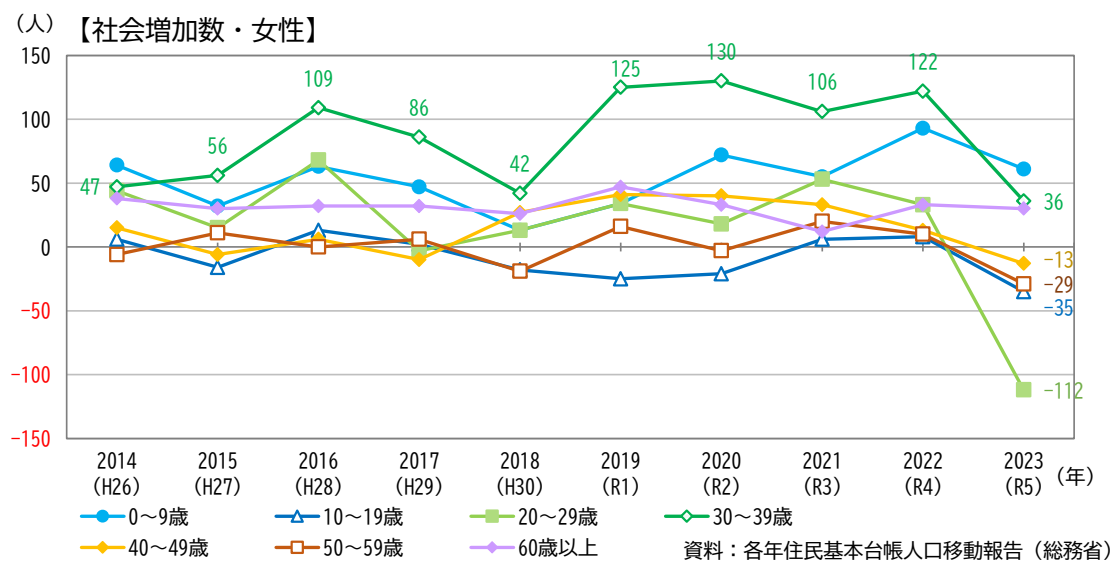


図 47 年齢10歳階級別社会増加数【女性】の推移

(参考：市への転出入届出に基づく)

- ・ 20歳代女性の2023年の転入者数は、県外から、県内からともに同程度急減している。
- ・ 30歳代女性の2023年の転入者数も、県外から、県内からともに減少しているが、県内からの方がその傾向はより顕著である。

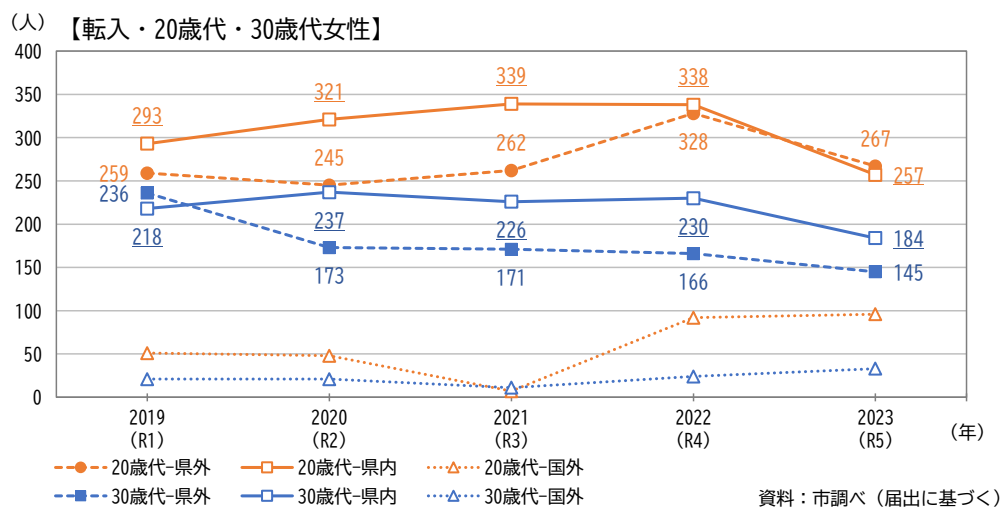


図 48 20歳代・30歳代【女性】の転入者数（市への届出件数に基づく）推移

(5) 20～30 歳代の転出入エリア別の経年変化

- ・転出入数が多い20～30歳代に着目し、転入前、転出後の主なエリアをみると、20歳代・30歳代とも対大阪府、対京都府の転出入数が多くなっている。
- ・20歳代の大阪府・京都府からの転入数は、2020年以降、多少の増減はあるものの横ばい傾向にある一方、愛知県・東京都からの転入はやや増加傾向にある。
- ・30歳代の京都府からの転入数は2021年以降減少傾向にあり、大阪府からは2020～2022年にかけては増加傾向にあったが、2023年には減少に転じている。

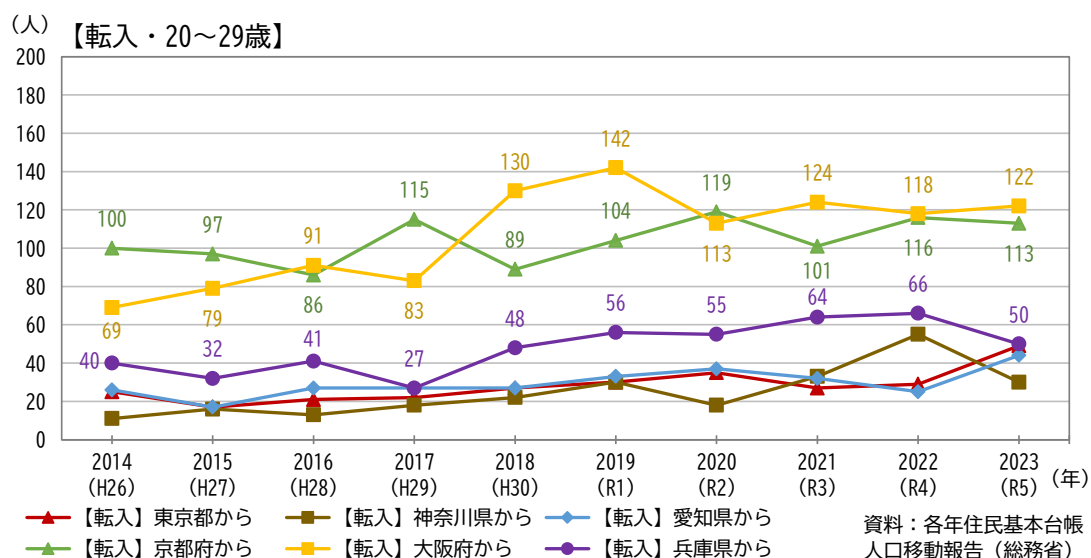


図 49 20～29 歳の主な都府県（滋賀県除く）からの転入者の推移

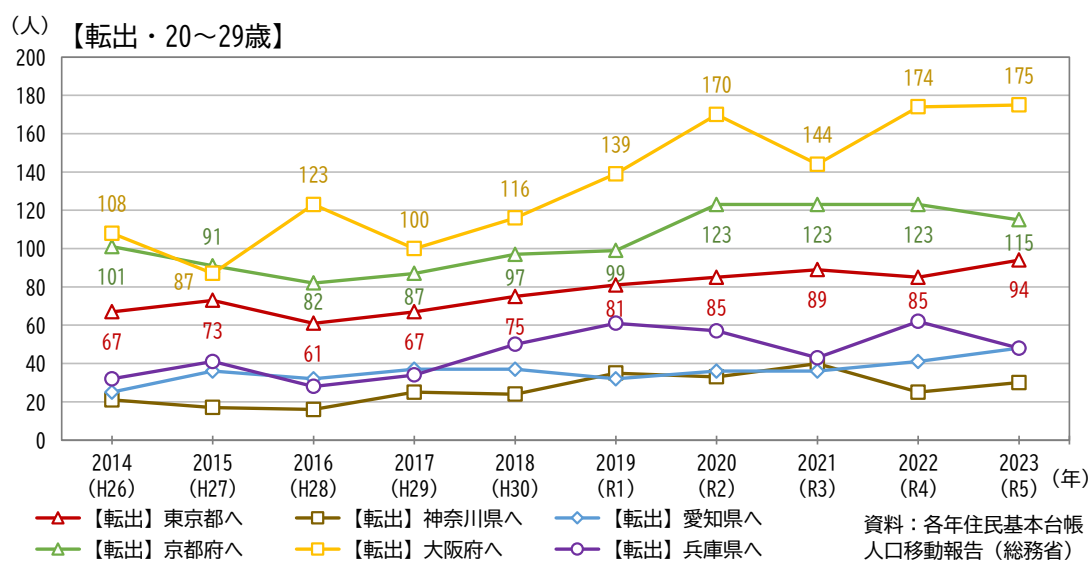


図 50 20～29 歳の主な都府県（滋賀県除く）への転出者の推移

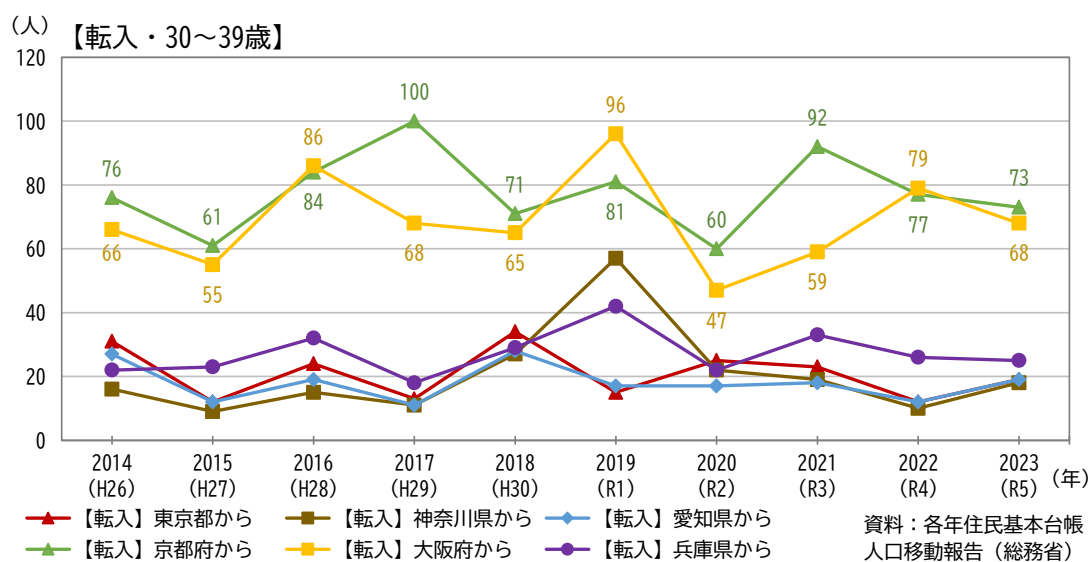


図 51 30～39 歳の主な都府県（滋賀県除く）からの転入者の推移

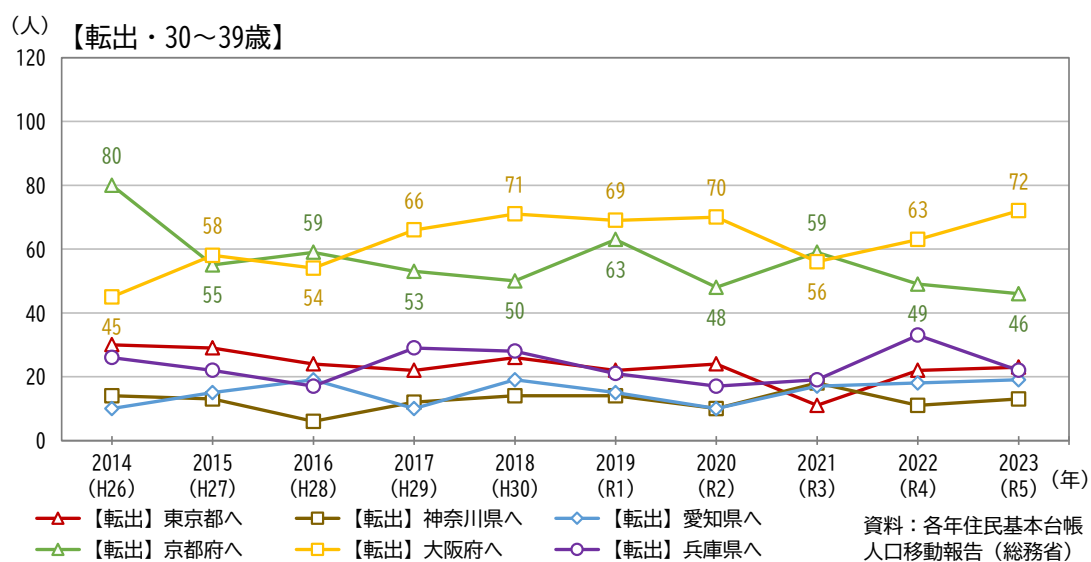
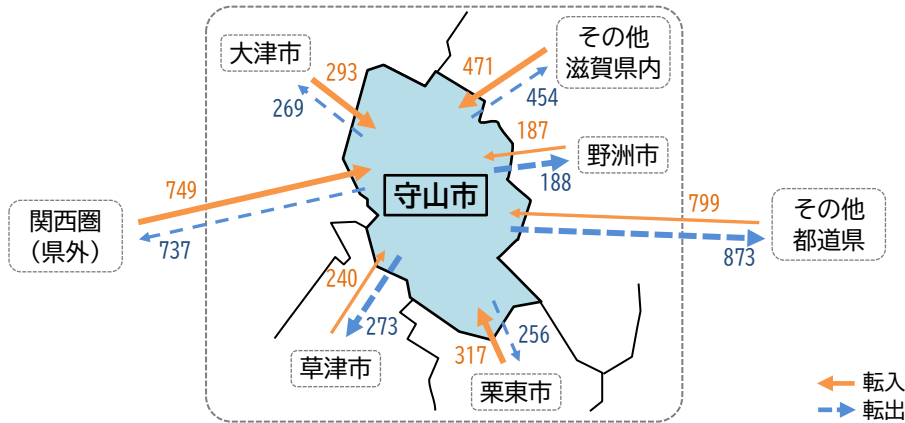


図 52 30～39 歳の主な都府県（滋賀県除く）への転出者の推移

4.2 転出入の現況（2023年）

（1）地域別転出入の現況（2023年）

- ・2023年の地域別転出入の状況を見ると、対滋賀県、対関西圏には転入超過となっているが、対その他都道府県には転出超過となっている。
- ・滋賀県内に限ると、対草津市、対野洲市には転出超過となっている。



【市全体】		(人)		
	全体計	滋賀県	関西圏	その他
転入者	3,056	1,508	749	799
転出者	3,050	1,440	737	873
増加数	6	68	12	-74

※関西圏：滋賀県を除く2府3県

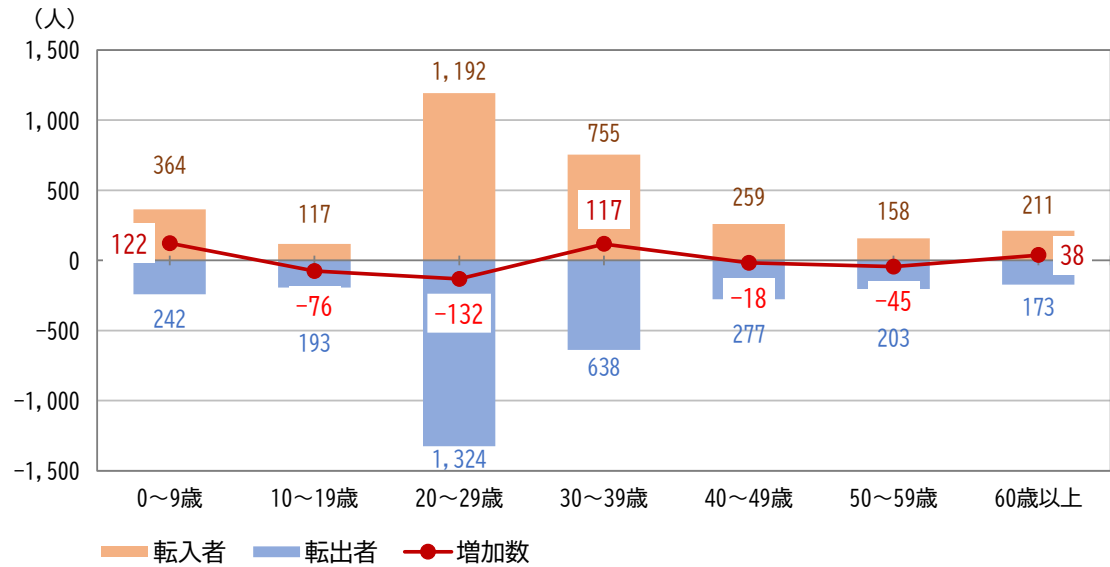
(県内)		(人)				
	県内計	大津市	草津市	栗東市	野洲市	その他
転入者	1,508	293	240	317	187	471
転出者	1,440	269	273	256	188	454
増加数	68	24	-33	61	-1	17

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 53 地域別にみた 2023 年の転入・転出者数〔市全体〕

(2) 年齢別転出入の現況（2023 年）

- ・年齢別でみると、20 歳代（-132 人）、10 歳代（-76 人）、50 歳代（-45 人）、40 歳代（-18）で転出超過となっている。



資料：各年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

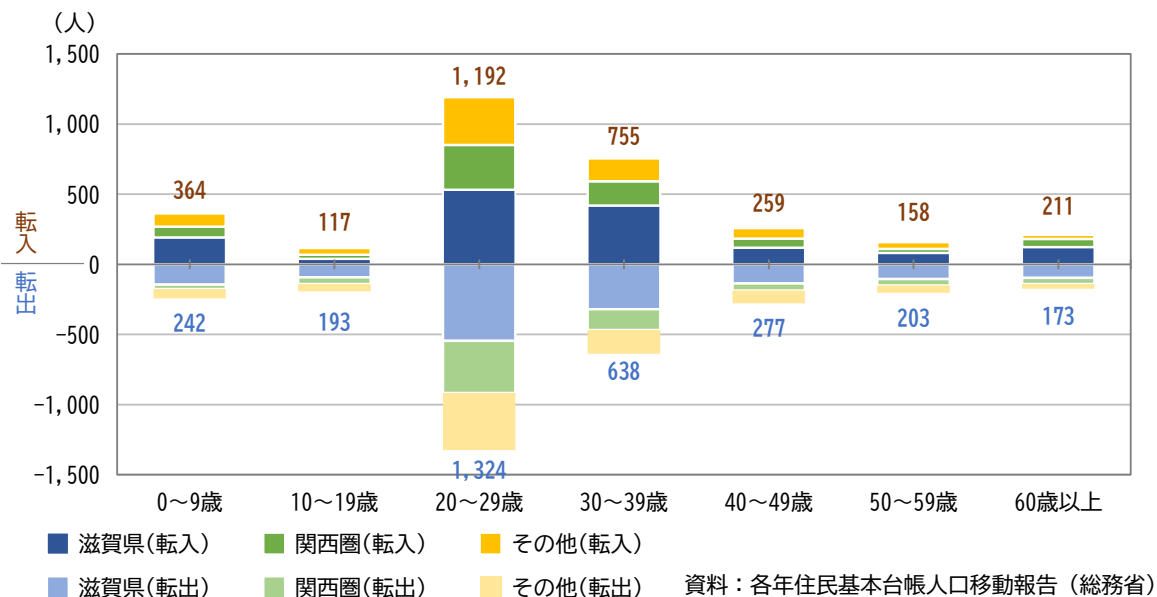
【市全体】		(人)						
	全年齢	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
転入者	3,056	364	117	1,192	755	259	158	211
転出者	3,050	242	193	1,324	638	277	203	173
増加数	6	122	-76	-132	117	-18	-45	38

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 54 年齢別にみた 2023 年の転入・転出者数【市全体】

(3) 年齢・地域別転出入の現況（2023 年）

- ・転出超過となっている 20 歳代では、その他都道県、関西圏に対して転出超過が大きくなっている。一方、10 歳代では、滋賀県内に対して転出超過が大きくなっている。
- ・滋賀県内に対しては、転入超過が 68 人となっており、年齢別の内訳では 30 歳代（+100 人）、10 歳未満（+47 人）の転入超過が大きくなっている。



【市全体の社会増加数】								(人)
	全年齢	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
総数	6	122	-76	-132	117	-18	-45	38
滋賀県	68	47	-52	-13	100	-18	-22	26
関西圏	12	48	-19	-53	25	14	-19	16
その他	-74	27	-5	-66	-8	-14	-4	-4

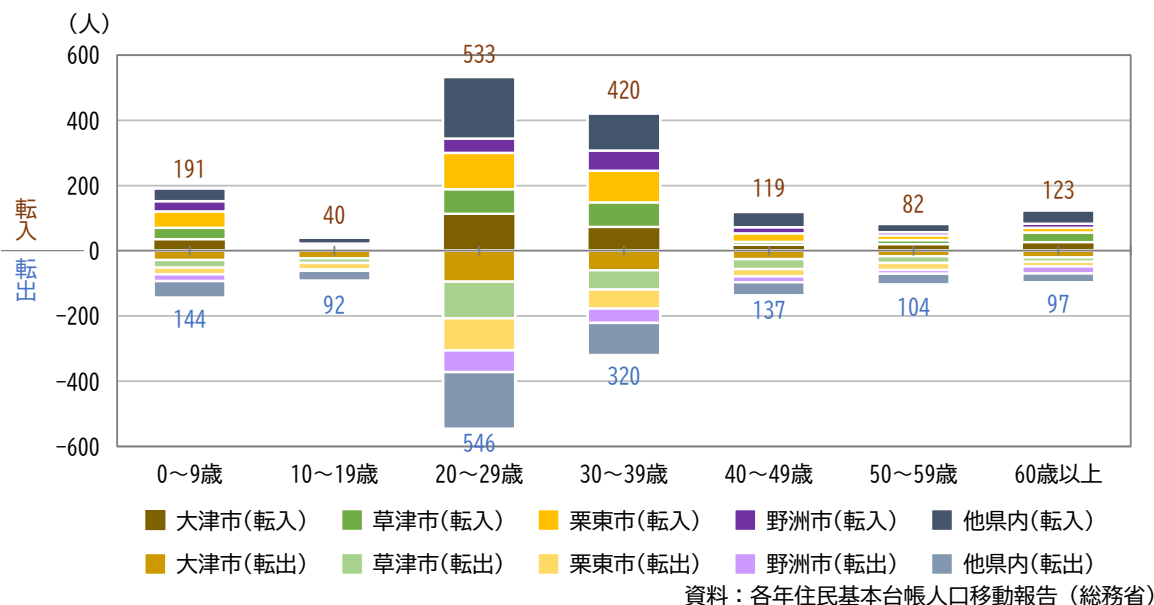
※関西圏：滋賀県を除く2府3県

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 55 年齢別・地域別にみた 2023 年の転入・転出者数 [市全体]

(4) 滋賀県内移動における年齢・地域別転出入の現況（2023 年）

- ・滋賀県内に対して転入超過となっている 10 歳未満、30 歳代を市町別にみると、ともに特に栗東市に対して転入超過が大きくなっている。
- ・一方、滋賀県内に対して転出超過となっている 10 歳代は野洲市を除く市に対して転出超過となっている。また、40 歳代では、特に草津市に対して転出超過が大きくなっている。



【市全体の社会増加数】								
	全年齢	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
県内総数	68	47	-52	-13	100	-18	-22	26
大津市	24	7	-15	18	13	-8	3	6
草津市	-33	11	-12	-36	16	-21	-7	16
栗東市	61	31	-16	12	39	3	-8	0
野洲市	-1	10	3	-22	18	1	-2	-9
その他	17	-12	-12	15	14	7	-8	13

※その他：滋賀県内その他市町

資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 56 年齢別・県内市町別にみた 2023 年の転入・転出者数〔市全体〕

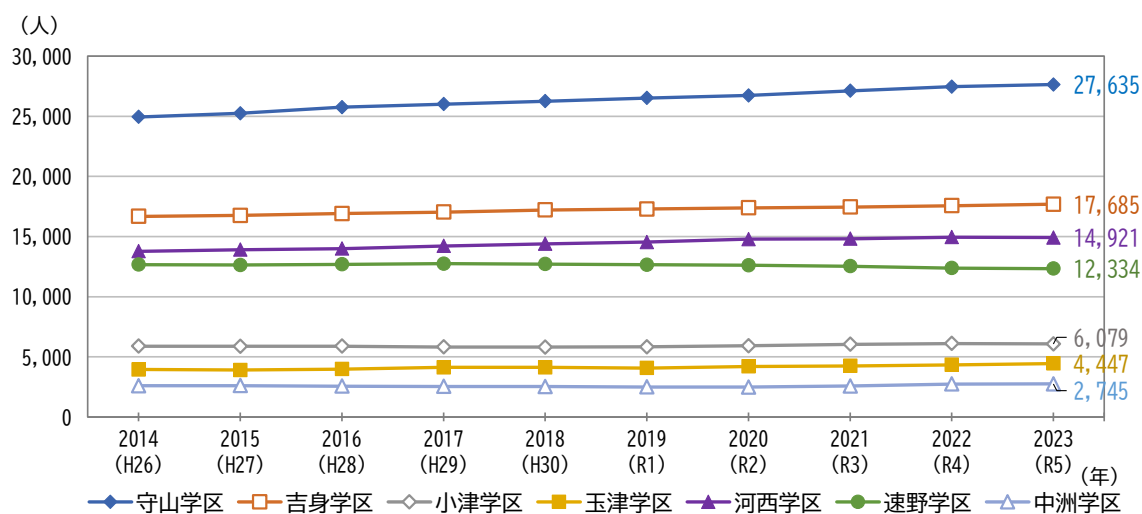
5. 学区別の動向

- 守山学区、吉身学区は増加傾向が継続している。玉津学区は 2020 年以降、中洲学区は 2021 年以降、増加傾向となっている。
- 河西学区は 2022 年までは増加していたが、2023 年はやや減少した。小津学区も 2019 年に減少から増加に転じていたが、2023 年はやや減少した。
- 速野学区は、2017 年をピークに減少傾向が継続している。

本市の学区別の動向について、学区別人口の推移、学区別の転入・転出状況を以下に整理した。

5.1 学区別人口の推移

- ・2014 年以降の学区別の人口（住民基本台帳人口）推移をみると、守山学区、吉身学区は継続して増加傾向、河西学区は 2022 年までは増加していたが 2023 年はやや減少した。玉津学区は、変動はあるものの 2020 年以降増加傾向が続いている。また、小津学区は 2018 年までは減少傾向にあったものの 2019 年から増加に転じたが、2023 年はやや減少した。中洲学区は 2020 年まで減少傾向にあったが、2021～2022 年に地区計画の影響と思われる人口増がみられ、増加に転じている。一方、速野学区は、2017 年をピークに減少傾向が続いている（図 57、図 58）。
- ・2023 年における学区別年齢 3 区分比率をみると、小津、玉津、中洲学区では 65 歳以上の割合が 30%を超えている（図 59）。

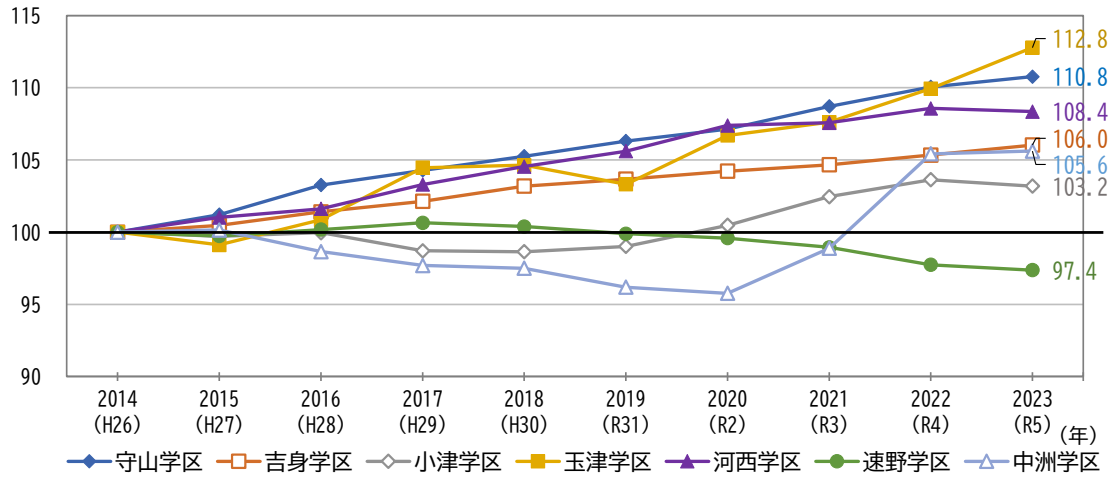


資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在



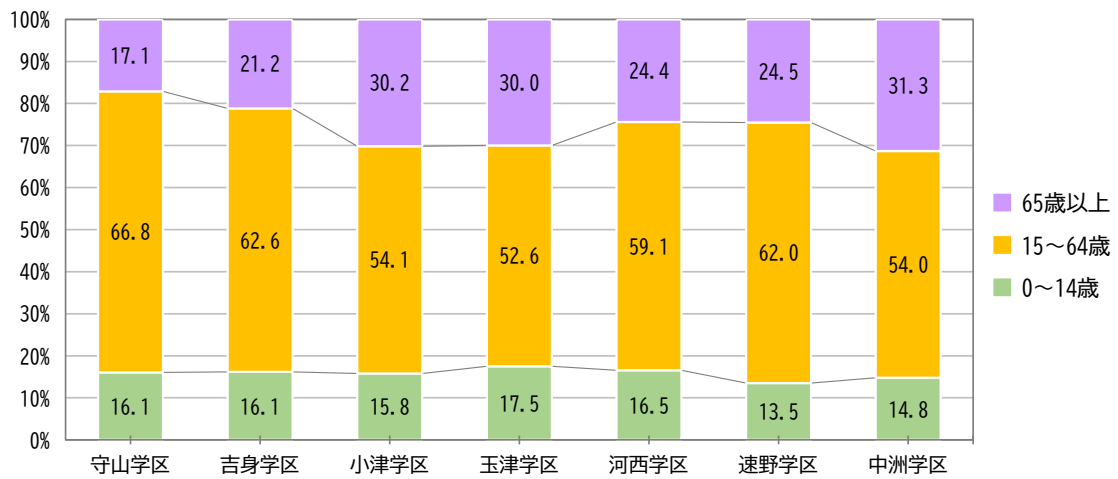
図 57 学区別の人口の推移及び学区区分図

2014年=100



資料：～2020 国勢調査（総務省）/各年10月1日現在、2021～住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 58 1995 年=100 とした場合の学区別の人口の伸び

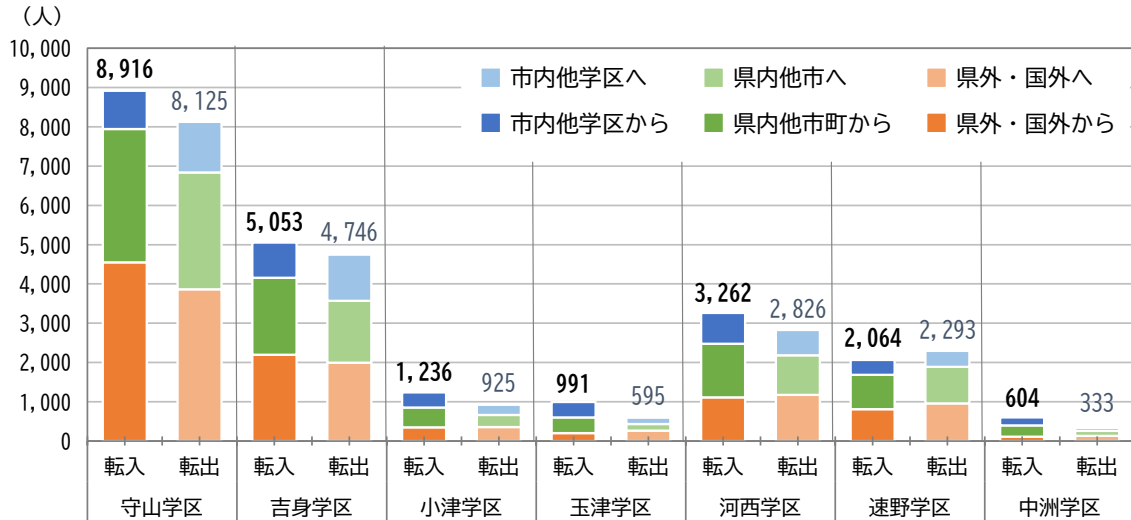


資料：住民基本台帳（市市民課）/9月30日現在

図 59 学区別の年齢 3 区分比率（2023 年）

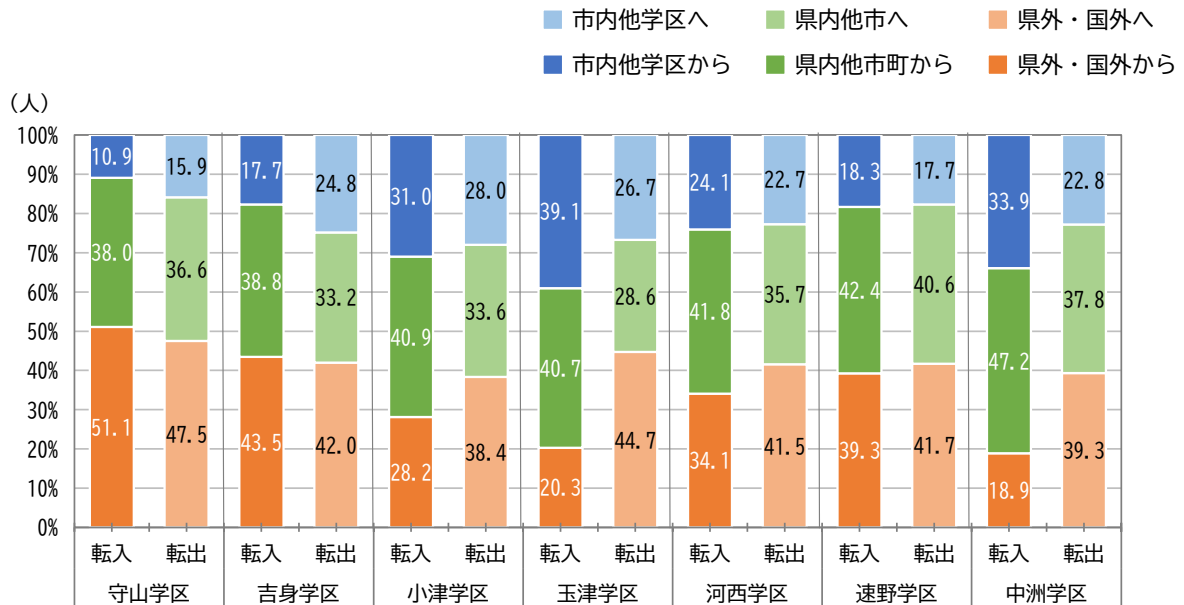
5.2 学区別の転入・転出状況

- ・最も転出入数（2019～2023 年の合計）が多いのは、守山学区で転入 8,916 人、転出 8,125 人、次いで、吉身学区で転入 5,053 人、転出 4,746 人となっている。一方、中洲学区（転入 604 人、転出 333 人）、玉津学区（転入 991 人、転出 595 人）は、転出入ともに 1,000 人未満となっている。
- ・転入者の割合をみると、対県外・国外からの割合が最も高いのは、守山学区で過半数を占めている。一方、転入数が他学区と比べて少ない小津学区、玉津学区、中洲学区では市内他学区から、県内他市町からの割合が高くなっている。



資料：市市民課データ

図 60 学区別の転入者数・転出者数（2019～2023 年計）



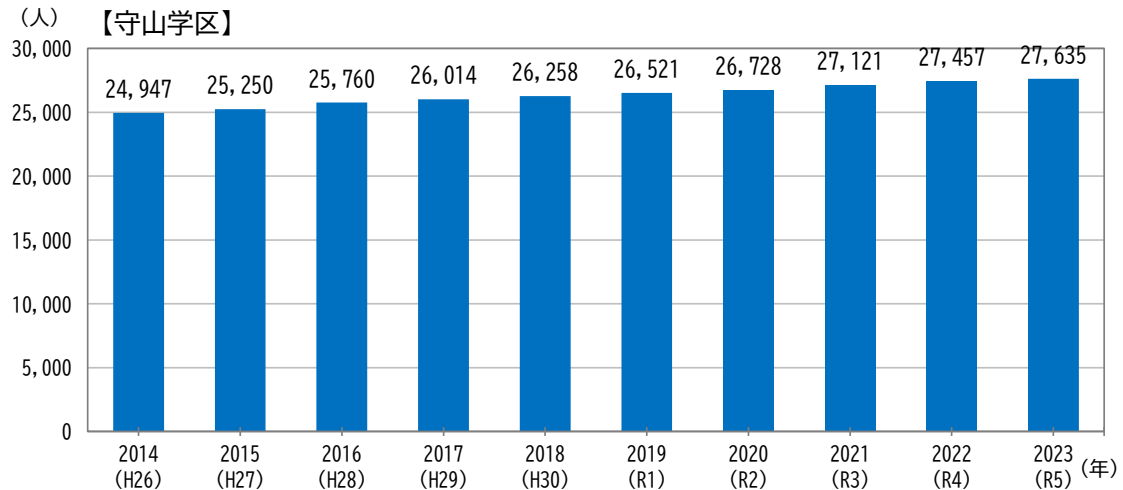
資料：市市民課データ

図 61 学区別の転入者・転出者比率（2019～2023 年計）

5.3 各学区の人口・転出入数の推移

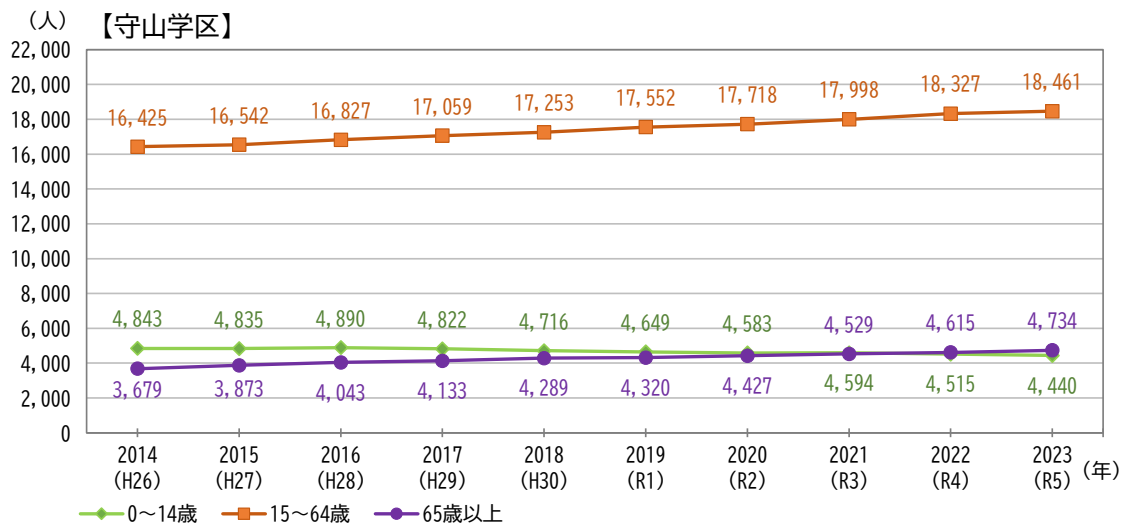
(1) 守山学区の人口・転出入数の推移

- ・ 守山学区の人口は、2014 年から一貫して増加傾向が続いている。
- ・ 年齢 3 区分別にみると、15～64 歳と 65 歳以上は増加傾向が続いているが、0～14 歳は減少傾向となっており、2021 年には 65 歳以上人口を 0～14 歳人口が下回った。
- ・ 2019～2023 年の転入数は変動があるが、各年とも転出数を上回っている。一方、市内転居数は、各年とも他学区への転居（出）が他学区からの転居（入）を上回っている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 62 守山学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 63 守山学区の年齢 3 区分人口の推移

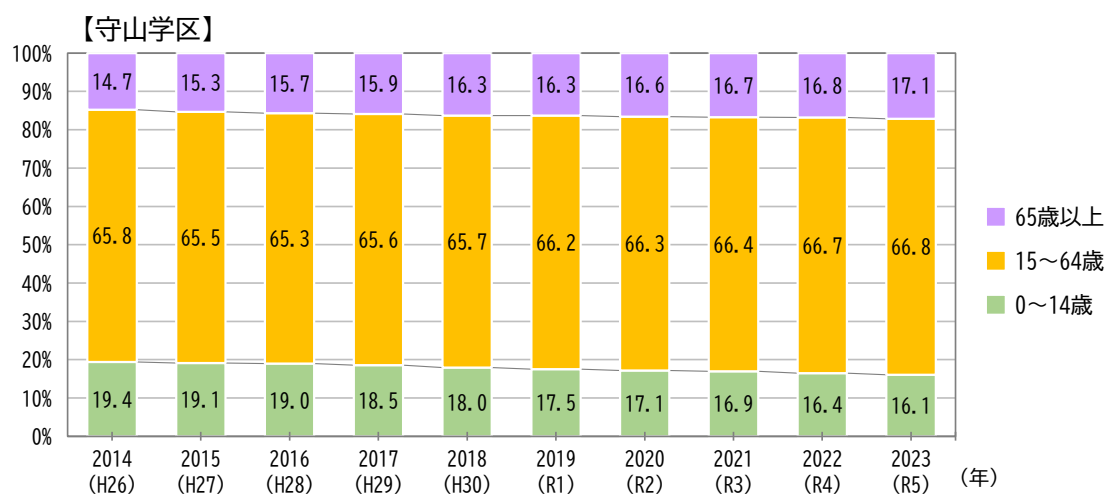


図 64 守山学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

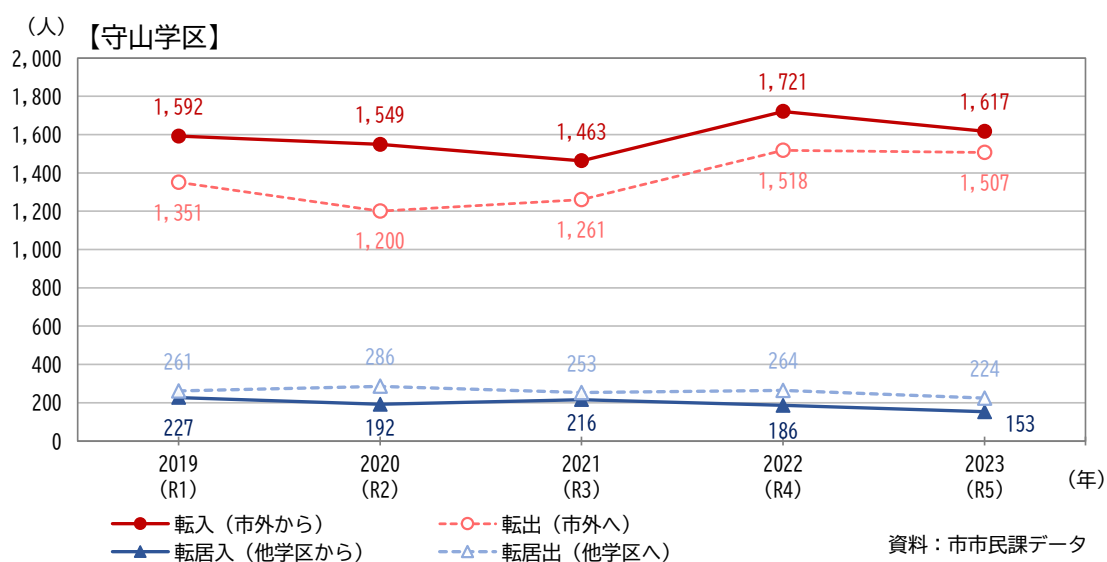
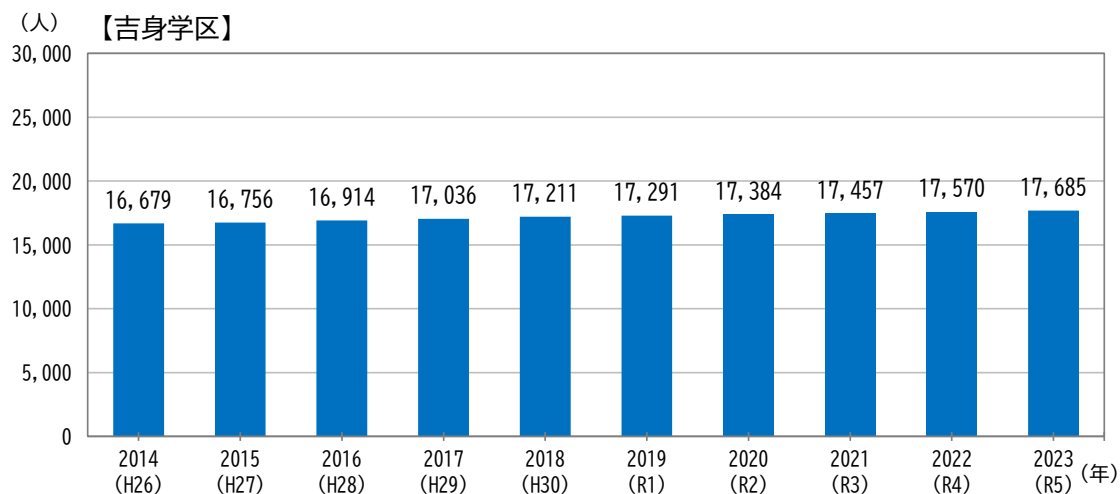


図 65 守山学区の転出入数・市内転居数の推移

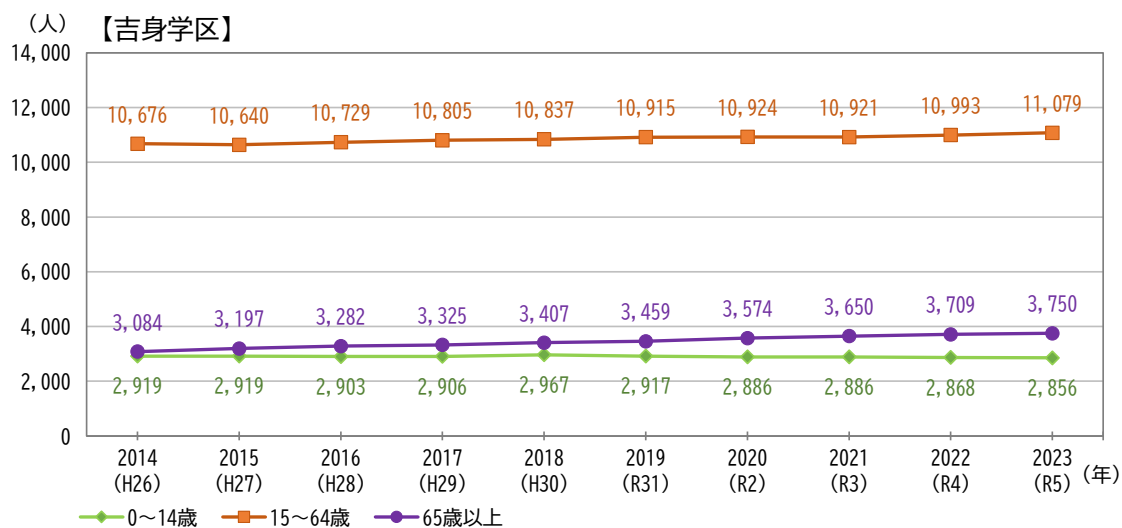
(2) 吉身学区の人口・転出入数の推移

- ・吉身学区の人口は、2014 年から一貫して増加傾向が続いている。
- ・年齢 3 区分別にみると、65 歳以上は増加傾向が続いている。また、15～64 歳も概ね微増傾向が続いている。一方、0～14 歳は、2018 年をピークに減少傾向となっている。
- ・2019～2023 年の転入数は、800～850 人で推移しており、各年とも転出数を上回っている。一方、市内転居数は、各年とも他学区への転居（出）が他学区からの転居（入）を上回っている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 66 吉身学区の人口推移



資料：基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 67 吉身学区の年齢 3 区分人口の推移

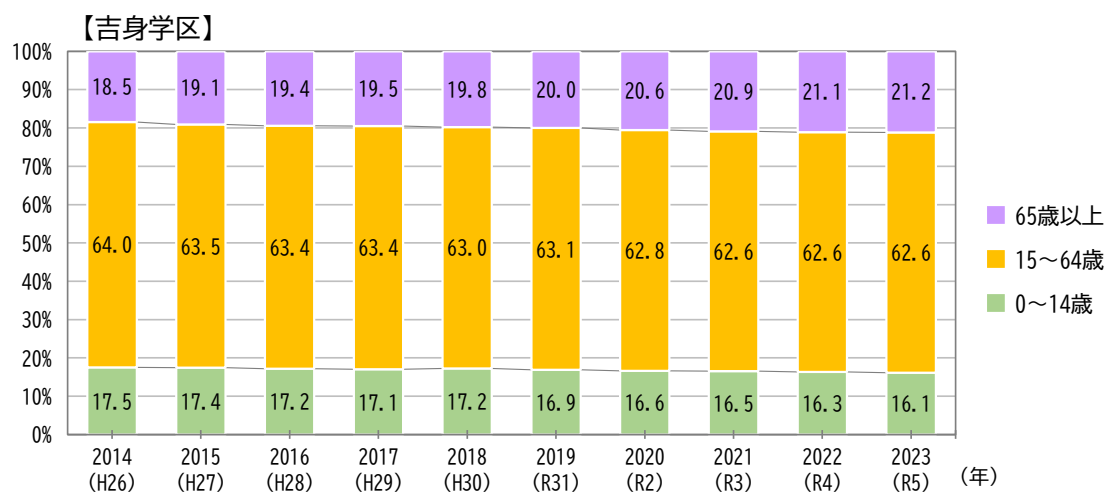


図 68 吉身学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

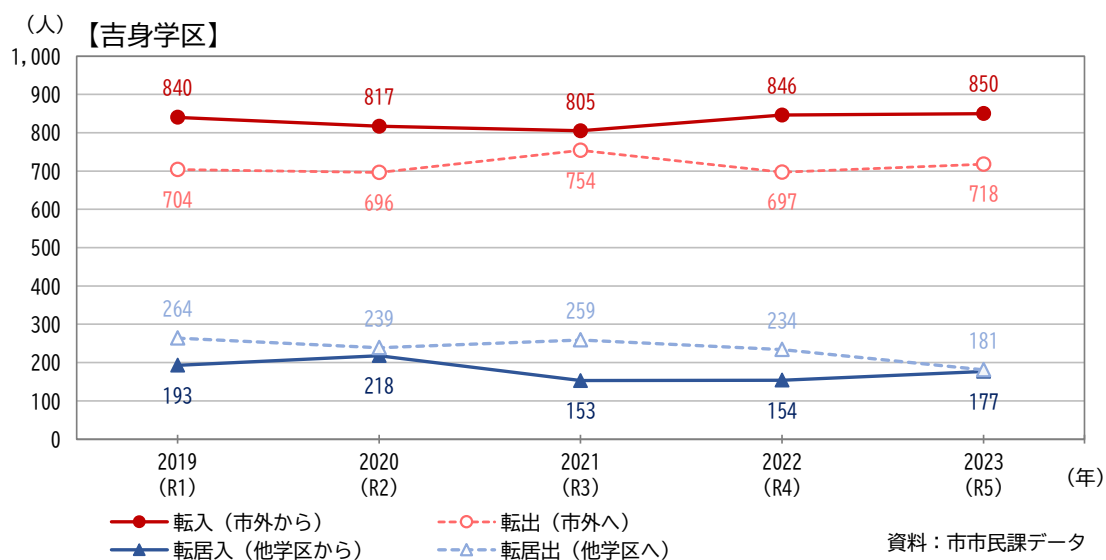
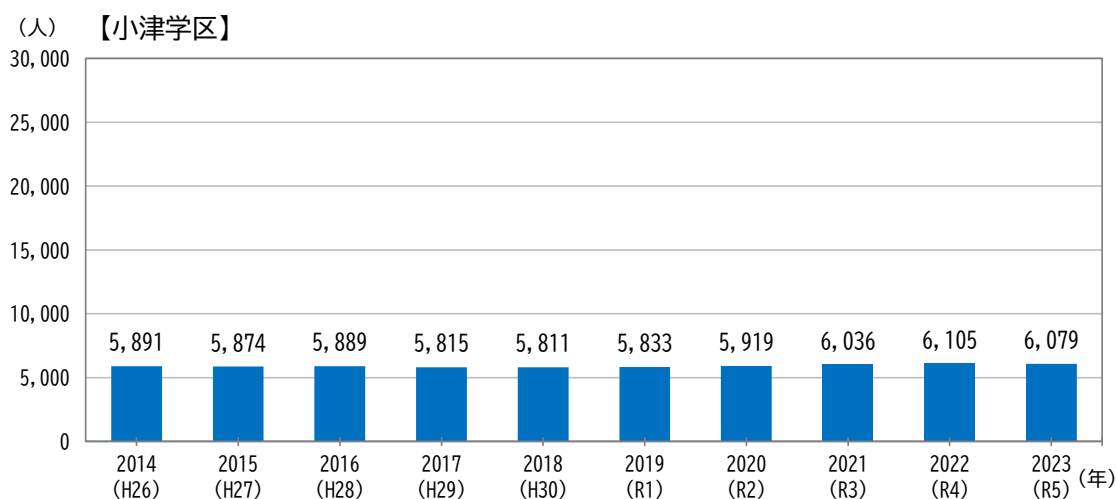


図 69 吉身学区の転出入数・市内転居数の推移

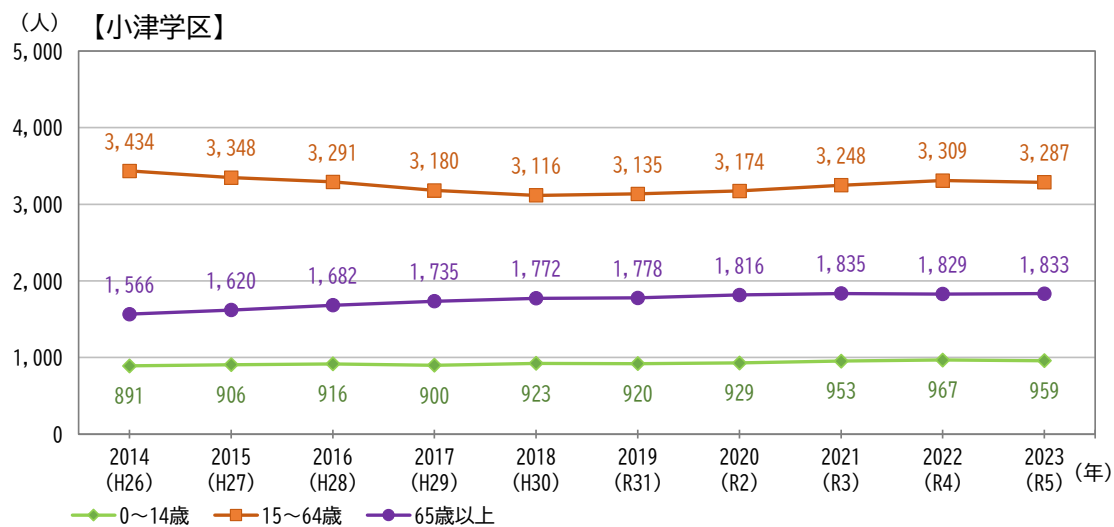
(3) 小津学区の人口・転出入数の推移

- ・小津学区の人口は、2019 年から 2022 年にかけて増加傾向にあったが、2023 年は減少に転じた。
- ・年齢 3 区分別にみると、65 歳以上は概ね増加傾向が続いている。また、0～14 歳は 2020 年から 2022 年にかけて増加傾向にあったが、2023 年は減少した。一方、15～64 歳は 2014 年から 2018 年にかけて減少傾向にあったものの 2019 年から 2022 年にかけて増加傾向に転じていたが、2023 年は減少した。
- ・2019～2023 年の転入数は、2020 年をピークに減少しており、2023 年には転出数が転入数を上回る転出超過となった。一方、市内転居数は、各年とも他学区への転居（入）が他学区からの転居（出）を上回っている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 70 小津学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 71 小津学区の年齢 3 区分人口の推移

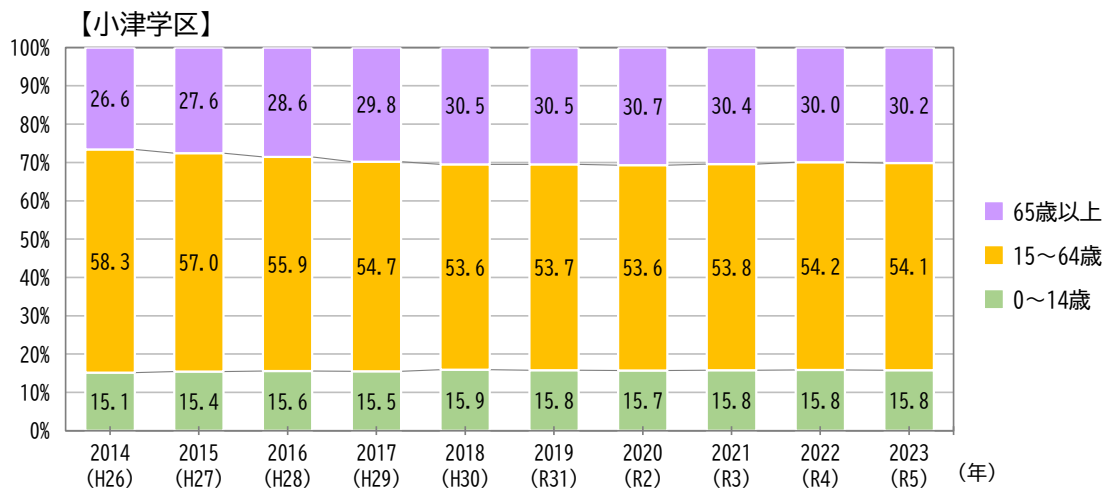


図 72 小津学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

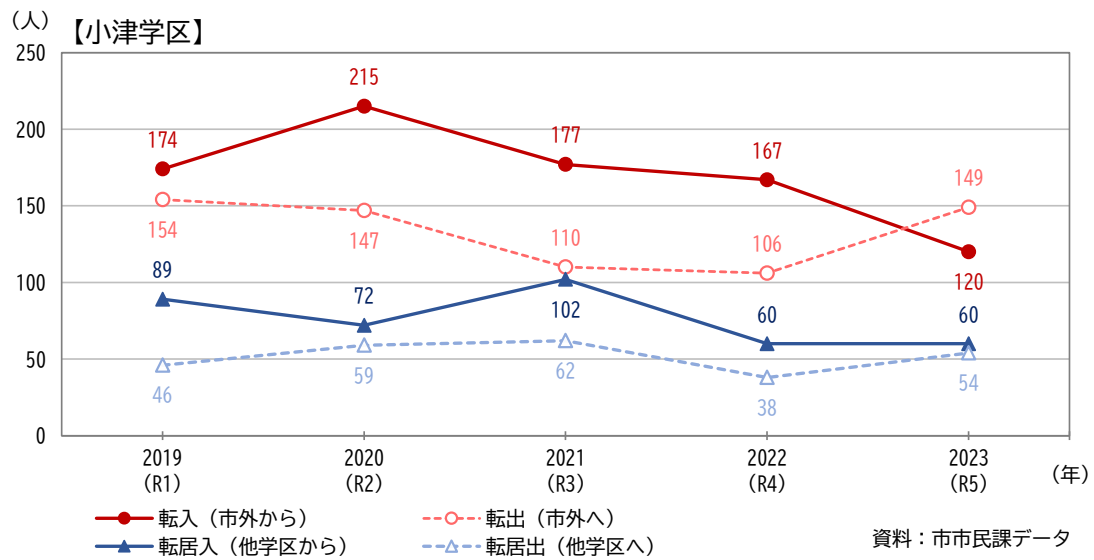
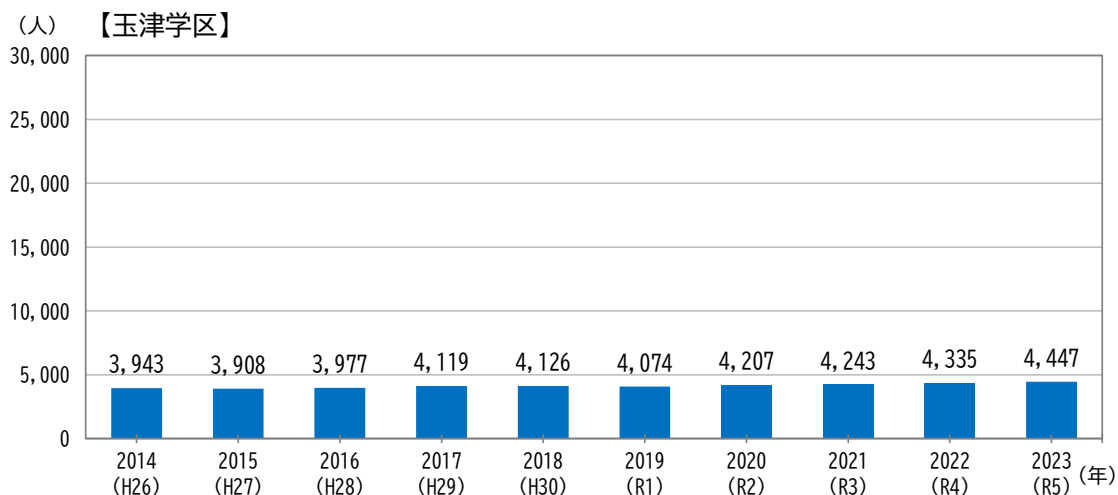


図 73 小津学区の転出入数・市内転居数の推移

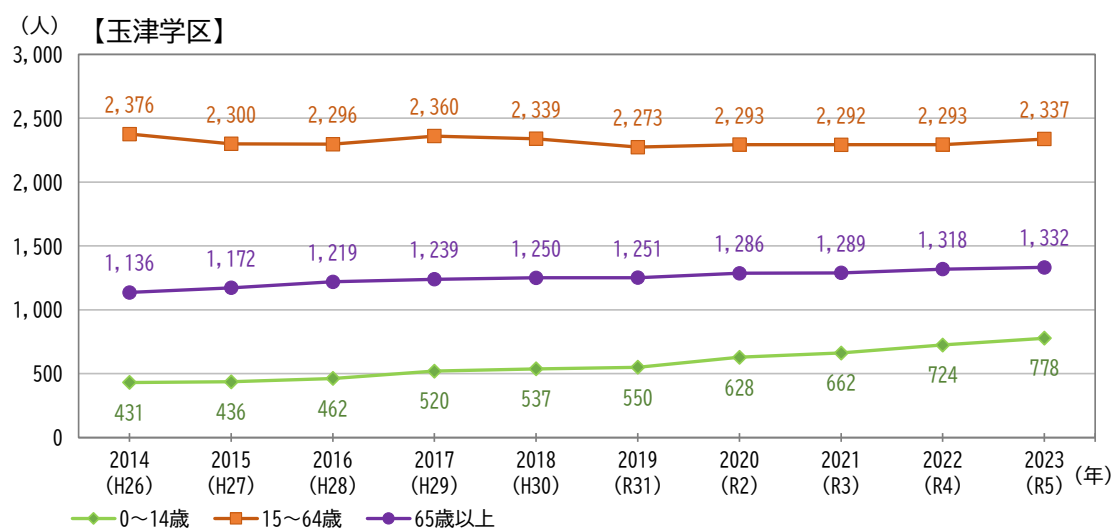
(4) 玉津学区の人口・転出入数の推移

- ・玉津学区の人口は、2014 年以降、概ね増加傾向が続いている。
- ・年齢 3 区分別にみると、0～14 歳と 65 歳以降は 2014 年以降、一貫して増加傾向が続いており、特に 0～14 歳は 2019 年以降は伸びが大きくなっている。一方、15～64 歳は 2014 年時点よりも少なくなっているが、2020 年以降は横ばい～微増となっている。
- ・2019～2023 年の転入数は変動があるが、各年とも転出数を上回っている。また、市内転居数は、各年とも他学区への転居（入）が他学区からの転居（出）を大きく上回っている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 74 玉津学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 75 玉津学区の年齢 3 区分人口の推移

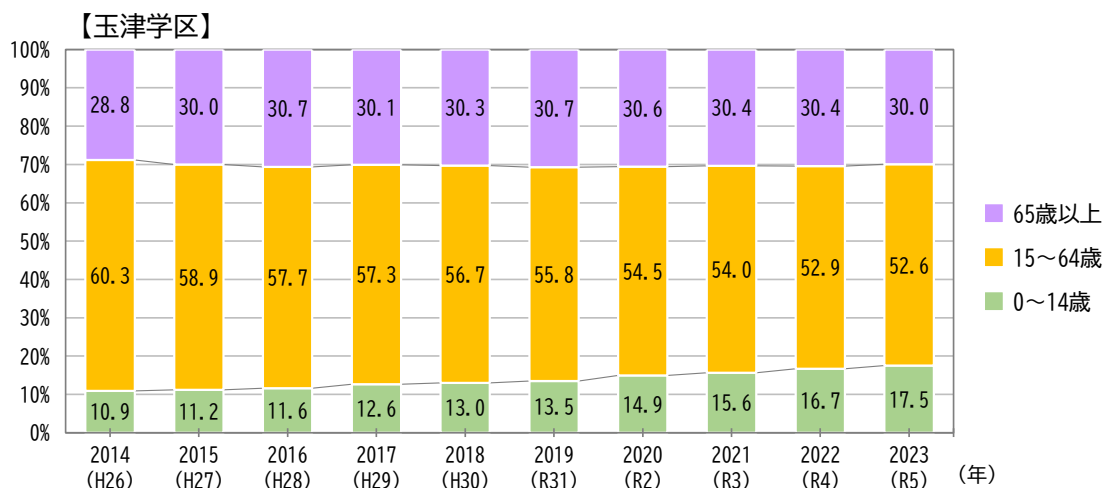


図 76 玉津学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

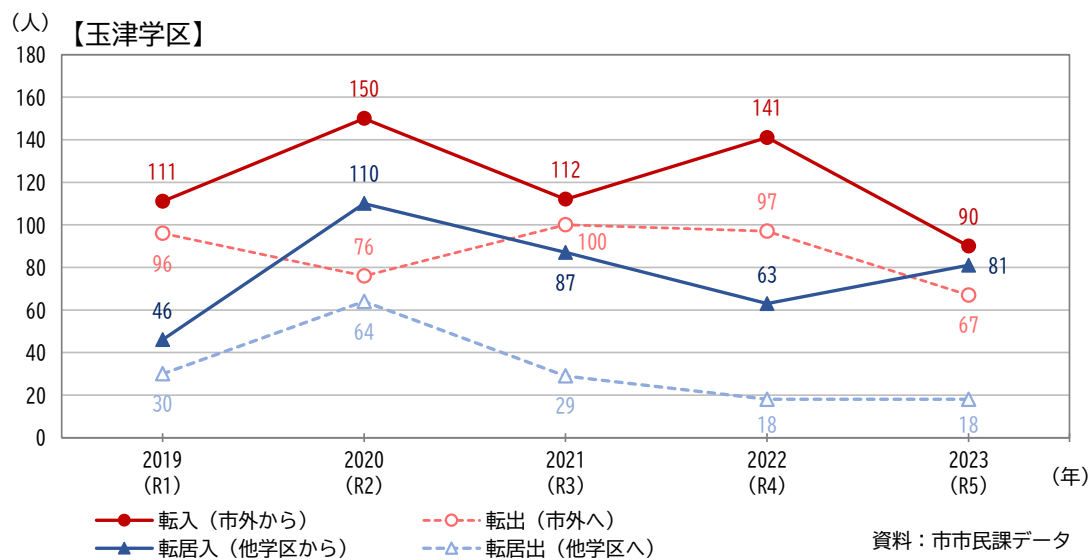
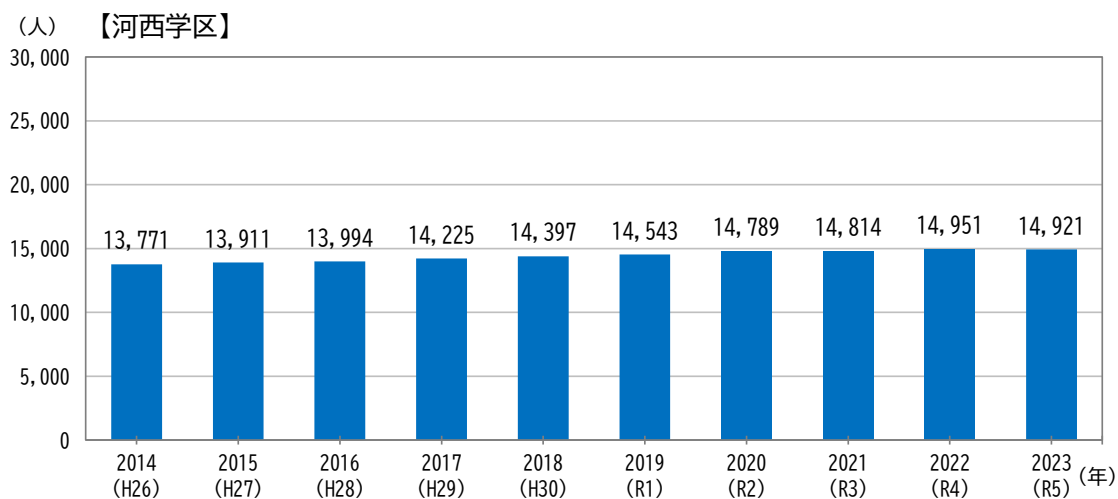


図 77 玉津学区の転出入数・市内転居数の推移

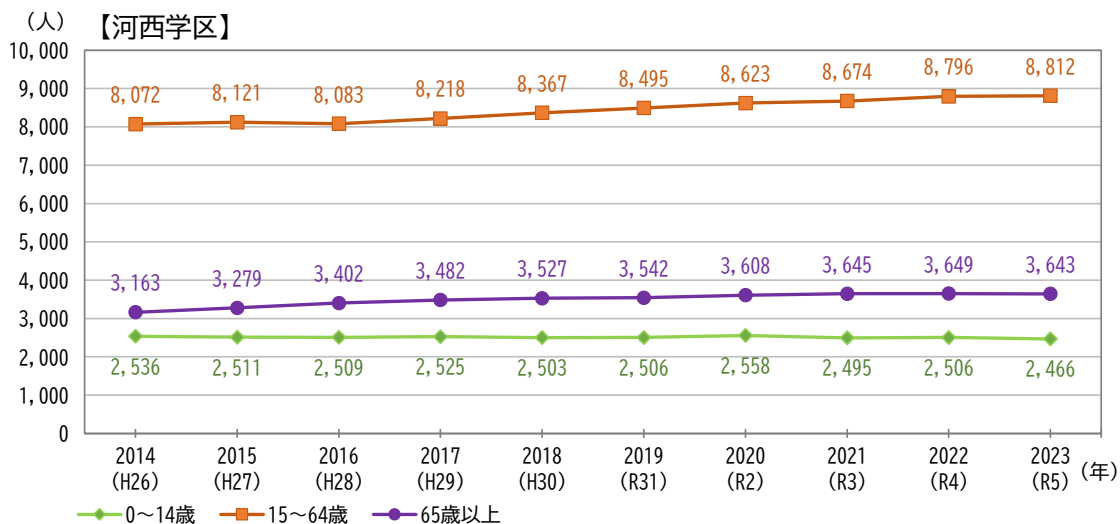
(5) 河西学区の人口・転出入数の推移

- ・河西学区の人口は、2014年から2022年にかけて増加傾向が続いていたが、2023年はやや減少した。
- ・年齢3区分別にみると、15～64歳は2017年から増加傾向にある。また、65歳以上は2022年まで増加傾向にあったが、2023年はやや減少した。一方、0～14歳は変動はあるものの大きな増減はみられない。
- ・2019～2023年の転入数は、2022年に減少から増加に転じたが、2023年は大幅に減少し、転出数が転入数を上回る転出超過となった。また、市内転居数も、2023に他学区への転居（出）が他学区からの転居（入）を上回った。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 78 河西学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 79 河西学区の年齢3区分人口の推移

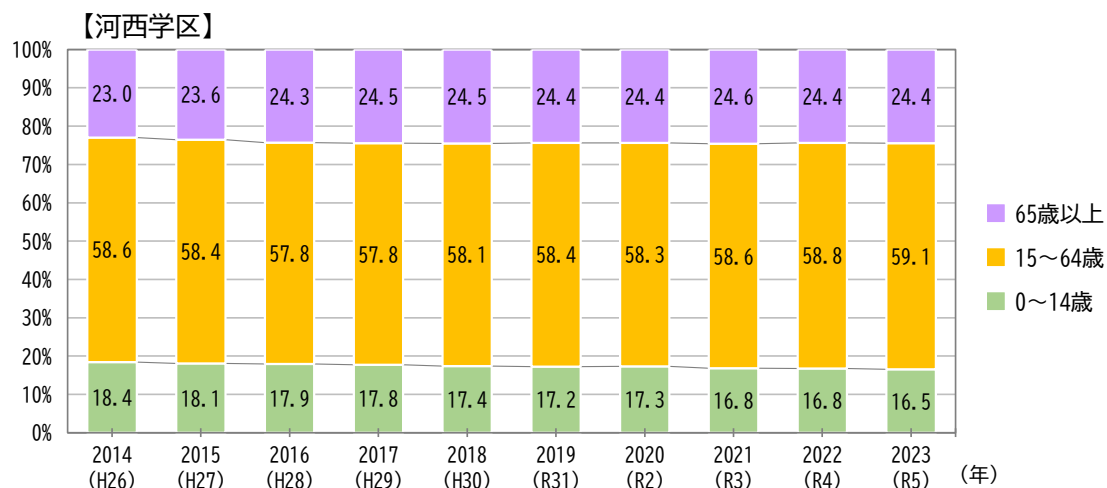


図 80 河西学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

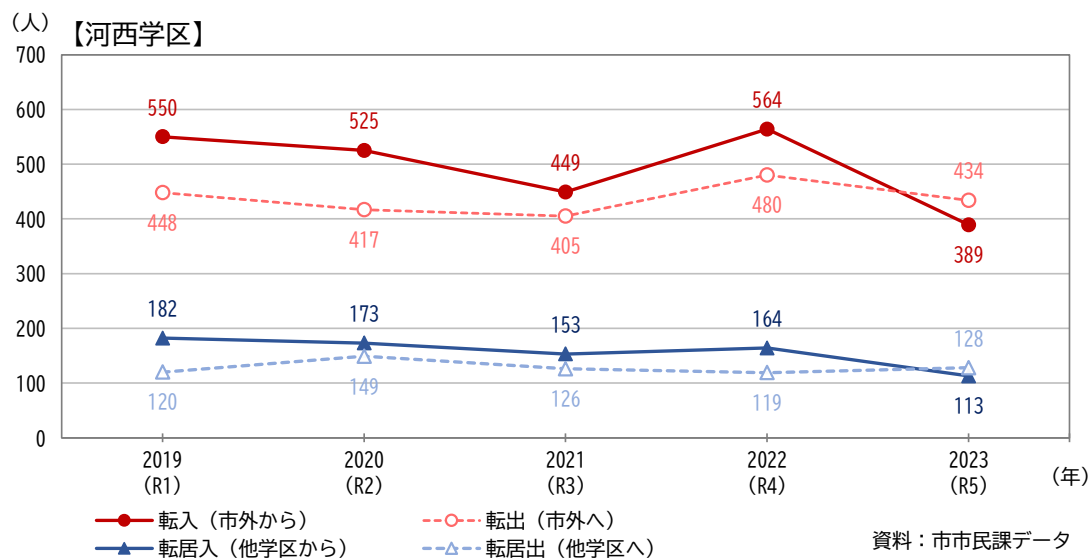
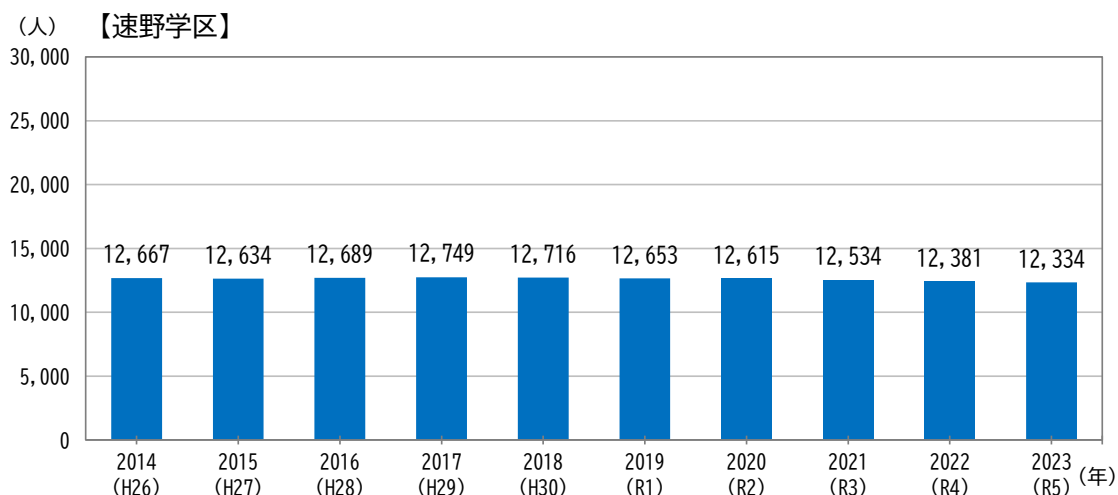


図 81 河西学区の転出入数・市内転居数の推移

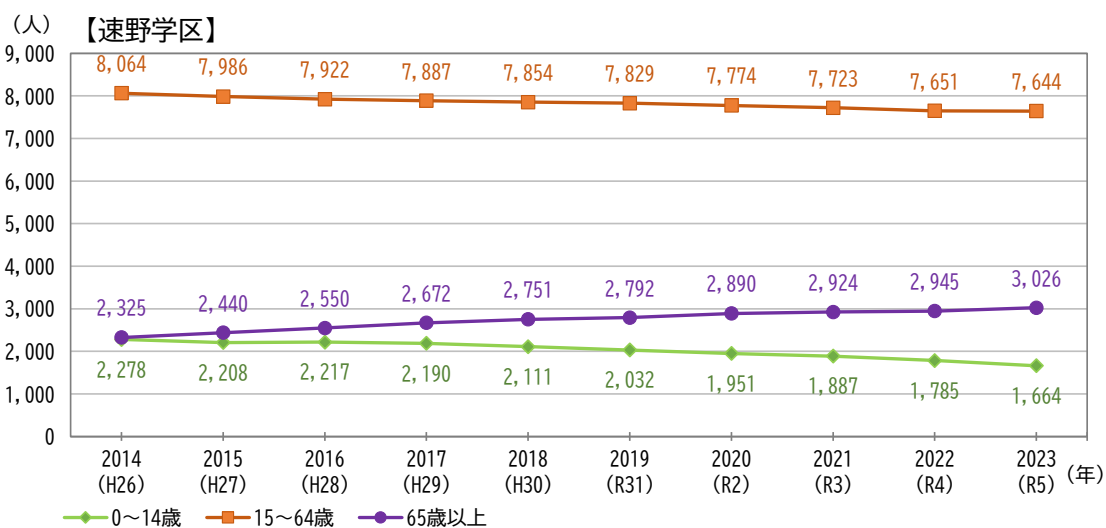
(6) 速野学区の人口・転出入数の推移

- ・速野学区の人口は、2018 年以降減少傾向が続いている。。
- ・年齢 3 区分別にみると、0～14 歳、15～65 歳は減少傾向が続いている一方で、65 歳以上は一貫して増加傾向となっている。
- ・2019～2023 年の転入数は、2019 年から 2021 年にかけて減少していたが、以降、増加に転じ、2023 年には転入数が転出数を上回る転入超過となった。また、市内転居数は、変動があるが 2023 年は他学区への転居（入）が他学区からの転居（出）を上回っている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 82 速野学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 83 速野学区の年齢 3 区分人口の推移

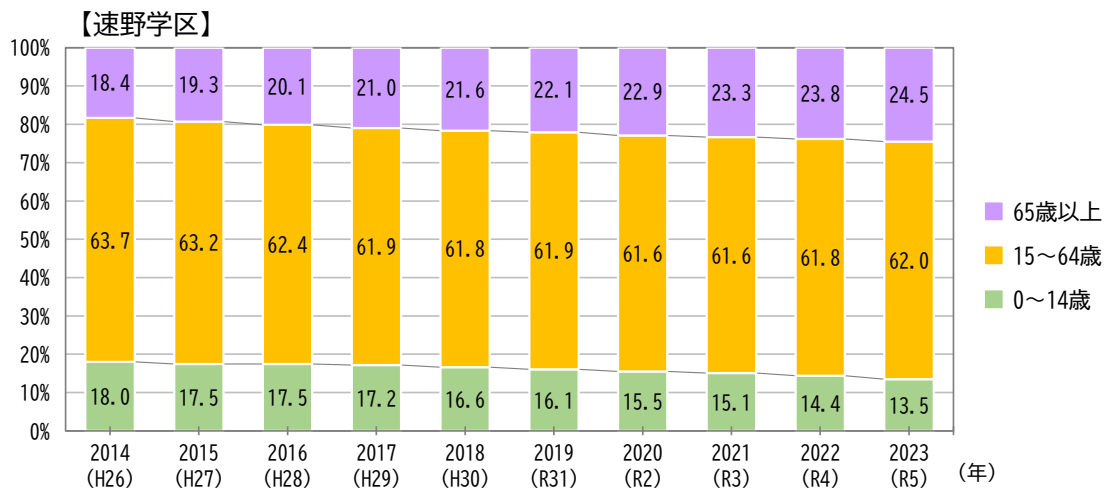


図 84 速野学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

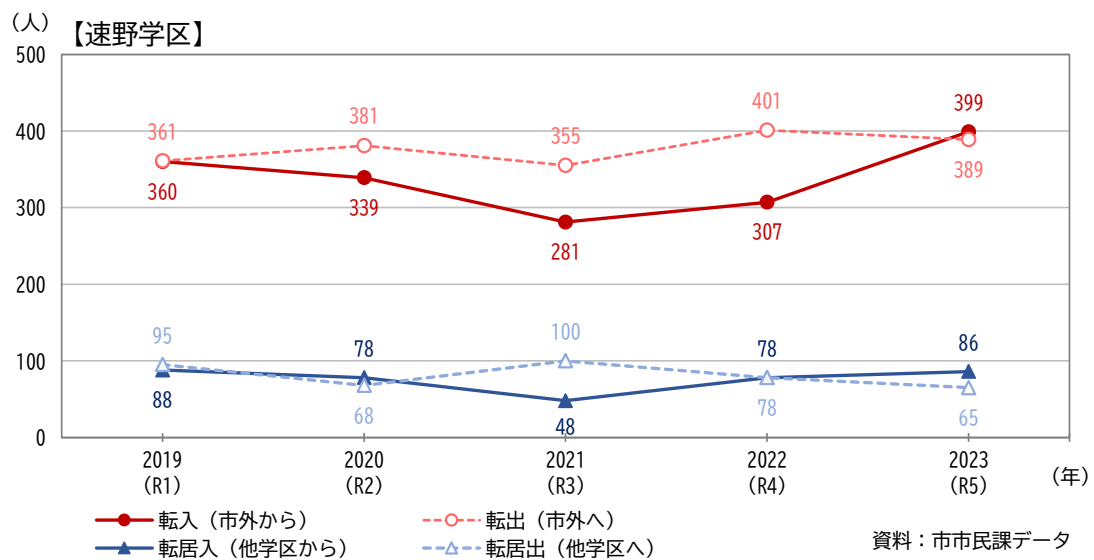
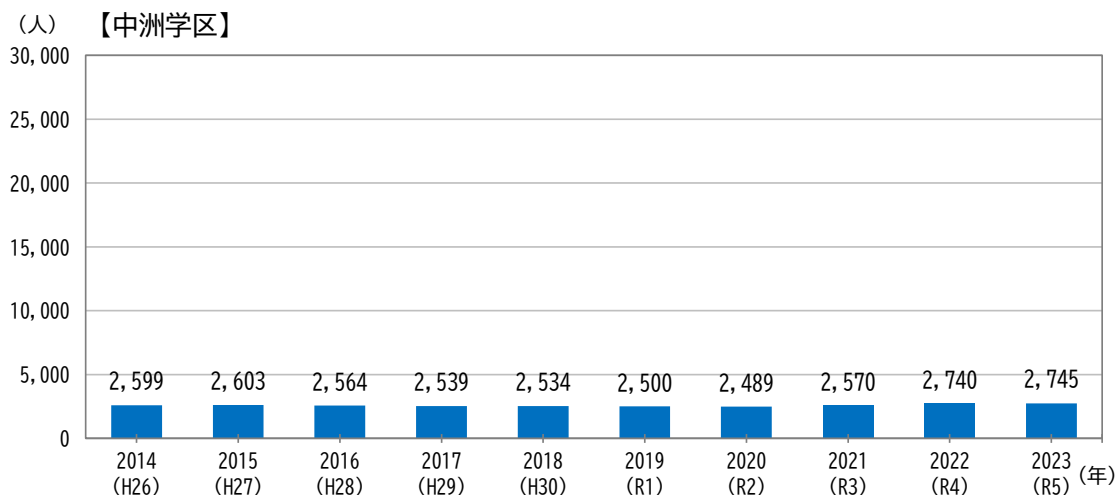


図 85 速野学区の転出入数・市内転居数の推移

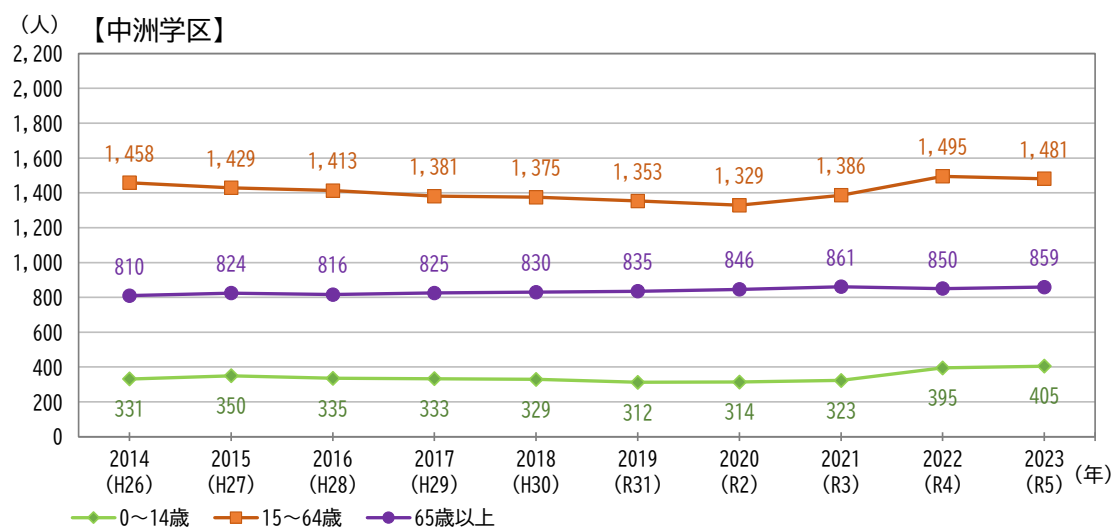
(7) 中洲学区の人口・転出入数の推移

- ・中洲学区の人口は、2020 年まで減少傾向となっていたが、以降は増加傾向にある。
- ・年齢 3 区別にみると、0～4 歳は 2016 年から 2019 年にかけて減少傾向にあったが、以降は増加傾向となっている。また、15～64 歳は 2014 年から 2020 年にかけて減少傾向が続いていたものの 2021 年から 2022 年は増加に転じていたが、2023 年は減少した。一方、65 歳以上は概ね増加傾向が継続している。
- ・2019～2023 年の転入数は変動があるが、2020 年から 2022 年にかけては増加し、転出数を大きく上回っていたが、2023 年には転出超過に転じた。また、市内転居数も、2020 年、2021 年は他学区への転居（入）が他学区からの転居（出）を大きく上回っていたが、2023 年は転居増減なしとなっている。



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 86 中洲学区の人口推移



資料：住民基本台帳（市市民課）/各年9月30日現在

図 87 中洲学区の年齢 3 区分人口の推移

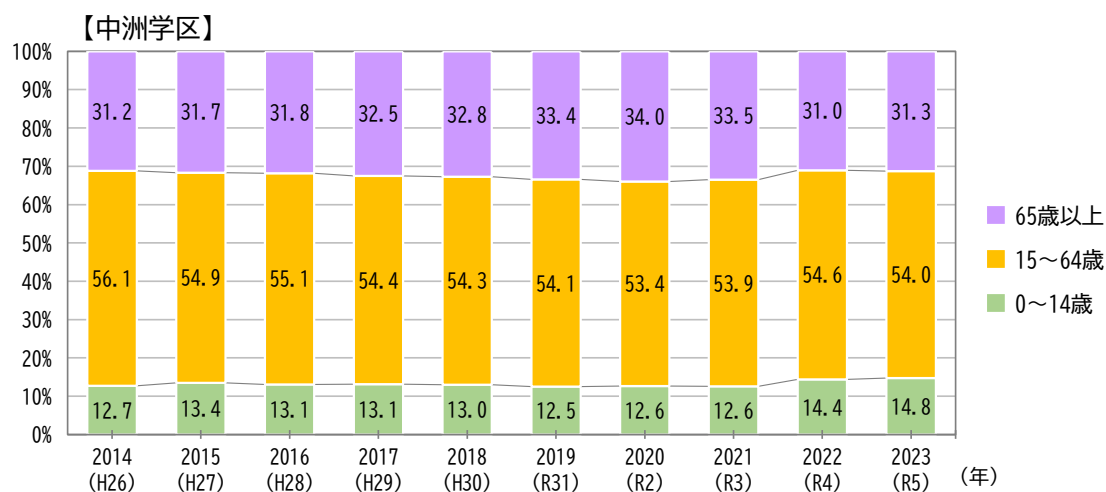


図 88 中洲学区の人口に対する年齢3区分人口の割合の推移

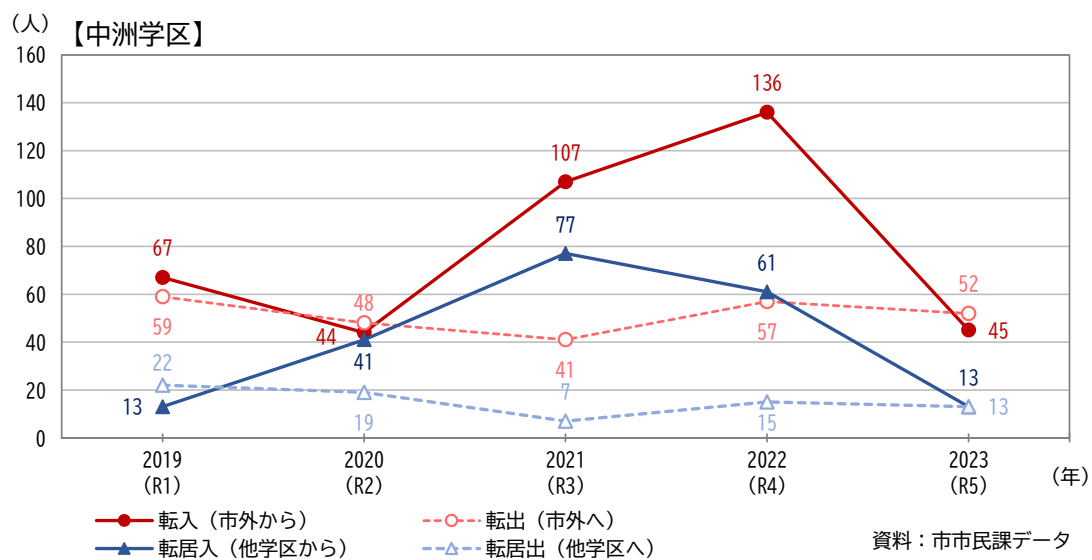


図 89 中洲学区の転出入数・市内転居数の推移

[参考]

人口の変化が地域に影響や社会情勢を示す値など、人口動向や推計結果に関わる項目を、参考資料として以下に示した。

参考1 住宅ストックの状況

- 守山市では、2021 年以降に新規の分譲マンションの供給がない。一方で、草津市では 2021 年まで安定的な着工が継続していた。
- 守山市で販売する中古マンションは、近隣市に比べて築年数が古い傾向がみられる。
- 新築戸建住宅、中古戸建住宅の成約件数は、大津市を除いて近隣市と大きな差はない。守山市で販売する中古戸建住宅は、近隣市に比べて築年数がやや新しい傾向がみられる。

(1) 着工新設住宅の推移

- ・住宅着工統計に基づく、着工新設住宅戸数（総数）は、守山市では 2019 年以降、570～700 戸で推移している。大津市では 2019 年以降、草津市では 2018 年以降増加・横ばい傾向だったが、2023 年は減少している。
- ・一戸建は、守山市は 2018～2021 年は増加傾向だったが、以降減少。大津市、草津市も減少傾向にある。
- ・分譲マンションは、守山市では 2020～2022 年は 0 戸、2023 年は 120 戸。大津市では 2019 年以降増加傾向だったが、2023 年は減少。草津市では 2022 年・2023 年は 0 戸。

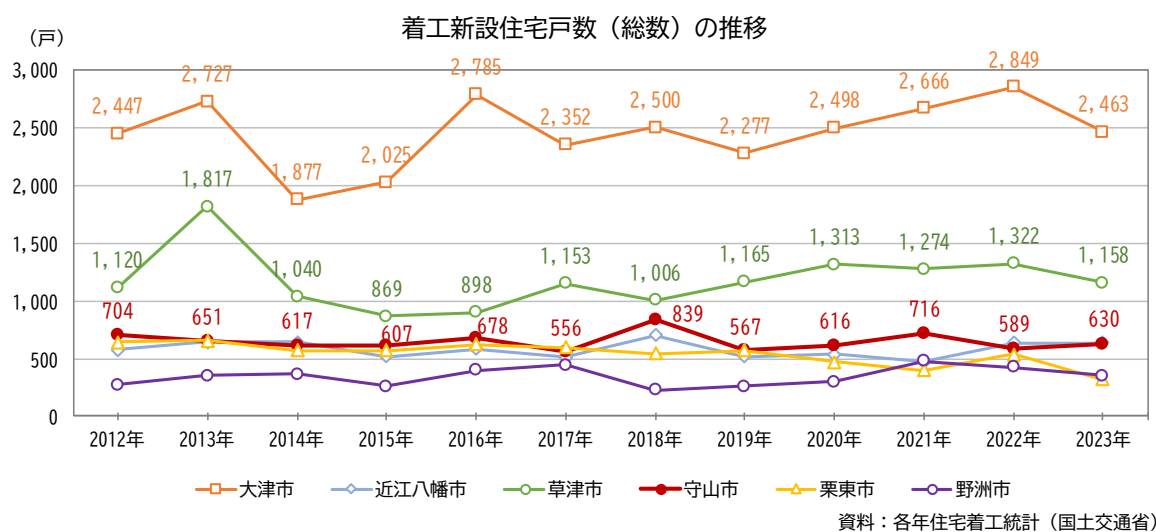


図 90 着工新設住宅戸数（総数）の推移

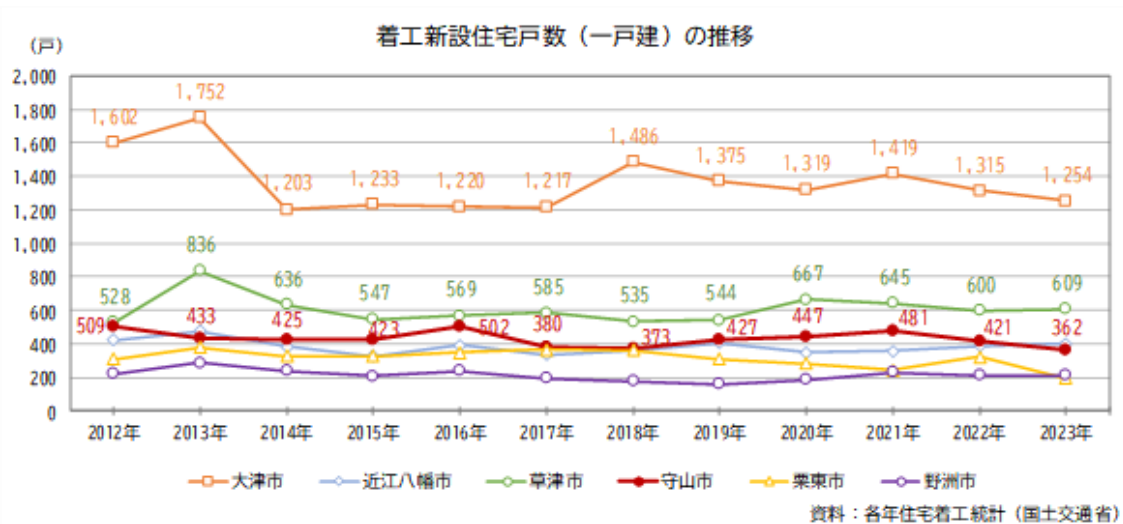


図 91 着工新設住宅戸数（一戸建）の推移

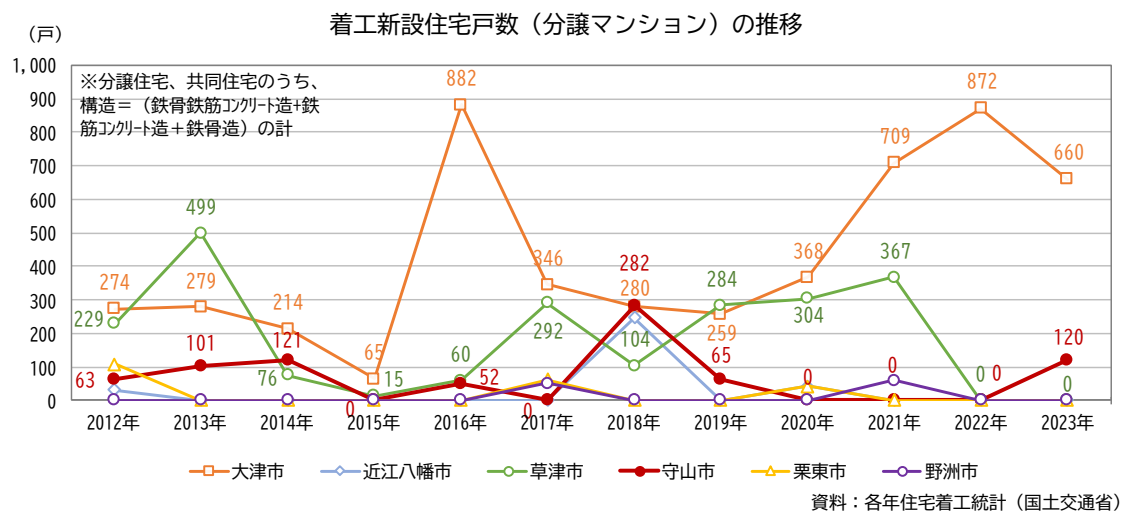


図 92 着工新設住宅戸数（分譲マンション）の推移

- ・市税務課資料に基づく、新たに供給された住宅戸数は、2020 年度をピークに減少。
- ・2023 年度では前年度から 100 戸程度の減少がみられた。2020 年度以降、新規マンションの分譲が止まっていることが要因として考えられる。

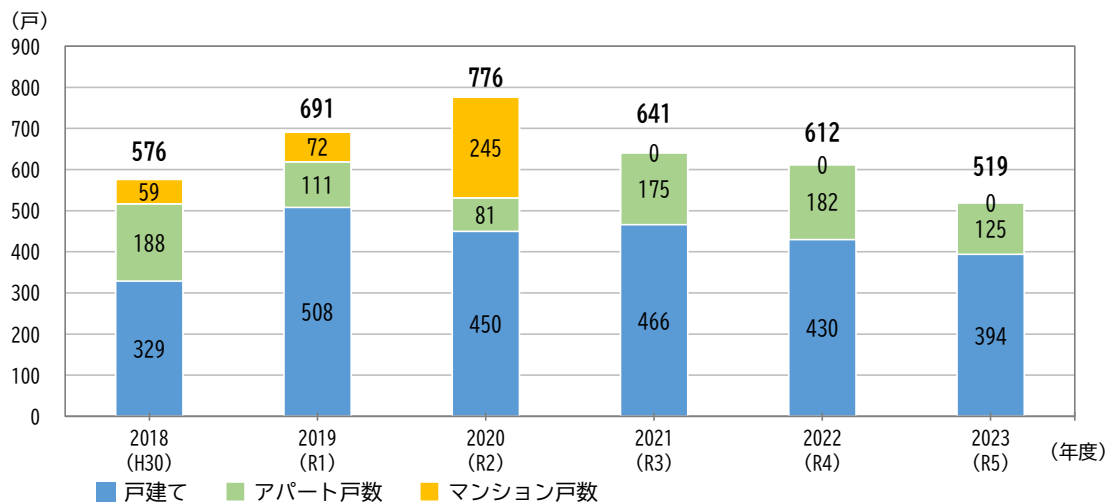
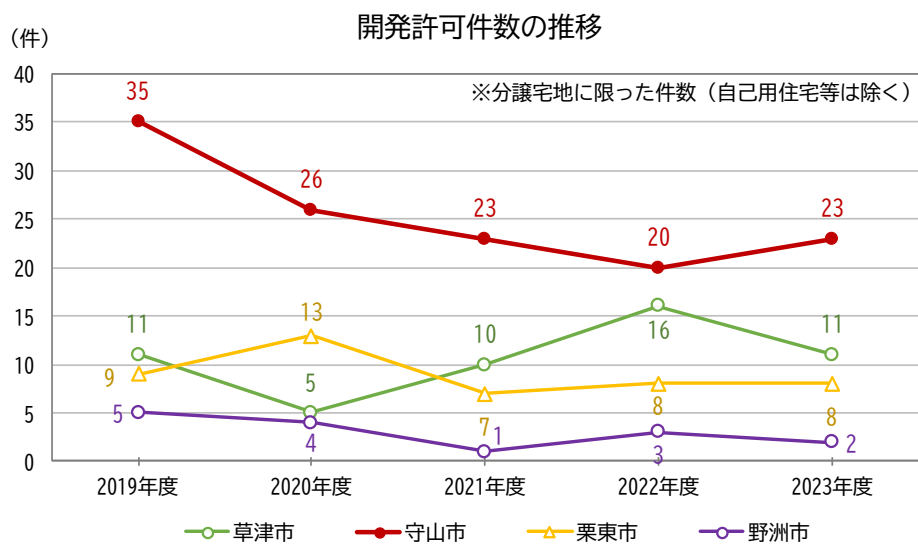


図 93 新たに供給された住宅戸数の推移

(2) 分譲宅地の開発許可件数の推移

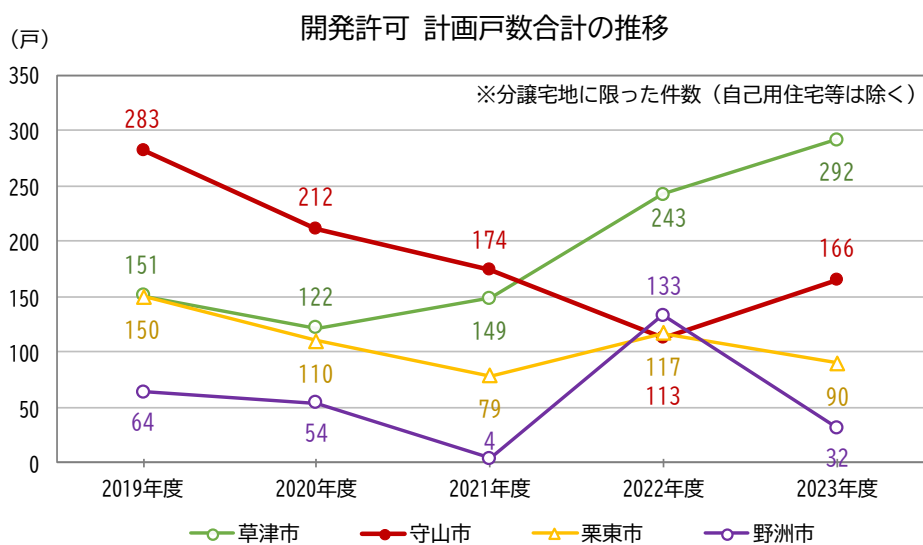
- ・守山市の分譲宅地（自己用住宅等除く）の開発許可件数は、2019～2022 年度まで減少傾向であったが、2023 年度は前年度より増加。近隣市よりも開発許可件数は多い。
- ・守山市の計画戸数合計は、開発許可件数に比例して 2022 年度まで減少傾向であったが、2023 年度は前年度より増加している。
- ・開発許可件数は近隣市よりも多いが、2023 年度の計画戸数合計は、草津市の方が多い。



注) 2023年度は2024年2月末現在

資料：市提供資料

図 94 開発許可件数の推移



注) 2023年度は2024年2月末現在

資料：市提供資料

図 95 開発許可計画戸数合計の推移

参考2 婚姻状況等の推移

- 守山市の未婚率は、滋賀県、全国と比べて低いものの、30 歳以上の未婚率が上昇傾向にあり、婚姻数は近年減少傾向にある。
- 全体と比べて未婚者の方が、完全失業率が高い傾向にある。

(1) 婚姻状況の推移

- ・婚姻数は、2013 年には 446 組であったが、2022 年には 358 組となっており、近年は減少傾向にある（図 96）。
- ・年齢階級別の未婚率は、男女ともに 25～29 歳では 2015 年と比べて 2020 年は微減しているが、他の年代では未婚率が上昇傾向にある（図 97、図 98、図 99）。
- ・守山市の 25 歳以上の未婚率は、滋賀県、全国と比べて低くなっている（図 100）。

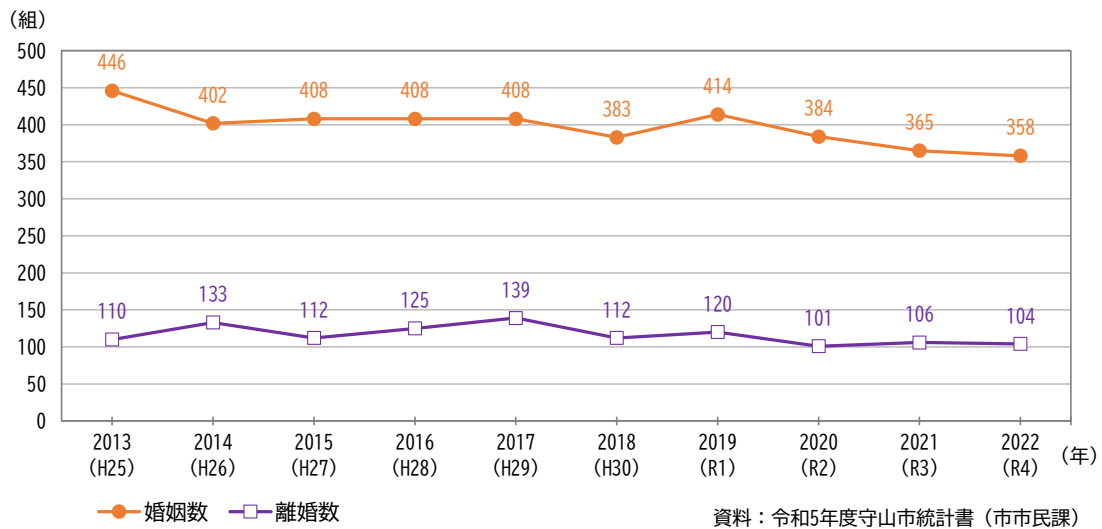


図 96 近年の婚姻数・離婚数の推移

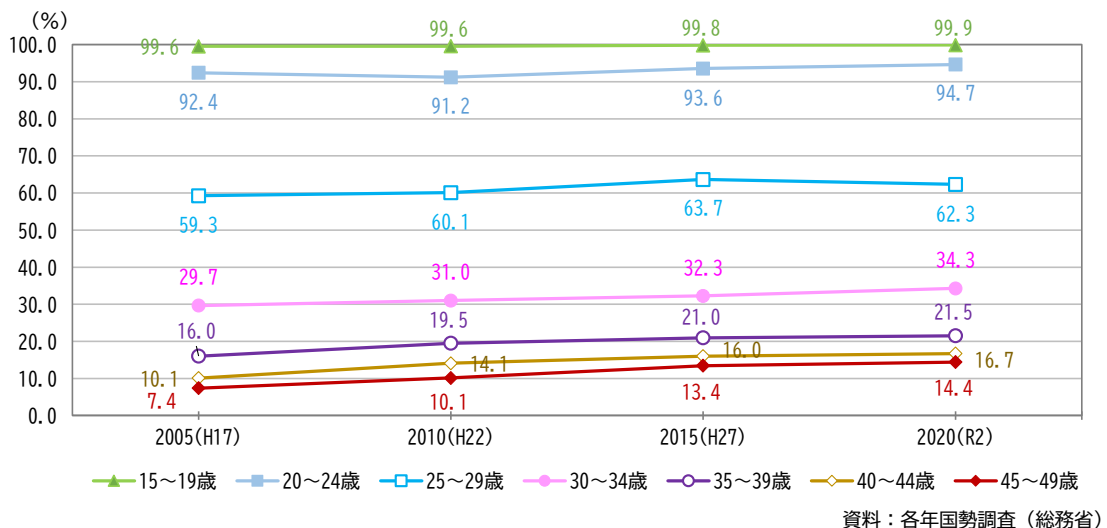


図 97 15～49 歳（総数）の未婚率の推移

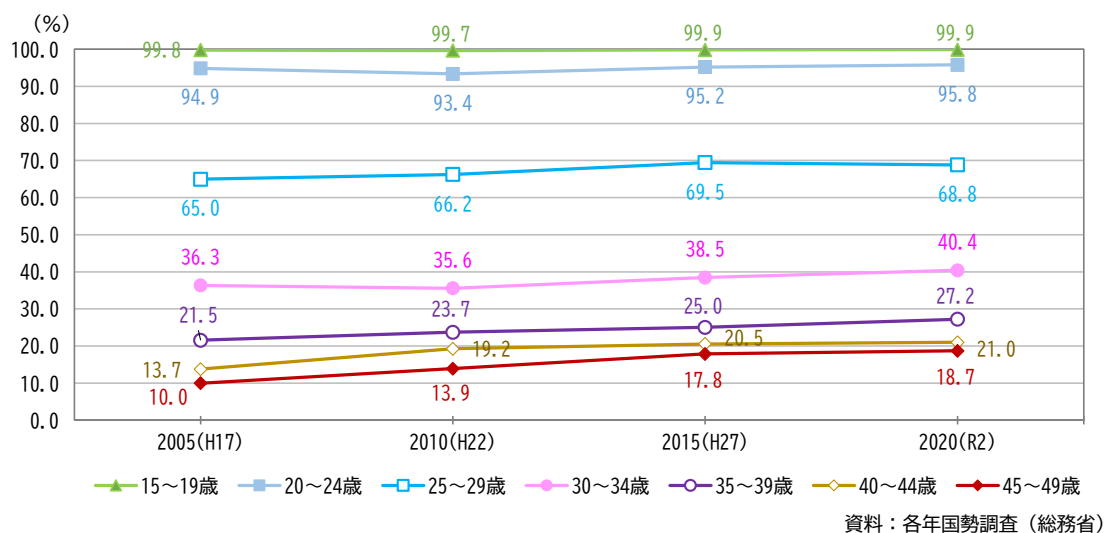


図 98 15～49 歳の男性の未婚率の推移

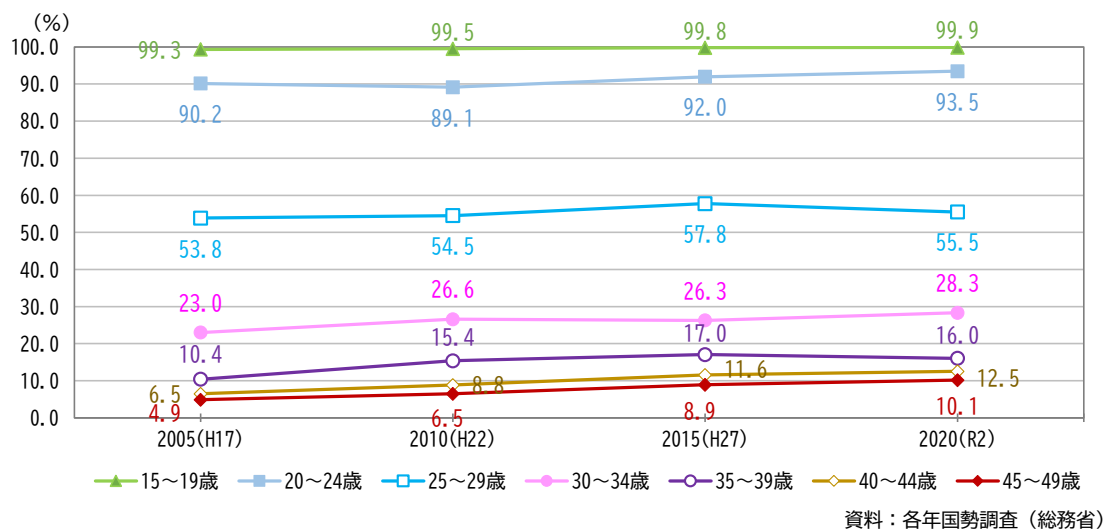


図 99 15～49 歳の女性の未婚率の推移

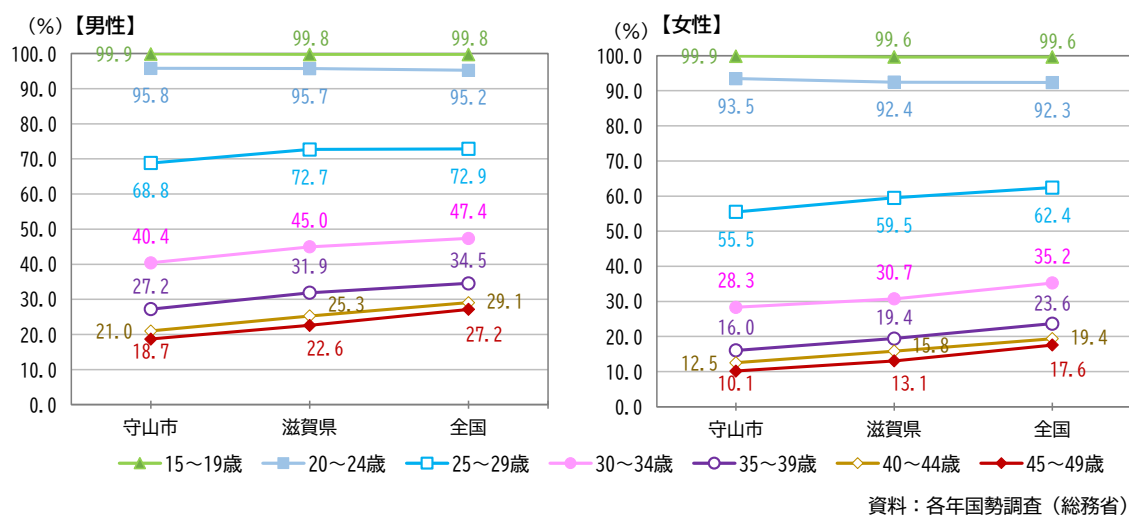


図 100 15～49 歳の未婚率の比較（守山市・滋賀県・全国）推移

(2) 完全失業率の状況

- ・年齢階級別の完全失業率は、どの年代も低下傾向にあるが、男女ともに 25 歳以上では総数に比べて、未婚者の完全失業率が高くなっている。

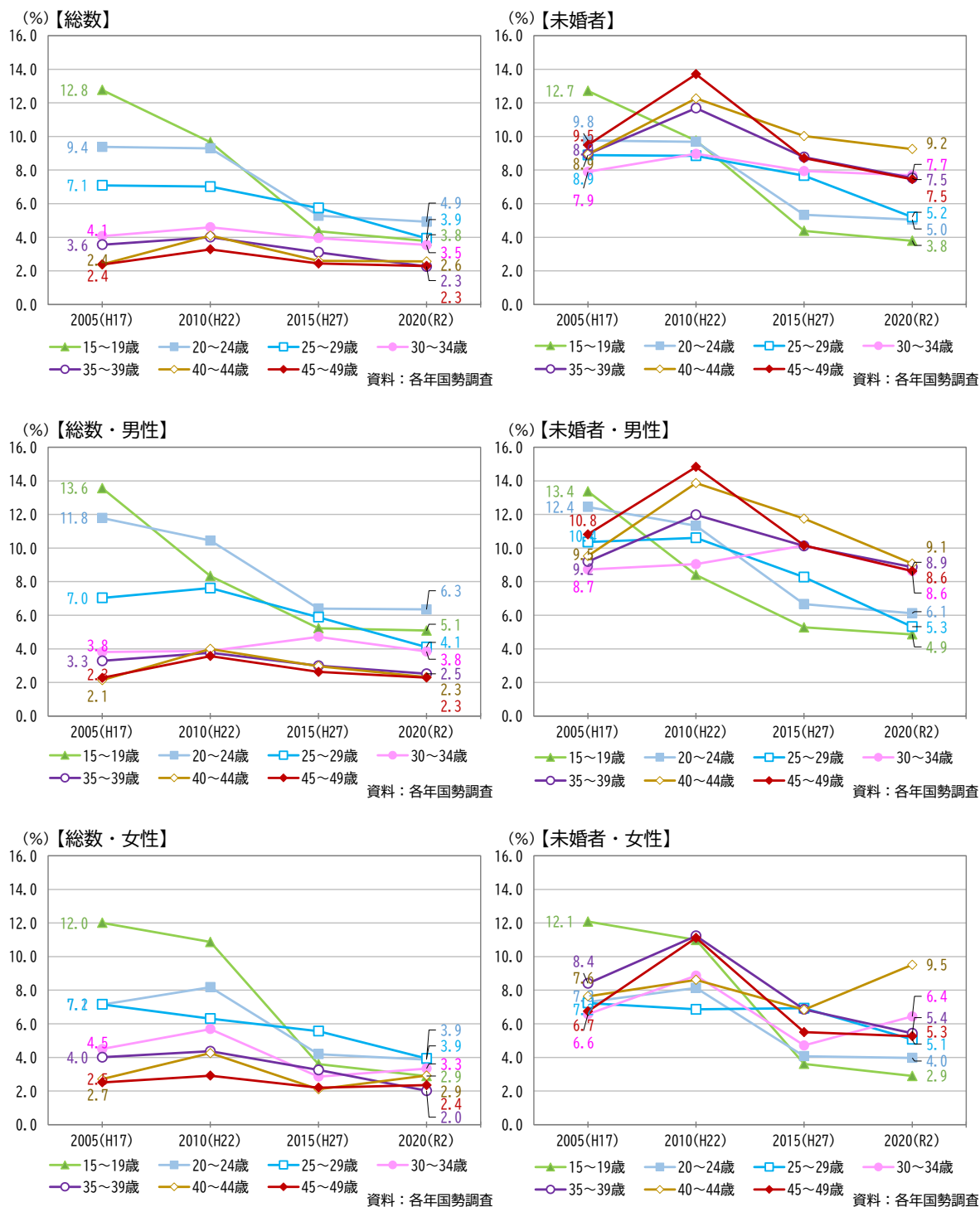


図 101 完全失業率の推移（総数及びうち未婚者）

参考3 守山市及び近隣市の転出入の推移

- 守山市及び近隣市における転入者数の経年変化をみると、極端な変動はないものの、草津市での増加が特徴的。逆に、2022 年から 2023 年にかけて減少にかけての状況では、守山市の落ち込みが大きい。
- 県内移動に着目すると、2022 年から 2023 年にかけて、守山市（減）と草津市（増）で対照的な傾向。
- 湖南地域（4 市）トータルでみると、転入超過ではあるが、2021 年から増加数は横ばい傾向。県内の他地域の社会増加数は減少傾向。

(1) 守山市及び近隣市の転入者の推移

- ・守山市及び近隣市への転入者数は、極端な変動はないものの 2022 年から 2023 にかけて滋賀県全体で減少しており、特に守山市の落ち込みが大きくなっている。一方、草津市では 800 人弱増加している。

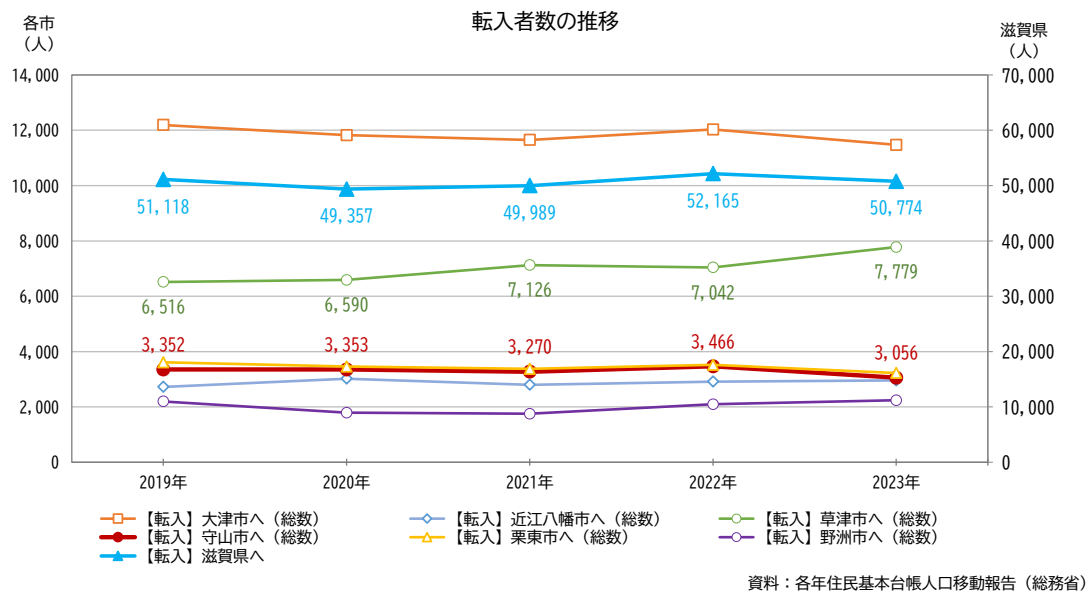


図 102 守山市及び近隣市の転入者の推移

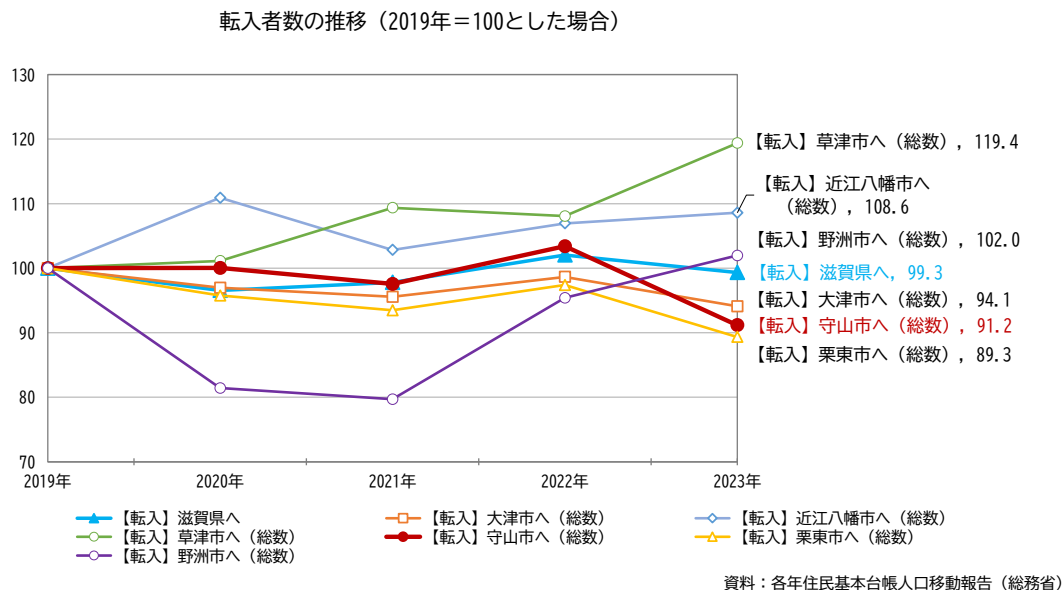


図 103 守山市及び近隣市の転入者の推移 (2019 年=100 とした場合)

- ・ 県内他市町からの転入者数をみると、2022 年から 2023 年にかけて守山市では約 400 人減っているが、一方、草津市では約 400 人増えているという対照的な傾向がみられる。

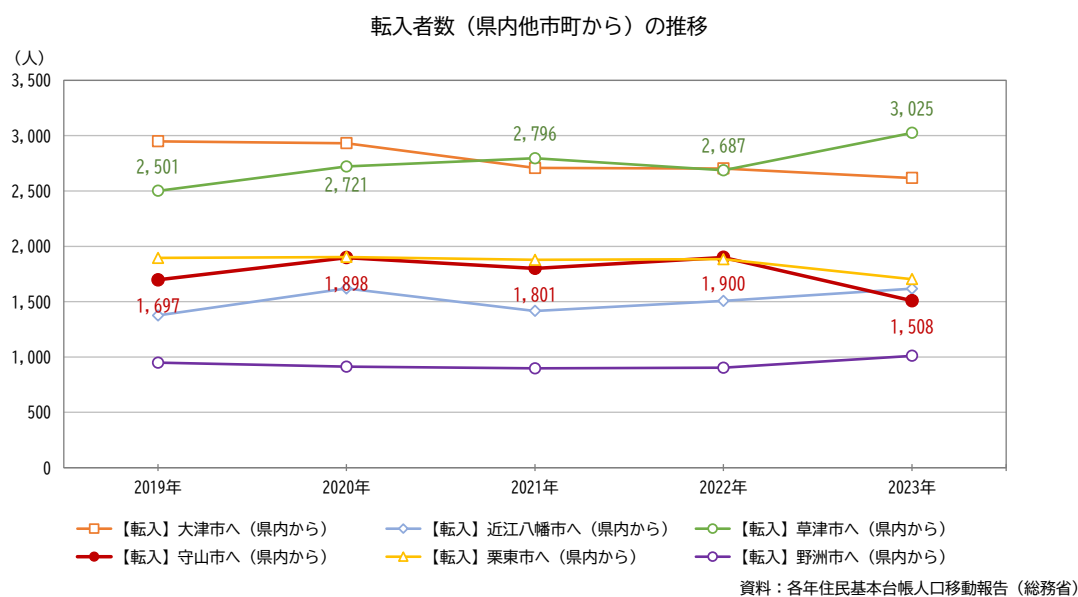


図 104 守山市及び近隣市の県内他市町からの転入者の推移

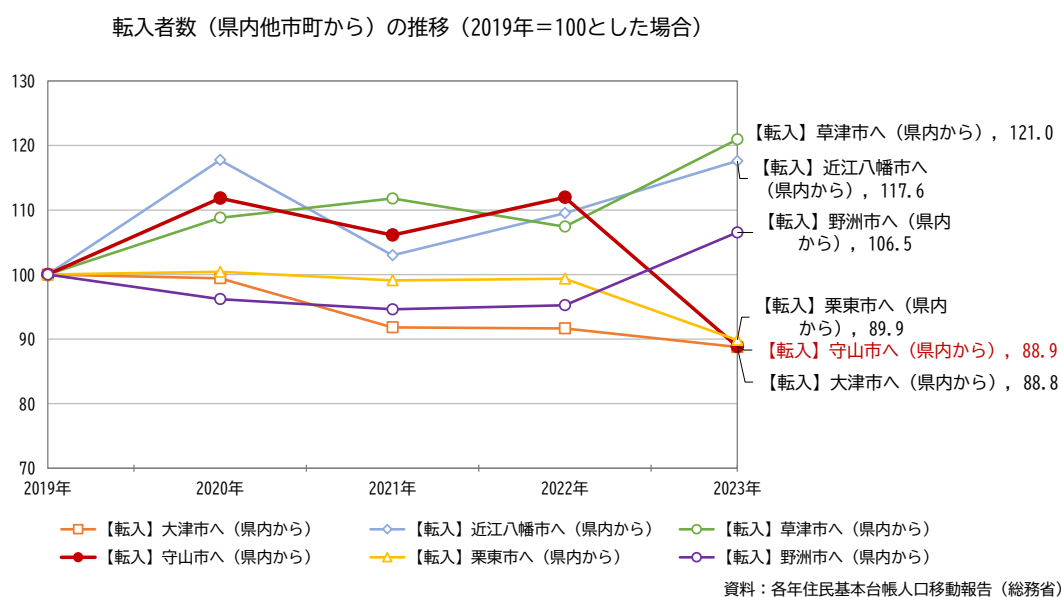
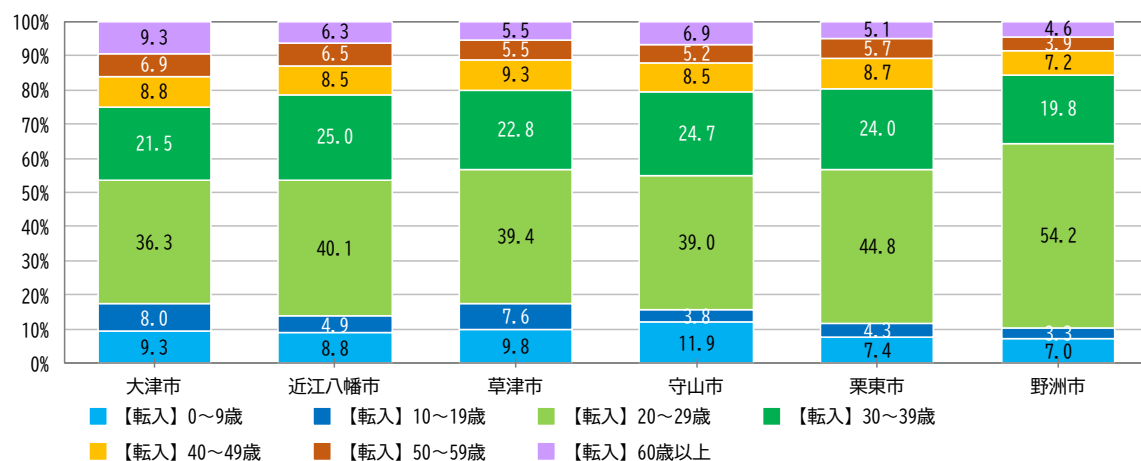


図 105 守山市及び近隣市の県内他市町からの転入者の推移（2019 年＝100 とした場合）

(2) 守山市及び近隣市の転出入割合の状況

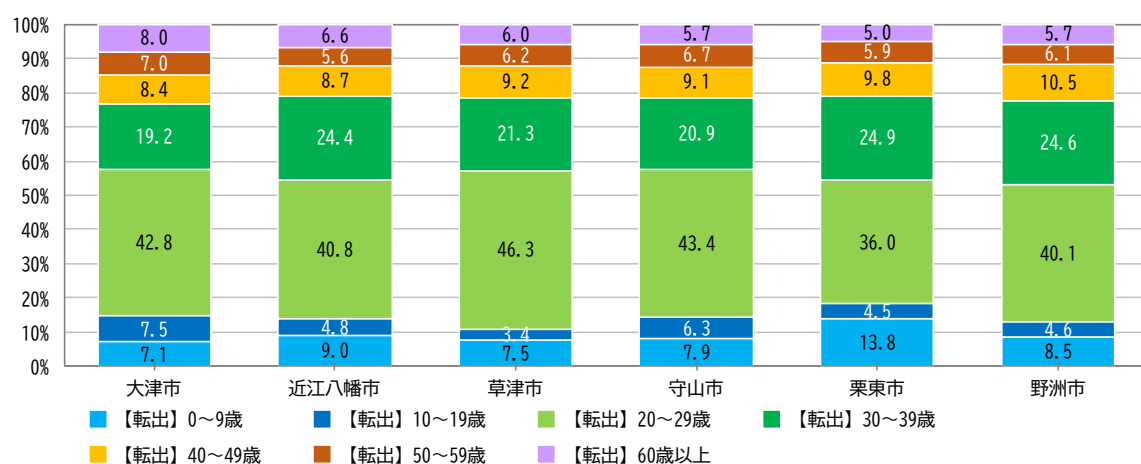
- ・ 守山市及び近隣市の 2023 年の年代別転出入の割合をみると、各市とも 20 歳代の割合が高く、次いで 30 歳代が多くなっている。
- ・ 2023 年の県内・県外別転入者の割合をみると、守山市では県内からと県外からがほぼ半々となっているが、草津市では県外からの転入が 6 割を占めている。

2023年 転入者の年代別割合



資料：各年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

2023年 転出者の年代別割合



資料：各年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 106 守山市及び近隣市の 2023 年の転出入の年代別割合

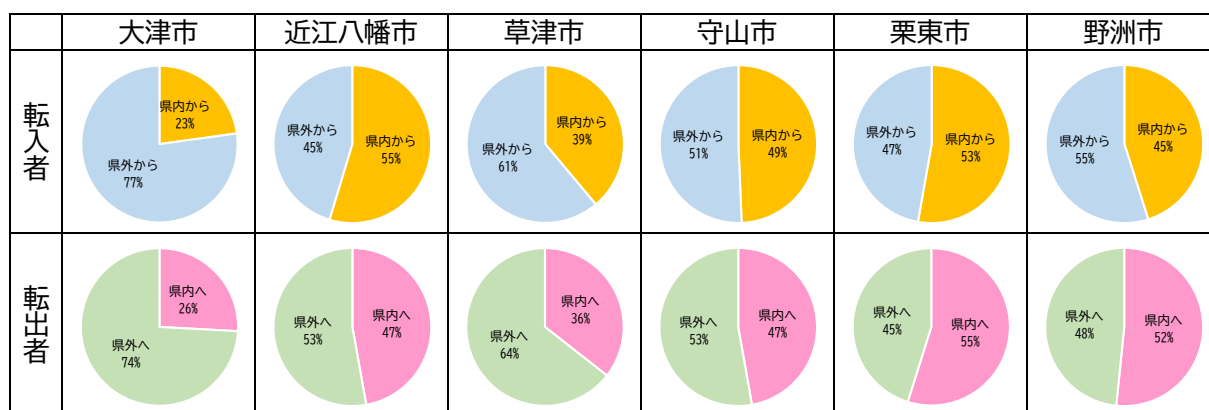
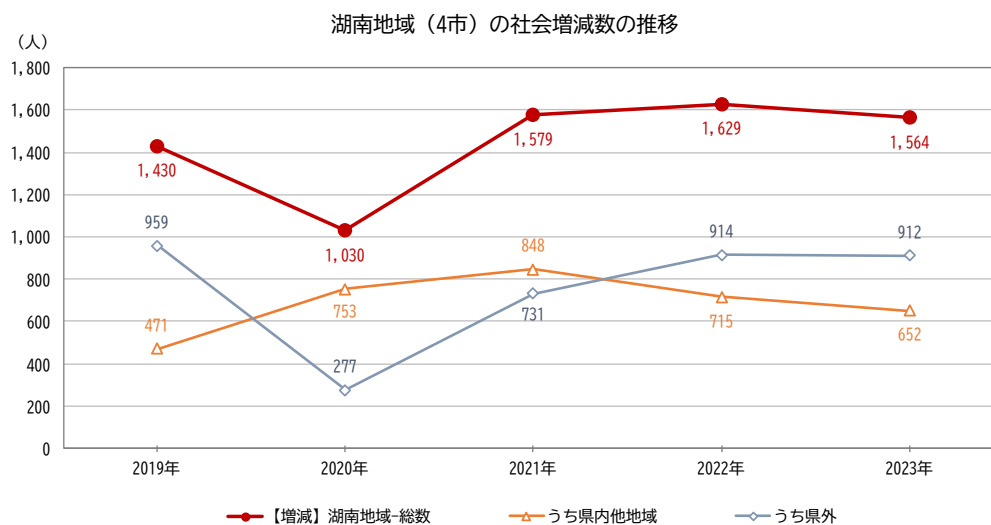


図 107 2023 年の近隣市の転出入者の割合

(3) 湖南4市（守山市・草津市・栗東市・野洲市）全体の社会増加数の推移

- ・湖南地域（4市）トータルの社会増加数は、転入超過ではあるが、2021年から増加数は横ばい傾向となっている。
- ・うち県内の他地域（県内他地域から転入・県内他地域へ転出）の社会増加数は、減少傾向にある。



資料：各年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

図 108 湖南4市全体の社会増加数の推移